

前段記載ト同一ノ事實及出火アリタル後被告宅ニ至リシ事實ニ止アリ第三十歳未満ナル小兒熊谷仁平ノ申立ニシテ信スルニ足ラス第四八證人熊谷友吉カ豫審ノ申立ヲ引用シタルナレトモ個ハ放火ノ事實ニ直接ノ關係ナシ第五八熊谷シケノ豫審調書ニシテ是又友吉ノ申立ト同一ナリ第六八巡查伊藤清之進カ作リタル檢證書ニシテ被告ニ何等ノ關係ヲ有セス第七八玉置平助ノ豫審調書ナレトモ本件ニ必要アルモノニアラス斯ノ如ク薄弱ナル事實ヲ捕ヘ來ツテ被告ニ尤モ刑ノ極點ナル放火犯ノ所爲アリトシタルハ審理ヲ誤リタル輕忽ノ裁判ナリト謂ハサルヘカラス而シテ被告カ友吉方ニ至リ云々シタルハ自ラ認ムル所ナリト雖モ個ハ留守中物品ノ紛失シタルヲ妻ナル者ニ問ヘツナカ知ラヌト答ヘタルヨリ聊カ口論ニ涉リタルニ過キス而シテツナカ豫審ノ申立ニモ是迄夫婦間ニ爭論杯シタル事ナシトアリ然レハ其時ノ事柄ハ相互ノ間ニ甚シキ惡感情ヲ引起スノ原因トナル程度ニ達セス何人ト雖モ平素ヨリ得ヘキ些事ナリトス亦ツナカ尤モ被吾ノ不利益ニ申立タル中ニモ燒失ノ當時自宅ノ戸締ニモ注意セス泥醉横臥シ居リツナノ來リシモ知サラル事實アリ然レハ此場合ニ四丁餘ノ距離アル友吉ノ宅邊ニ往來スルノ暇ナク亦火事ノアリタルモ知ラサルハ當然ノ事ナリ然ルチ友吉等一家ノモノカ擧テ被告ノ不利益ヲ申立タル事情ヲ今日ヨリ推定スレハ被告ノ毫モ心付カサル間ニ他ニ計ル所アリテ分離スルノ念ヲ生シ陷害スルノ手段ヲ施シタルモノナル可シ否ラサレハ是今無事平穩ナル夫婦ノ間ニ於テハ警配偶者ニ失誤アリトスルモ之レヲ秘スルハ情ノ然ラシムル所ナリ亦友吉及シケハツナノ父母ニシテ現實配偶者ノ親族タルニ

七四

モ拘ハラス違法ニ證人トシタルノ申立ヲ採リテ斷罪ノ證トシタルハ不法ヲ免レサルモノト思量スト云フニ在レトモ○記録ニ徵スレハツナハ被告ノ内縁ノ妻ナルハミニシテ未ダ入籍シタルモノニアラサルヲ以テツナノ父母タル友吉シケハ法律上親族ナリト云フヲ得サルニヨリ同人等ヲ證人トシテ訊問シタル調書ヲ罪證ニ供シタルハ違法ニアラス其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨判斷ニ對スル批難ニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

七五

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年四月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

公史侮辱事件

明治三十五年(レ)第五七八號  
明治三十五年四月十五日判決

(棄却)

判決要旨

侮辱トハ誹毀ト罵詈トヲ意味スルノ法語ナリトス從テ公吏ノ職務ニ對シテ罵詈ヲ加ヘタルトキハ侮辱罪ヲ構成ス

說明

侮辱ノ何モノタルヤニ付テハ本誌第十二卷第四號紙上ニ於テ説示シタルヲ以テ左ニ之レヲ摘出スヘシ

侮辱ノ意義

侮辱。侮辱トハ一定ノ敬禮ヲ守ルヘキ者カ直接ニ被害者ニ向テ被害者カ犯人ニ對シ有スル所ノ品格又ハ聲譽ヲ毀損スルノ行爲ヲ云フ。今是レチ分拆スルトキハ以下ノ特質ヲ有ス(一)侮辱ハ直接ニ被害者ニ向テ其ノ體面ヲ毀損スルノ行爲ナルカ故ニ第三者其ノ間ニ在シ之ヲ知スルト否トハ一般ノ品格又ハ聲譽ヲ毀損スルノ行爲ニ及サズ(二)侮辱ハ被害者カ犯人ニ對シ一般ノ特別ノ敬禮ヲ守ルルニ要ス(三)侮辱ハ犯人カ被害者ニ對シ身カ不法ノ行爲ニ出ツルコトヲ要ス(四)侮辱ハ被害者ニ向テ露骨的行爲ヲ加フルヲ以テ足ル。

以テ侮辱ノ何モノタルト本判決ノ基本ヲ了知スヘキナリ

第一審 德島地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
被告人 佐藤 松太 辯護人 花井 卓藏

右公吏侮辱被告事件ニ付明治三十五年二月二十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
辯護人花井卓藏ノ擴張書第二點ハ惡口ハ罵詈ニシテ侮辱ニモ又誹毀ニモアラス而シテ本件ニ於ケルドロボロ云々ノ言辭ハ所謂惡口ニシテ法律上罵詈罪ヲ構成スヘキモノトス而シテ普通ノ罵詈ト雖モ官吏公吏ノ目前ニ於テスルトキハ忽チ侮辱罪ト變化スヘキ道理アルコト

ナシ然ラハ本件ハ刑法第四百二十六條第十二號ニ該當スヘキモ被害者ノ告訴ナキヲ以テ罪ヲ免スヘキ筋ナルニ同法第四百一十一條ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アル者ト信スト云フニ在レトモ○侮辱トハ誹毀ト罵詈トヲ意味スル法語ナルヲ以テ罵詈ニシテ公吏ノ職務ニ對シテ爲シタルモノナル以上ハ公吏侮辱罪ノ成立スルコト勿論ナリ其第三點ハ刑事訴訟法第二百六十一條ハ控訴ノ理由アル場合ト否ラサル場合トヲ相共ニ規定セリ而シテ控訴ノ理由ナキ場合ハ同條第一項ヲ適用シ控訴ノ理由アル場合ニハ同條第二項ヲ適用スヘキモノトス本件ハ控訴理由ナキモノトシテ控訴ヲ棄却シタルモノナルニ付同條第一項ノミヲ適用スヘキモノナルニ原判決方同條第一項第二項ヲ併セテ適用シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○控訴ノ理由ナキコトヲ判示シテ刑事訴訟法第二百六十一條ヲ適用スルニ於テハ其第一項ヲ適用シタルモノナルコト自ラ明瞭ナルヲ以テ本論旨モ亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年四月十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

冒認及附帶私訴事件

明治三十五年(七)第五六二號  
明治三十五年五月六日判決 (破毀)

判決要旨

一、華押ハ捺印ノ一種ナリ從テ刑事訴訟法第二百十條ニ所

華押ノ性質○犯罪手段タル土地賣買ノ登記

謂捺印中ニハ華押ヲ包含ス  
 二名ハ土地賣買ナルモ其實犯罪ノ手段タルニ於テハ其賣  
 買ハ絶對ニ無効ニシテ民法上何等ノ效力ヲ生スルモノ  
 二非ス從テ此無効ノ賣買ニ基キ爲サレタル登記モ亦無  
 效ナリトス

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 公判始末書ハ判決官渡ヨリ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ(裁判長ハ署名捺印セザ

ル以前ニ公判始末書ヲ檢閱シ若シ意見アルトキハ其紙尾ニ記載ス可シ(刑事訴訟法  
 第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
 公訴上告人 島彌七郎  
 私訴上告人 和野充安  
 辯護人 高木益太郎  
 私訴被上告人 山田政吉  
 訴訟代理人 牧野充安

右彌七郎ニ對スル冒認被告事件ニ付明治三十四年十月二十一日又同事件ニ附帶セル私訴ニ  
 付明治三十五年二月十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決中被告彌七郎ハ公訴ノ判決ニ  
 對シ民事原告人和田熊次郎ハ私訴ノ判決ニ對シ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八

十三條ノ式ニ履行シ審理ヲ遂シル處ニ於テイハ意圖ニ違背スルモノモ裁判長磯部醇氏ノ名下  
 辯護人高木益太郎ノ同追加辯明書於原院第一回公判始末書ニ見ルニ裁判長磯部醇氏ノ名下  
 ニハ押印セズシテ華押ヲ爲シテ刑事訴訟法第三百十條ニ違背スルヲ以テ右始末書ニ無  
 効ノ書類タルヲ免カシメ(明治三十三年(オ)第六百十二號三十四年五月二十九日第三民事  
 部判決) 既ニ第一回公判始末書ニシテ無効ナル以上其公判ハ適法ニ裁判所ヲ構成シタル  
 モシト認ムルヲ得サルヲ以テ而シテ證人申島鐵次郎須藤卯八等ノ証問ハ右第一回公判ノ際爲  
 シタル證據決定ニ基キ之ヲ取調ヘタル後ニシテ第一回公判ニシテ無効ニ歸スル以上ハ其  
 決定ニ基キ取調ヘタル證人ノ陳述モ亦無効ニ歸スルニ至ラズ然ルニ原判決カ其供述ヲ證  
 據列記ノ部ニ掲ゲタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リトモ(吾國ノ慣例上華押モ亦捺印シ  
 一ナレハ刑事訴訟法第二百十條ニ所謂捺印中ニハ華押ヲ包含スルモノト解釋セサルヲ得ズ  
 故ニ本論旨モ亦理由ヲシテ告人及辯護人ノ陳述モ亦無効ニ歸スルニ至ラズ然レバ山田政吉及  
 私訴上告人和田熊次郎代理人牧野充安以上告趣意擴張書ハ第三點止告人ハ本件係争不動産  
 ヲ明治三十五年十月被止告人長島彌七郎ヨリ買受タルモノニシテ眞實ノ所有者ナルコト  
 ハ原判決ニ確定セリ所ナリ被止告人長島彌七郎同山田政吉間ニ於テ明治三十三年十一月  
 ノ賣買カ犯罪行爲ナルハ是亦原判決ニ確定セリ所ナリ本件ノ事實ハ左ク如ク而シテ犯  
 罪行爲ヲ法律行爲ト相容シサレハ其行爲カ犯罪行爲ト同時ニ何等カ效力ヲ生ズルモノ  
 ナラズ冒認販賣ノ被害者ハ其犯罪行爲ヲ爲シタル賣買ノ買主ナルニ非ズ法則旨誤演繹シ認メ

華押ノ性質○犯罪手段タル土地賣買ノ登記

レタル法則ヲ無効ノ行為ニ因リ其所有者カ所有權ヲ失フニ理由ナク又無効ノ行為ニ因  
 リ所有權ヲ獲得スルモノ存スルノ理由ナク右ノ法則ニ依リ被上告人間ノ賣買カ犯罪行為即  
 チ無効行為タルハ被上告人山田政吉カ所獲權ヲ獲得スヘキ理由ナク又上告人カ所有權ヲ失  
 フノ理由ナク本件犯罪行為ニ因リ直接ニ損害ヲ受ケルモノハ其犯罪行為ニ關與シタル當事  
 者即チ被上告人山田政吉ニシテ犯罪行為ニ與ラサル上告人カ害ヲ受ケヘキ筈ナシ然ルニ原  
 判決カ「政吉カ此登記名義者タル彌七郎ヨリ買受ケテ登記シタル行為ハ有效ナラトス」ト  
 說示シテ眞ノ所有者タル上告人カ係争不動産ノ所有權ヲ失却シ被上告人山田政吉カ犯罪行  
 爲ニヨリ所有權ヲ獲得スヘキモノト判定シタルハ前示ノ法則ニ違背シタル判決ナリ」第二  
 點原判決ニ說示シタル「政吉ハ賣買ノ登記ト同時ニ等ク其賣買ハ第三者タル被控訴人(上告  
 人)ニ對抗スルコトヲ得ルモノナレハ」ノ文詞ハ其趣旨不明確ナルモ民法第七十七條ニ  
 據リ上告人ハ第三者タル被上告人ニ對抗スルヲ得サルモノナリト云フ趣旨ナラシカ(第  
 三者ヲ誤テ其地位ヲ轉倒シタルモノ)之レ民法第七十七條ノ適用ヲ誤リタル判決ナリ何  
 トナレハ(第二)同法ハ適法ノ行為ニ因リ二個ノ物權相競合シテ生シタル場合ニ其對抗力ヲ  
 定メタルモノニシテ犯罪行為ノ場合ヲ規定シタルモノニアラザレハナリ之ヲ詳說セハ二個  
 ノ有效ナル行為ニ關シ其權利ノ牴觸ニ付定メタルモノニシテ無効行為ハ初メヨリ他ノ權利  
 ニ牴觸ヲ生スルコトヲ以テ何等ノ規定ヲ要セザルナリ(第二)登記ハ權利得喪ノ原因ニ  
 アラザレハ賣買ハ無効ナルモ登記ハ有效ナリトノ意義ニ解釋スルヲ得ス登記ノ有效ナルニ

ハ必ス賣買ノ有效ヲ主張セサル可ラス登記ノ有效ナル前提トシ其賣買ノ效力ヲ認メ  
 トスルカ如キハ不合理ノ極ニシテ同條ノ法意ニ違背セルモノナリ一第三點原判決ニ說明ス  
 ル所ハ一、被上告人山田政吉カ所有權取得ノ登記カ有效ナルコト二、右登記ト同時ニ其賣  
 買カ上告人ニ對シ主張スルコトヲ得ト云フニ在リ然レトモ何故ニ(一)犯罪行為ナル賣買ノ  
 登記カ有效ナルヤ(二)公示方法ナル登記カ犯罪行為タル賣買カ有效ナラシムル效力アルヤ  
 ノ理由ヲ示ササルハ原判決ノ趣旨ヲ解スル能ハサルナリ而シテ上告人ハ一、賣買カ犯罪タ  
 ル場合ニハ其登記ハ無効ナリ(適法原因ナケレハ登記ハ無効ナリ)二、公示方法タル登記ハ  
 以テ所有權取得ノ適法原因タラスト信ス即チ原判決ハ理由不備ニシテ且ツ上告人ノ信スル  
 法則ニ違背セルモノナリト云フニ在リ○因テ按スルニ名ハ土地賣買ナルモ其賣買ノ手段  
 タルニ於テハ其賣買ハ絶對ニ無効ニシテ民法上何等ノ效力ヲ生スルモノニアラス既ニ賣買  
 ニシテ絶對ニ無効ナラシカ其登記ノ有效タルヘキ謂ハレナシ然ルニ原院ハ被上告人間ノ賣  
 買ハ其一方ノ冒認罪ヲ犯ス手段タルコトヲ認メナカラ其登記ヲ以テ有效ト爲シ上告人ハ自  
 己ノ所有權ヲ主張シテ其登記ノ取消ヲ求ムル權利ナキ旨ヲ說示シ上告人ノ請求ヲ棄却シタ  
 ルハ不法ニシテ上告ハ其理由アリ既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル以上其他ノ上告趣意ニ  
 對シ逐一説明ヲ付スルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公訴上告ハ之ヲ棄却シ同法第二  
 百八十七條ニ從ヒ私訴判決ノ全部ヲ破毀シ原院ニ於テ認メタル事實ニ依リ本院ニ於テ直ニ

判決スルコト左ノ如シ  
私訴上告人 和田熊次郎  
長島彌七郎

被上告人等ハ京都市上京區大宮通一條上ル西入榮町六百五十番地宅地百十八坪三合七勺及  
同町六百五十二番地宅地六十五坪二勺ノ地所有權ヲ被上告人彌七郎ヨリ被上告人政吉  
ニ移轉シタルニテ登記ヲ取消ス可シ  
私訴費用ハ被上告人等ノ連帶負擔トス  
明治三十五年五月六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

兇徒聚衆治安警察法違犯官吏抗拒事件

明治三十五年(七)第六九六號  
明治三十五年五月十二日判決 (破毀)

判決要旨

- 一 兇徒嘯集罪ハ多衆カ共同ノ意思ヲ以テ暴動行爲ヲ爲ス
- ニ 依テ成立ス從テ多數ノ人カ現ニ暴動行爲ヲナスモ意  
思ノ合同ナキトキハ本罪ヲ構成セス
- 二 當初平穩ナル多衆ノ集合ト雖モ後ニ至リ其ノ集合團體

一部ノ意思カ暴動ヲナスコトニ一變シ共同シテ暴動  
行爲ヲナシタルトキハ之レニ干與シタル者ハ兇徒嘯集  
罪ヲ以テ論スヘキモノトス

說明

本件ハ有名ナル鑛毒事件ニ關シ起リタル兇徒聚衆事件ニ對スル大審院ノ  
判決ニシテ左ニ之レヲ摘出シテ說明ニ代ヘシ  
刑法第三百三十七條ノ兇徒聚衆罪ハ多衆カ現ニ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ  
又ハ町村ヲ騷擾シ其ノ他暴動ヲナシタルコト、其ノ暴動ハ多衆共同ノ意思  
ニ基クコトニ依リテ成立スルヲ以テ多數ノ人カ是等暴動行爲ヲ爲スモ其  
行爲タル個々別々ニシテ暴動者間ニ意思ノ合同ナキトキハ其ノ行爲ハ他  
ノ刑名ニ觸ル、トアルモ兇徒聚衆罪ヲ構成セス然レトモ暴動ノ意思ハ必  
スシモ其ノ集合ノ初メニ於テ存在スルコトヲ要セス即チ多衆カ暴動ヲ爲  
スノ目的ヲ以テ集合シタルニアラス又集合當時ニ於テ多衆間ニ何等暴動  
ヲ爲スノ意思ナシトスルモ其後ニ至リ其間ニ暴動ノ意思ヲ生シ共同シテ  
暴動ヲナシタルトキハ兇徒聚衆罪ハ完全ニ成立スヘシ從テ其ノ根原ニ於  
テ平穩ナル多衆ノ集合ト雖トモ多衆ノ意思如何ニ依リ何時ニテモ之レヲ



ハ巡查庄子深五郎ニ命シ野口春藏ノ進行ヲ止メ其馬衝テ押ヘ強テ馬上ヨリ引下シ續テ官吏ノ職務執行ニ抗拒シタルトテ川島民八漆原慶治小野熊次郎ノ三名ヲ捕ヘテ署内ニ引致シタルヨリ一場ノ紛擾ヲ來シ被告人等ノ一行中警察官ノ制止ヲ排斥シテ多數一時ニ門内ニ進入シ來リ引致シタルモノヲ返セト迫リ警察官ニ於テモ遂ニ其求メテ容レテ引致シタルモノヲ返還スルニ至リタルコトハ之ヲ事實ナリト認ム」ト記述シ尙被告等カ川俣村ニ於ケル行動ヲ叙スルニ當リ「川俣村ニ於テ被告人等ノ一行カ荷車二輛ニ各舟ヲ載セタルモノヲ挽キ道ヲ開ケト大聲疾呼シツツ進行シ同村人家附近ニ於ケル警察官ガ警戒線ニ近キタル處無端茲ニ衝突ヲ惹起スルニ至リタルコトハ之ヲ認メタリ」ト記述セリ原判決ハ右事實ヲ認メテカラ邑樂郡役所ニ於ケル行動ニ關シテハ「暴動行為ヲ以テ目スヘキモノニ非ス」ト論斷シ館林警察官ニ於ケル行動ニ關シテハ「直ニ之ヲ以テ暴動行為ト謂フヘカラス」ト論斷シ川俣村ニ於ケル行動ニ關シテハ「暴動行為ト認ムルヲ得ス」ト論斷シ之ヲ以テ被告人等ヲ無罪ト爲スノ理由トセリ按スルニ右判文ニ「暴動行為ヲ以テ目スヘキモノニ非ス」「直ニ之ヲ以テ暴動行為ト謂フヘカラス」「暴動行為ト認ムルヲ得ス」トアルハ法律上行爲ノ内容カ刑法第百三十七條ニ規定シタル暴動ニ該當セストノ意ナラン然ルニ原判文ニ認メタル邑樂郡役所ニ於ケル行動ハ多衆カ現ニ郡衙ニ進入シテ暴言ヲ放テタルモノニシテ刑法百三十七條ニ示ストコロノ官廳ニ喧鬧スルノ行爲タルコト明ナリ又原判文ニ認メタル館林警察署ニ於ケル行動ハ多衆カ警察官吏ノ制止ヲ排斥シテ強テ官衙ニ進入シ且警察官吏ニ迫リテ犯罪スルトシ

五四

テ引致セラレタル者ヲ取還シタルモノニシテ刑法百三十七條ニ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ其他ノ暴動ヲ爲シタル者トアルニ該當スヘキヤ勿論ナリ又原判文ニ認メタル川俣村ニ於ケル行動ハ多衆カ現ニ職務ヲ以テ途上ヲ警戒シタル警察官吏ニ對シテ道ヲ開ケト大聲疾呼シ進テ之ニ衝突シタルモノニシテ刑法百三十七條ニ所謂官吏ニ強逼スルノ行爲又ハ其他ノ暴動中ニ入ルヘキモノナリ以上開陳スルカ如ク原判決ニ認メタル邑樂郡役所、館林警察署並ニ川俣村ニ於ケル行爲ノ内容ハ總テ刑法百三十七條ニ示ストコロノ暴動ニ該當ス然ルニ原判決カ之ヲ暴動行為ニ非スト論斷シテ被告人ニ對シテ無罪ヲ言渡スノ理由ト爲シタルハ失當ナリト思量スト云ヒ其第二ハ前段陳述スルカ如ク原判決ノ認メタル邑樂郡役所館林警察署並ニ川俣村ニ於ケル行動ハ孰レモ刑法百三十七條ニ示ストコロノ暴動ニ該當ス若シ此等ノ行爲カ多衆共同ノ意思ニ出テタルモノトセハ之レヲ以テ刑法百三十七條ノ犯罪（兇徒嘯聚罪）ト爲サ、ルヘカラス而シテ意思發生ノ時期ハ犯罪構成要素ニアラサルヲ以テ此等ノ行動カ豫メ發シタル共同ノ決意ニ基カサルモ各場合ニ於テ偶發シタル共同ノ意思ニ基クモノト認定シ得ヘキ以上ハ該犯罪ヲ構成スルコトヲ妨ケス然ルニ原判決ハ被告人等ニ暴動ノ決意アリシヤ否ヤヲ説明スルニ當リ「被告野口春藏等カ鐵毒ノ慘狀ニ付キ中央政府ニ其救護ヲ求メントノ目的ヲ以テ上京セントシテ雲龍寺ニ集合シ（中略）而シテ此集會以前ニ於テハ被告人等ノ間ニ絶テ暴動ヲ爲スノ意思ナカリシコト明確疑フヘキニ非ス」ト記述シ尙「雲龍寺出發ニ際シテハ被告人等ノ意思狀態ニ變化ヲ來タシタルコトハ之ヲ信スヘキ

兇徒聚衆罪ノ構成

狀況ナシト論斷シ最後ニ「雲龍寺ニ於テ黒崎禪翁等ノ演説ニ依リ多數ニ暴動ノ決意ヲ生  
 ゼシメ此意思ニ基キ請願ノ途中臨機應變ノ行動ヲ試ミタリトノ事實ハ之ヲ確認スルニ足ル  
 ヘキ證據充分ナラス」ト論斷シ雲龍寺出發ノ當時ニ於テ被告人間ニ暴動ノ意思ヲカリシコ  
 トヲ説示スルニ止リ邑樂郡役所館林警察署及川俣村ニ於ケル各行爲ヲ爲スニ當リ多衆カ共  
 同ノ意思ヲ有シタリヤ否ヤノ點ニ對シテハ何等ノ説明ヲモ與ヘス故ニ結局此等ノ行動ヲ刑  
 法第三百七條ニ該當スル犯罪ニアラスト判決スルノ理由ヲ具備セサルモノト思量スト云  
 フニアリ○依テ審按スルニ刑法第三百七條ノ兇徒聚衆罪ハ多衆カ現ニ官廳ニ喧鬧シ官吏  
 ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタルコト、其暴動ハ多衆共同ノ意思ニ基ツクコ  
 トニ依リテ成立スルヲ以テ多數ノ人カ是等暴動行爲ヲ爲スモ其行爲タル個々別々ノモノニ  
 シテ暴動者間ニ意思ノ合同ナキニ於テハ其行爲ハ他ノ罪名ニ觸ル、コトアリトスルモ兇徒  
 聚衆罪ヲ構成セサルヤ明カナリ然レトモ兇徒聚衆罪ハ多衆カ其共同ノ意思ヲ以テ暴動行爲  
 ヲ爲スニ依リテ成立スルモノナレハ暴動ヲ爲サントスル多衆ノ意思ハ必ラスシモ其集合ノ  
 初ニ於テ存在スルコトヲ要セス多衆カ暴動ヲ爲スノ目的ヲ以テ集合シタルニアラス又々集  
 合當時ニ於テ多衆間ニ何等暴動ヲ爲スノ意思ナシトスルモ其後ニ至リ其間ニ暴動ノ意思ヲ  
 生シ共同シテ暴動ヲ爲シタルトキハ兇徒聚衆罪ハ完全ニ成立スヘシ隨テ其根原ニ於テ平穩  
 ナル多衆ノ集合ト雖モ多衆ノ意思如何ニ依リ何時ニテモ兇徒聚衆ニ變スルコトヲ得ヘク又  
 タ其集合カ舉テ兇徒聚衆ニ變セサルモ其一部人士ノ間ニ暴動ノ意思ヲ生シ現ニ暴動ヲ爲シ

タルトキハ暴動ニ干與シタル者等ノ間ニ於テ兇徒聚衆罪ノ成立スルコトヲ妨クサルモノト  
 ス故ニ多數ノ人カ現ニ暴動ヲ爲シタル場合ニ暴動ニ干與シタル者カ多衆ニシテ其間ニ意志  
 ノ合同アルニ於テハ兇徒聚衆罪ハ完全ニ成立スヘク多衆間ニ暴動ノ豫謀アリタルヤ否ヤ暴  
 動ノ意志ハ多衆集合ノ初メヨリ存在セシヤ否ヤ暴動ニ干與シタルモノハ集合シタルモノハ  
 全部ナルヤ若クハ其一部ナルヤハ毫モ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ボスコトナシトス而シテ本件  
 ノ豫審終結決定書ニ依レハ被告等ニ對スル兇徒聚衆被告事件ニ關スル公訴事實ノ要領ハ被  
 告等ニ渡良瀬川沿岸ノ住民ニシテ野口春藏外數名ノ主唱ニ基ツキ足尾銅山ヨリ流下スル鐵  
 毒被害ノ善後處分ニ關シ關係地人民一同上京シテ官省議會等ニ請願ヲ爲スコトニ決シ明治  
 三十三年二月十二日夜群馬縣邑樂郡渡瀬村大字下早川田雲龍寺ニ集會シ其人員八百名ニ上  
 リ翌十三日天明ヲ待テ出發セントスルニ當リ館林警察署長群馬縣警部今鐵平ハ集會政社法  
 ニ因リ其集會ノ解散ヲ命シタルニ集會者ハ一人トシテ其命令ニ應セサルノミナラス被告野  
 口春藏左部彦次郎等ハ解散命令ニ反抗シ終ニ今警部等ヲシテ空シク同所ヨリ立去ルノ止ム  
 ヲ得サルニ至ラシメタリ翌十三日ニ至リ集會者ノ人員二千餘ニ達シ被告野口春藏外數名ノ  
 者ハ從來警察官ノ干涉ヲ厭ヒ其處置ニ不滿ヲ懷キ居リタル上今亦解散命令ヲ受クタルヨリ  
 外多衆ト共ニ内心大ニ激昂シ出發後途中警察官ニ對シテ爲ス所アラントスルノ意思期セス  
 シテ投合シ午前八時同寺ヲ出發セントスルニ臨ミ被告黒崎禪翁ニ於テ警察官ニ反抗シ其警  
 戒線ヲ破リテ前進スルニ意ヲ諷シタル一場ノ演説ヲ爲シ集合セル多衆ノ暴動ヲ教唆シ被告



左部彦次郎外數名ノ者モ亦々同主旨ノ演説ヲ爲シタル後一同雲龍寺ヲ立出テ館林町ニ向テ  
進行シ同日午前九時三十分同町ニ入ルニ及ヒ馬上ニ行テ指揮シタル被告野口春藏ハ馬首ヲ  
回ラシ同行二百名許ト共ニ邑樂郡役所ノ表門内ニ闖入シ之關前ニ至リ高聲ニテ「郡長出  
鐵毒ニ心配スルカ責任ヲ以テ答ヘヨ」云々ト罵リテ喧鬧シタルモ郡長不在ニテ何人モ應  
ル者ナキナリ同所ヲ立出テ更ニ館林警察署表門前ニ至リ一行ノ者カ警察署内ニ亂入セント  
スルヨリ巡查等ハ之ヲ遮リ茲ニ一場ノ喧噪ヲ生シ巡查ハ手ヲ擧ケテ抵抗ヲ爲シタル川島民  
八外二名ヲ取押ヘ之レヲ署内ニ引入レタルニ多衆一時ニ鬨聲ヲ發シ門内ニ亂入シ被告永島  
與八外數名ノ者ハ多衆ト共ニ同署立關前ニ進ミ來リ暴言ヲ放チ引致シタル三名ヲ放還ヲ要  
求シ十數名ノ警察官ハ之レヲ防止スルニ途ナク終ニ其要求ニ應スルノ止ムヲ得サルニ至レ  
リ而シテ被告等ノ一行ハ更ニ川俣村ニ向テ前進シタルニ川俣村人家近傍ニ於テ多數警察官  
ノ警戒シ居ルヲ認メ被告春藏ハ大喜平等ト協議ノ上馬船一艘ヲ載セタル荷車三輛ヲ眞先  
ニ押出シ船ノ左右ニハ各長サ一丈五尺計ノ竹竿ヲ附シテ其尖端ヲ前ニシ一行中膂力アル者  
ヲ撰ミテ右車ヲ推サシメ一團五六十名先ツ吶喊シテ急行石橋ニ向テ突進シ多衆亦之ニ次キ  
暴力ヲ以テ前進セントシタルモ警察官ノ爲メニ遮キラレテ終ニ退却潰走シタルト云フニア  
リ本件起訴ノ事實ニシテ斯クノ如クナル以上ハ原院カ檢事及被告等一部ヲ控訴ニ依リ本件  
兇徒聚衆事件ノ審理ヲ爲スニ當リ被告等一行ハ果シテ郡役所警察署及川俣村ニ於テ暴動  
ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ被告等一行カ暴動ヲ爲シタル事實アリトセハ各個ノ場合ニ於テ

其暴動ニ干與シタルモノハ多衆ナルヤ否ヤ其暴動ハ多衆共同ノ意思ニ出テタルモノナルヤ  
否ヤヲ調査シテ公訴ニ係ル兇徒聚衆罪ノ成立不成立ヲ判定セサルヘカラス而シテ兇徒聚衆  
罪ニ在テハ多衆間ニ暴動ノ豫謀アリテ此豫謀ニ基ツキ暴動行爲ヲ決行シタルコトヲ必要ト  
セス暴動ヲ爲シタル瞬間ニ於テ多衆間ニ意志ノ合同アルノミヲ以テ足レリトスルヲ以テ原  
院ハ暴動ニ關スル被告等ノ意志ヲ認定スルニ當リテハ雲龍寺出發ノ當時ニ於テ暴動ノ決意  
ヲ爲シタルヤ否ヤノ事實ヲ認ムルノミヲ以テ能事スレリトスルコトヲ得ス必スヤ被告等一  
行ノ者カ暴動ヲ爲シタル各個ノ場合ニ於テ其間ニ意志ノ合同アリタルヤ否ヤヲ認メサルヘ  
カラス又タ被告等一行ノ爲シタル暴動カ起訴ノ事實ト其性質程度ヲ異ニスルモ其行爲ニシ  
テ苟クモ暴動行爲ノ範圍内ニ入ルニ於テハ被告等ニ兇徒聚衆ノ所爲アリト認メサルヘカラ  
サルハ勿論被告等一行中ニ暴動行爲ヲ爲ス者アリテ全體カ之レニ干與セザリシ場合ト雖モ  
之レニ干與シタル者ニ對シテ兇徒聚衆ノ所爲ヲ認ムルハ毫モ妨クナシ蓋シ本件ニ在テハ前  
示ノ如ク被告等カ雲龍寺出發ノ當時ヨリ川俣村ノ退却當時ニ至ルマテノ間ニ於ケル被告等  
ノ所爲ニ對シ兇徒聚衆罪トシテ起訴セラレタルモノナレハ原院ハ此際ニ時ケル被告等ノ行  
爲ハ自體ニ於テ兇徒聚衆罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ判斷スルノ職責アリ原院ノ認メタル事實カ  
起訴ノ事實ニ全然合致スルヤ否ヤハ固ヨリ之レヲ問フコトヲ要セサルヲ以テ被告等ノ一行  
ニ暴動行爲アリト認メタル以上ハ雲龍寺出發ノ當時ニ於テ被告等一行ニ暴動ノ意志アリタ  
ルコトヲ認ムルコト能ハサルヲ理由トシテ無罪ヲ言渡シ又ハ暴動行爲ニ干與シタル者ハ被

告等一行ノ一部ニシテ全部ニアラス被告等ノ爲シタル暴動行爲ハ公訴事實ニ指示セル行爲ト其性質程度ヲ異ニスルヲ理由トシテ被告一行ニ暴動行爲ヲシト論斷シ兇徒聚衆罪ヲシト裁判スルコト能ハサルモノトス若シ之レアリトセンカ其裁判ハ理由不備ノ違法アルコトヲ免カレス何トナレハ各個ノ場合ニ於ケル被告等一行ノ所爲カ自體ニ於テ兇徒聚衆罪ヲ構成スルコトヲ認ムルコト能ハサル場合ニアラサレハ兇徒聚衆罪ヲシトシテ無罪ヲ言渡スコト能ハサルヲ以テナリ依テ原判文ヲ閱スルニ本件兇徒聚衆罪ニ關スル理由ノ部ニ「被告野口春藏カ鑛毒被害ノ慘狀ニ付中央政府ニ其救護ヲ求メントノ目的ヲ以テ上京セントシテ雲龍寺ニ集合シタルコトハ前段ニ記載スル所ノ如シ而シテ此集合以前ニ於テハ被告人等ニ絶テ暴動ヲ爲スノ意志無カリシコト明確疑フ可キニ非ス然ルニ檢事ニ於テハ右ノ集會タル之ヲ以テ直ニ兇徒聚衆目ス可キモノニ非サルモ警部令鐵平ノ解散命令ニ依リテ到底今回ノ請願ハ警察官ニ制止スル所トナル可キヲ察知シ穩和ナル手段ニ依リテハ上京ノ目途無キコトヲ知り黑崎禪翁等ノ演說ニ依リ途中若シ警察官ノ制止ニ遭遇セハ暴力ヲ以テ之ヲ破リ上京ノ宿志ヲ貫徹ス可キ旨決意シタルモノナリト論告セリ云々若シ被告人等ニシテ黑崎禪翁等ノ演說ニ依リ川俣其他ニ於テ苟クモ警察官ノ制止ニ遭フトキハ暴力ヲ以ツテ之レヲ擊破シテ前進スルノ決意ヲ生シタルモノトセハ兇徒聚衆ヲ以テ問ハサルヘカラス因テ先ツ被告人等カ暴動行爲ヲ爲スノ決意ヲ爲シタルヤ否ヤヲ按スルニ」云々トアリ原院ハ起訴ノ事實並ニ檢事ノ論告ニ基ツキ被告人等一行カ雲龍寺出發ノ當時暴動ヲ爲スノ決意ヲ爲シタルヤ否

ヤヲ以テ本件主要ノ争點トナシ之レヲ以テ本件犯罪ノ成立不成立ヲ決セント試ミタルコトヲ知り得ヘシ而シテ原院ハ雲龍寺出發際ニ於ケル諸般ノ狀況ニ基ツキ其當時被告人等一行ニ暴動ノ意志アリタルコトヲ認ムル能ハサル旨ヲ判示シタル後更ニ雲龍寺出發後郡役所ニ於ケル一行ノ行動ニ關シ「又郡役所ニ於テ被告野口春藏カ多數人民ト共ニ馬上其門内ニ立入り郡長出口責任ヲ以テ答ヘヨ鑛毒ノ爲メニ盡力スルカトノ言語ヲ放チ直ニ同所ヨリ出タリトノコトハ(中略)之ヲ事實ナリト認ム然ラハ被告人等ハ郡役所ニ於テハ少シモ騷擾シタル形跡ナク又本件ノ證據方法中被告等ノ問ニ斯ル舉動ヲ演セントノ豫想アリタルコトヲ見ル可キモノナシ」ト判示シタル右原院ノ認メタル事實ニ依レハ野口春藏等ノ行爲ハ未タ以テ兇徒聚衆罪ヲ構成スヘキ暴動行爲ニリトスルニ足ラサルヲ以テ原院カ暴動行爲ヲ以テ目スヘキニアラスト説明シタルハ相當ナルモ原院カ豫シメ被告等間ニ暴動ノ決意アリタルヤ否ヤヲ以テ暴動行爲ノ有無ヲ判定スルノ標準トナシタルコトヲ知ルコトヲ得ヘシ又タ館林警察署前ニ於ケル行動ニ關シテハ「被告野口春藏カ馬上門前ヲ通行スルヲ見巡査部長峰崎常藏ハ巡査庄子深五郎ニ命シ野口春藏ノ進行ヲ止メ其馬街ヲ押ヘ強テ馬上ヨリ引下シ續テ官吏ノ職務執行ニ抗拒シタリトテ川島民八漆原慶治小野熊次郎ノ三名ヲ捕ヘテ署内ニ引致シタルヨリ一場ノ紛擾ヲ來シ被告人等ノ一行中警察官ノ制止ヲ排斥シテ多數一時ニ門内ニ進入シ來リ引致シタルモノヲ返セト迫リ警察官ニ於テモ遂ニ其要求ヲ容レテ引致シタルモノヲ返還スルニ至リタルコトハ(中略)之ヲ事實ナリト認ム」ト判示シ川俣村ノ行動ニ

關シテハ、川俣村ニ於テ被告人等ノ一行カ荷車二輛ニ各舟ヲ載セタルモノヲ挽キ道ヲ開ケ  
 大聲疾呼シツ、進行シ同村人家附近ニ於ケル警察官ノ警戒線ニ近キタル處無端茲ニ衝突  
 惹起スルニ至リタルコトハ(中略)之ヲ認メタリト判示セリ右原院ノ認メタル事實ニ依  
 レハ、被告等一行カ館林警察署及川俣村ニ於ケル行動ハ多衆ノ暴動行爲タルコト明カナリ何  
 トナレハ、被告人等ノ一行カ警察官ノ制止ニ拘ハラズ多數一時ニ門内ニ進入シ警察官カ官吏  
 ハ職務ニ抵抗シタリトシテ引致シタル川島民八外二名ノ返還ヲ迫リ強テ警察官ヲシテ之ヲ  
 引渡サシメタルハ其行爲ノ實質ヨリ見ルトキハ明カニ多衆カ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シタ  
 ルノ所爲ニ該リ又タ被告等ノ一行カ道ヲ開ケト大聲疾呼シツ、進行シ警察官ノ警戒線ニ近  
 キ衝突ヲ惹起スルニ至リタル所爲モ亦タ多衆カ官吏ニ強逼スルノ行爲タルヲ失ハサルヲ以  
 テナリ夫レ斯ノ如ク原院ノ認メタル被告等一行ノ所爲ニシテ多衆ノ暴動行爲タルノ性質ヲ  
 帶フルモノトセハ原院ハ暴動行爲ニ干與シタル者ノ間ニ於テ其當時意志ノ合同アリタルヤ  
 否ヤヲ判断シ以テ其所爲ノ兇徒聚衆罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ判定セサルハカラス然ルニ警察  
 署ニ於ケル右被告人等一行ノ行爲ニ關シ「然レトモ此等一部人士ノ行動ヲ捕ヘテ被告人等  
 全體ノ意志ナリト類推スルハ早計ニ失スルノミナラス事ノ突如トシテ起リタル場合ニ於テ  
 ハ此瞬間ヤ最モ感情ノ激スルヲ常トシ殊ニ多數集合ノ際ノ如キ勢ニ驅ラレ感情ニ制セラレ  
 意外ノ珍事ヲ惹起スルカ如キハ往々免カレサルコトニシテ世間其實例ニ乏シカラス直チニ  
 之レヲ以テ暴動行爲ト謂フ可カラス故ニ被告人等一行中此際ニ於ケル行動モ亦タ不慮ノ出

來事ニシテ多衆暴動ノ決意ニ出テタルモノト認ムルコトヲ得ス「ト説明シ被告等一行ノ人  
 カ全部其行爲ニ干與シ又タ被告等一行ノモノカ其行爲ヲ豫想スルニカサレハ兇徒聚衆罪  
 成立ニハ必要ナル暴動行爲ナキモノ、如ク判示シ暴動ノ豫謀ト集合シタル多衆全部之  
 志ヲ以テ暴動行爲ノ構成要件トナシタルハ兇徒聚衆罪ノ性質ヲ明ラメサル不法アル以テ  
 ラス川俣村ノ行動ニ關シテハ「被告人等カ多衆ノ勢力ヲ頼テ暴力ニ訴ヘ警察官ノ警戒線ヲ  
 破テ前進セントノ意志ニ出テタル行爲ニ非サルコトヲ認メ得ヘシ云々故ニ此際ニ於ケル行  
 動モ亦タ暴動行爲ト認ムルコトヲ得ス」ト説明シ原院ノ認メタル被告等一行ノ行爲ノ外尙  
 ホ被告等間ニ暴力ニ訴ヘ警察官ノ警戒線ヲ破テ前進セントスル強硬ナル意志アルニアラサ  
 レハ暴動行爲ナキモノ、如ク判示シタルハ是又タ兇徒聚衆罪ニ必要ナル暴動行爲ノ性質ヲ  
 誤認シタルモノニ外ナラス而シテ原院ハ兇徒聚衆罪ノ成立ニ必要ナル暴動行爲ニ付キテ抱  
 持セル前記誤認ノ見解ニ基ツキ「上來説示スルカ如ク被告人等ノ一行カ雲龍寺出發以後ノ  
 行動ハ一トシテ多數ノ聚合力ニ依リ官廳ニ喧鬧シ又ハ官吏ニ強逼スル等所謂暴動行爲ヲ敢  
 テシタリトノコトヲ認ムルニ足ラサルヲ以テ雲龍寺ニ於テ黒崎禪翁等ノ演説ニ依リ多數ニ  
 暴動ノ決意ヲ生セシメ此意志ニ基キ請願ノ途中臨機應變ノ行爲ヲ試ミタリトノ事實ハ結局  
 之レヲ確認スルニ足ルヘキ證據充分ナラス」ト判示シ一面ニ於テ被告等ノ一行ニ館林及川  
 俣ニ於テ暴動行爲アリタルコトヲ確認セルニ拘ハラズ其當時ニ於ケル暴動者ノ意志如何ニ  
 付觀察ヲ下サスシテ公訴ノ事實及檢舉ノ論告ニ泥ミ雲龍寺ニ於テ被告等多數ノ間ニ暴動ノ

決意ヲ爲シ此決意ニ基キ途中隨機應變ノ行動ヲ試ミタルノ證據充分ナラサルヲ唯一ノ理由トシテ被告人等ニ無罪ヲ言渡シタルハ理由ノ不備アル失當ノ裁判ナリ或ハ曰ハシ原判文ニ「此際ニ於ケル行動モ亦タ不慮ノ出來事ニシテ多衆暴動ノ決意ニ出テタルモノト認ムルコトヲ得ス」被告人等カ雲龍寺出發以後ノ行動ハ「トシテ多衆ノ聚合力ニ依リ云々所謂暴動行爲ヲ敢テシタリトノコトヲ認ムルニ足ラサルヲ以テ云々」トアリテ原院カ各場合ニ於ケル被告等ノ行爲並ニ其意志ノ狀態ヲ判斷シ本件犯罪ノ證據ハ結局不十分ナリト認定シタルモノナレハ之レニ對シテ非難ヲ試ムルノ餘地ナシト然レトモ原判文ニ「如斯舉動ヲ演ゼントノ豫想」ト謂ヒ「多衆暴動ノ決意」ト謂ヒ「多衆ノ聚合力」ト謂フハ其意義結局同一ニシテ何レモ暴動ヲ爲サントスルノ豫メ決定シタル意志ヲ意味スルコト原院ハ此意志ハ雲龍寺出發當時ノ狀況ニ徴シテ之レヲ認ムルコトヲ得ス被告等ノ郡役所警察署川俣ニ於ケル行動モ亦タ一トシテ此意志ノ存在ヲ推定セシムルニ足ラストシテテ雲龍寺出發當時ニ於テ被告等多數間ニ暴動ヲ爲スノ決意アリタルモノト認ムルコト能ハサルノ點ニ論及シ之レヲ理由トシテ無罪ヲ言渡シタルモノナルコトハ判文全體ノ主旨ニ徴シテ明ナレハ原判決ハ上告論旨ノ如ク理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ヲ以テ原判決ヲ破毀スル以上ハ檢事長ノ其他ノ論旨ニ對シテ說明ヲ與フルノ要ナク又タ本件被告等ノ兇徒聚衆事件ニ關シテ原判決ヲ破毀スルニ於テハ被告春藏外二名ニ對スル有罪ノ判決ニ影響ヲ及ホスヲ以テ原判決中ノ此部分モ亦タ破毀セラレヘク隨テ右三名辯護人ノ上告趣意ニ對シ

テモ亦說明ヲ與フルノ要ナシトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決中被告野口春藏外三十八名ニ對スル部分ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス

公文書偽造行使公印盜用詐欺取財事件

明治三十五年(九)第八〇二號  
明治三十五年六月二日判決 (破毀)

判決要旨

豫審終結決定ヲ以テ重罪公判ニ付シタル事件公判ニ於テ假令輕罪ノ言渡ヲナシタルトキト雖モ之レニ對シ控訴アリタルトキハ尙ホ重罪事件トシテ審理スヘキモノトス

說明

第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ提起シタルトキハ審理事件ノ狀態ハ恰モ第一審裁判所カ公訴ヲ受理シタル當時ト同一ノ程度ニ復スルカ故ニ事件ノ重罪タルヤ輕罪タルヤハ第二審ニ於テモ尙ホ起訴ノ罪名ニ依テ定メサル可ラザレハナリ

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 大井 眞操

右公文書偽造行使公印盜用詐欺取財事件ニ付明治三十五年四月十日東京控訴院ニ於テ言渡

第二審ノ重罪事件

シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ  
 判決スルコト左ノ如シ  
 辯護人ノ擴張辯明書ハ原判決ハ訴訟手續ニ違犯シタル不法無効ノ判決ナリ其次第一件記  
 録ヲ審査スルニ本件ハ重罪被告事件ナルニモ拘ハラズ刑事訴訟法第二百三十七條ニ從ヒ原  
 院カ其下調ヲ爲シタル事實ノ視ルベキナシ即チ原判決ハ右法條ニ從ヒ其手續ヲ履行セサル  
 無効ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ豫審終結決定ヲ以テ重罪公判ニ付シタル事  
 件カ第一審判決ヲ經テ覆審ノ爲メ第二審ニ上リタルトキハ恰モ第一審カ公訴ヲ受理シタル  
 當時ト同一ノ程度ニ復シ重罪公判ニ付セラレタルモノニシテ第一審ニ於テ言渡シタル刑カ  
 輕罪ノ刑ナリトテ第二審ニ於テ輕罪公判ニ付セラレタルモノナリトハ謂フテ得ス既ニ重罪  
 公判ニ付セラレタル事件ナリトスレハ即チ刑事訴訟法第二百三十七條ノ所謂重罪事件ナル  
 ナテ原院ニ於テハ同第二百五十八條ニ從ヒ同第二百三十七條第一項ノ手續ヲ踐行スヘキ  
 ハ當然ナルニ事茲ニ出テサリシハ失當ニシテ上告ハ其理由アリトス既ニ此點ヲ以テ原判決  
 ナ破毀スル以上ハ他ノ論旨ニ對シ逐一説明スルノ要ナシ  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ事件ヲ宮城控訴院ニ  
 移ス

●窃盜事件

明治三十五年(レ)第六三三號  
明治三十五年五月八日判決

(棄却)

判決要旨

人ノ居宅内ニ忍入り窃盜ヲ爲スコトヲ教唆シタル者ハ其  
 ノ手段タル門戶墻壁ノ踰越ニ付テモ責任ヲ負ハサル可ラ  
 ス

教唆者ノ責任

二百七

凡ソ教唆者ノ責任ノ程度ハ其ノ指定シタル所爲ニ對スル刑罰ヲ以テ之レ  
 カ限度トナセルハ刑法第八條ノ規定スル所タリ故ニ教唆者カ單ニ或ル  
 一個ノ犯罪ヲ教唆シタル場合ニ於テ實行者カ其ノ犯罪追行ノ手段ニ特別  
 加重ノ設ケアル實行手段ヲ採リタレハトテ之レニ基ク刑罰ノ加重ハ單ニ  
 實行者ノミニ止マリ教唆者ニ及ハサルヤ論ヲ俟タス然レトモ犯罪ノ種類  
 ニ依リ實行者カ犯罪ヲ追行スルニ當リ勢ヒ特別加重ノ手段ニ出テサル可  
 ラサル場合敢テ勢ヒトセスル場合ニ於テハ教唆者ハ實行者ト等シク加  
 重ノ責任ヲ免カレハコトヲ得サルナリ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ  
 教唆者ハ教唆ヲ爲スト同時ニ其手段ヲモ連想セルモノト爲スト以テ正當  
 トスルカ故ニ此ノ場合ノ教唆ハ其ノ手段ヲモ尙ホ之レニ包含セルモノト  
 ナサルヲ得サレハナリ本件ノ事實ハ教唆者カ被教唆者ヲシテ或ル人ノ

說明

二百八  
居宅内ニ忍ヒ入り財物ヲ窃取スルコトヲ教唆シタルモノニシテ人ノ居宅ニ忍ヒ入ルニハ勢ヒ其ノ門戸墻壁ヲ踰越スルノ手段ニ出スヘキハ何人モ之レヲ豫想シ得ヘキ所ニシテ即チ前顯説明ノ場合ニ該當ス之レ本判例ノ存スル所以ナリ

第一審 秋田地方裁判所大曲支部

第二審 宮城控訴院

被告人 進藤 三治

辯護人 岡崎 正也

右竊盜被告事件ニ付明治三十五年三月八日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
辯護人岡崎正也上告趣意擴張辯明書ノ第一ハ原判決ニ於テ「第二被告ハ明治三十四年四月一日自宅ニ於テ原審相被告鎌田龜五郎ニ對シ秋田縣仙北郡大澤江村杉山田伊藤資方ニ於テ高價ノ衣類澤山買入レタルヲ聞知セシニヨリ佐藤運藏ト共ニ同家ニ忍入り之ヲ竊取スヘキ旨ヲ教唆シタル處同人ハ其教唆ニ應シ明治三十四年四月四日夜原審相被告佐藤運藏ト共ニ右伊藤資方風呂場土臺下ノ土ヲ掘リ家内ニ忍入り同人所有ノ衣類反物ヲ竊取シタルモノナリ」ト判示シ又法律適用ノ理由ニ至リ「第二ノ所爲ハ同第五百五條第三百六十八條第三百六十七條第三百七十六條第三百六十九條ニ該當スルヲ以テ同第三百六十七條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ(以下略之)云々ト説明セラレタリ即チ原判決ハ被告ヲ以テ刑法第三百六十六條ノ罪ヲ教唆シタルモノトシテ處斷シタルモノナリト雖モ前掲事實ノ理由ニ於テハ被告カ被教唆者

六九  
ニ門戸墻壁ヲ踰越スル等ノ方法ヲ指示セシ事實理由ヲ明示セスシテ被教唆者カ門戸墻壁ヲ踰越シ以テ竊盜ヲ爲シタル事實ヲ判示スルニ過キス故ニ右被教唆者ノ執リタル方法ハ當被告ノ指示ニ依ルモノト認ムルニ由ナク寧ロ被告ハ單ニ竊盜ヲ爲スヘク教唆セシモノト見ルノ可ナルニ似タリ要スルニ被教唆者ノ現ニ行ヒタル方法ハ被告ノ指示セシモノタルヤ否ヤ頗ル明瞭ナラサルモノナリ而シテ刑法第三百六十八條ハ其執リタル手段方法ニ依ツテ加重セラルヘキ竊盜罪ナリ又刑法第三百八條ノ規定ニ依レハ教唆者ノ指示シタルモノト犯人ノ行フ所ノ方法ト殊ナリ且所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從ツテ處斷スヘキモノトス故ニ本件被教唆者ノ執リタル方法ニシテ被告ノ指示ニ出テサルモノトセハ被告ハ單純竊盜ノ教唆者トシテ刑法第三百六十六條ニ據リ輕ク處斷セラルヘキヲ相當トス果シテ然ラハ被教唆者ノ執リタル方法ハ被告ノ指示セシ所ナルヤ否ヤヲ明示スヘキハ極メテ必要ノ事項タルコト論テ俟タス然ルニ原判決ハ被告ヲ以テ刑法第三百六十八條ノ罪ニ間擬シナカラ該犯罪構成ノ必要條件タル手段方法ニ付キ被告ノ指示セル事實理由ヲ説明セザリシハ所謂判決ニ理由ヲ具備セサル違法ノ裁判ナリト信スト云フニアリ○依テ審按スルニ人ヲ教唆シテ重罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第五百五條ニ依リ正犯トシテ其責ニ任セサルヘカラスト雖モ其責任ハ其現ニ指定シタル犯罪及ヒ其現ニ指示シタル方法ノミニ制限セラルヲ以テ正犯カ教唆者ノ指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ教唆者ノ指示シタル以外ノ方法ヲ以テ罪ヲ犯スモ之ヨリ生スル重キ責任ハ教唆者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコト能ハサル第百八

教唆者ノ責任

條ノ明文ニ徴シテ明カナリ故ニ本件ニ在テ被告ガ單純ニ竊盜ノミヲ爲スヘク教唆シタルコト所論ノ如クナリトセハ被告ハ其現ニ指定シタル單純ノ竊盜罪ノミニ付キ責任ヲ負フ可ク其指示セサル門戶墻壁ヲ踰越スル等ノ方法ニ對シテ責任ヲ負フノ謂レナキハ勿論ナリト雖モ原判文ニ認メタル事實ニ依レハ被告ハ鎌田龜五郎ニ對シテ佐藤運藏ト共ニ伊藤贊方居宅内ニ忍入り衣類ヲ竊取スヘキ旨ヲ教唆シタルモノナレハ單純ニ竊盜ノミヲ教唆シタルモノニアラスシテ其方法ヲモ弁セテ指示シタルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ而シテ其現ニ指示シタル伊藤贊方居宅内ニ忍入ルノ方法中ニハ果シテ門戶墻壁ヲ踰越スルカ如キ所爲ヲモ包含スルモノト見ルコトヲ得ヘキヤ否ヤヲ按スルニ若シ門戶墻壁ヲ踰越スル等ノ行爲ハ教唆ヲ爲シタル當時被告ノ毫モ豫想セザリシモノナリトセハ被告ノ指示シタル居宅内忍入ノ方法中ニハ是等ノ行爲ヲ包含セサルヤ明カナリト雖モ人ノ居宅内ニ忍入ルニハ自然ノ順序トシテ門戶墻壁ヲ踰越スルコトアルヘキハ何人ト雖モ容易ニ知リ得ヘキ事ニ屬シ居宅内忍入ノ事實ヲ豫想スル者ハ同時ニ其手段タル門戶墻壁ヲ踰越スルノ行爲ヲモ連想スルヲ普通ノ狀態トナスヲ以テ居宅内ニ忍入ルコトヲ教唆シタル被告ハ其手段タル門戶墻壁ヲ踰越等ヲ豫想セザリシモノト謂フコトヲ得ス被告ニシテ既ニ是等行爲ヲ豫想シタリトセハ假令其行爲ヲ指シテ明確ニ之レヲ示サルモ其行爲ハ居宅内ニ忍入ルノ手段トシテ被告ノ指示シタル方法中ニ當然包含セラルヘキモノト謂ハサルヲ得ス隨テ本件ノ正犯タル鎌田龜五郎等カ竊盜ヲ爲スニ當リ門戶墻壁ヲ踰越スル等ノ行爲ヲ爲シタルトキハ被告ハ教唆者トシテ其行爲ヨ

リ生スル責任ヲ辭スルコト能ハサルヤ明カナリ故ニ原院カ「被告ハ云々伊藤贊方ニ於テ高價ノ衣類澤山買入レタルコトヲ聞知セシニヨリ佐藤運藏ト共ニ同家ニ忍入り之レヲ竊取スヘキ旨ヲ教唆シ云々」ト判示シ尙ホ龜五郎運藏カ被告ノ教唆ニ應シ伊藤贊方風呂場土臺下ノ土ヲ掘リ家内ニ忍入り竊盜ヲ爲シタル所爲ニ付キ被告ニ對シテ刑法第三百六十八條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

冒認事件

明治三十五年(九)第八一二號 (棄却) 明治三十五年五月二十九日判決

判決要旨

附帶控訴ノ提起ニ關シテハ法律ハ別ニ之レカ方式ヲ規定セサルヲ以テ公判廷ニ於テ口頭ヲ以テ之レカ申立ヲ爲スモ尙ホ有效タルヲ妨ケス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院 被告人 小池友四郎 辯護人 高木益太郎 附帶控訴申立ノ方式 二百十一

右冒認被告事件ニ付明治三十五年四月二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護人高木益太郎辯明書ハ原院ハ檢事谷野格ノ附帶控訴アリトシテ第一審ノ刑ヨリ重キ刑ヲ上告人ニ科シタリト雖モ檢事谷野格ノ附帶控訴狀ナシ抑モ附帶控訴モ控訴ノ一種ニシテ控訴ノ申立書ノ提出ヲ要スルハ刑事訴訟法第二百五十四條ノ明定スル所ニシテ之ニ反スル控訴ノ成立セザルヤ疑ハシ然ルニ原院カ之ヲ看過シ然モ被告ニ不利益ノ刑ヲ科シタルハ刑事訴訟法第二百六十五條同第二百九十一條ニ違背セル不法ノ裁判ナリト云フニアリ

依テ審按スルニ訴訟關係人カ第一審ノ判決ニ對シテ獨立セル控訴ノ申立ヲ爲スニハ刑事訴訟法第二百五十四條ノ規定ニ從ヒ其申立書ヲ原裁判所ニ提出スルコトヲ要スルヲ以テ控訴狀ノ提出ハ獨立セル控訴ノ成立要件タルハ毫モ疑ナシト雖モ附帶控訴ニ關シテハ同法第二百五十九條ニ「控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得」トアルノミニテ法律ハ別ニ申立ノ方式ヲ限定セザルヲ以テ附帶控訴ヲ爲サントスル控訴ノ相手方又ハ檢事ハ口頭審理ノ原則ニ從ヒ公判廷ニ於テ口頭ヲ以テ其申立ヲ爲スノミヲ以テ足り獨立セル控訴ニ於ケルカ如ク特ニ書面ヲ以テ申立ヲ爲スノ必要ナキモノト解釋セザルヲ得ス尤モ控訴ノ相手方又ハ檢事カ附帶控訴ヲ爲サントスルニ臨ミ申立ノ主旨ヲ明確ナラシムルカ爲メ特ニ書面ヲ提出スルハ申立ノ方式ヲ限定セザル我刑事訴訟法ノ解釋上固ヨリ妨クナシト雖モ書面ヲ提出スルト否トハ一テ訴訟當事者ノ

●詐欺ニ依ル免狀取得事件

明治三十五年(レ)第八〇五號  
明治三十五年五月十六日判決 (棄却)

判決要旨

任意ニ在ルヲ以テ之ヲ提出セザレハトテ附帶控訴ハ全然成立セザルモノト主張スルコトヲ得ス蓋シ獨立セル控訴ハ被告事件ヲ第二審ニ繫屬セシムルヲ以テ目的トシ第二審ノ公判ヲ待テ申立ツヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ書面ヲ提出シテ申立ヲ爲スコトヲ必要トスルモ附帶控訴ハ控訴ノ判決アルマテハ何時ニテモ之レヲ爲シ得ヘク公判ノ辯論進行中ニ其申立ヲ爲ストキハ其旨ヲ公判始末書ニ掲クルノミヲ以テ足ルモノニシテ特ニ書面ヲ以テ之レヲ明確ニスルノ必要ナシ故ニ獨立セル控訴ノ申立ニ關スル第二百五十四條ノ規定ハ之ヲ附帶控訴ノ場合ニ適用スルコトヲ得サルモノトス而シテ原院公判始末書ヲ見ルニ檢事谷野格カ第一審判決刑期ハ被告ノ犯情ニ比シ輕キニ失スルヲ以テ原判決ヲ取消シ更ニ重ク處罰セラレタシト附帶控訴ヲ爲シタル旨記載アルヲ以テ原院カ右檢事ノ附帶控訴ニ基ツキ被告ニ不利益ナル刑ヲ科シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

書記試験合格書ハ刑法第二百十四條ノ所謂免狀中ニ包含セス從テ氏名ヲ詐リ之レヲ得ルモ同條ノ犯罪ヲ構成セス



說明

刑法第二百十四條ノ所謂免狀トハ之レヲ受クルニ依テ或ル特殊ノ行為ヲ實行スルコトヲ得ヘキ權利ヲ享有スルモノヲ云フ之レ大審院カ下セル定義ニシテ吾人モ亦タ其ノ當ヲ得タルヲ信ス蓋シ免狀ノ下附ニ依リ直チニ或ル特殊ノ權利ヲ享有スル者ノ内ニハ醫師ノ如キ辯護士ノ如キ各人ノ貴重ナル身体財産ノ保護ノ重任ニ當ル者取テ尠シトセス若シ無資格者ニシテ此等ノ免狀ヲ取得スルトキハ直チニ一般社會ニ危害ヲ及スノ恐アルヲ以テ免狀ノ詐取ハ之レニ刑罰ヲ加フルノ必要明カニ存スト雖トモ書記試験ノ合格者ノ如キハ仮令是レヲ得ルモ必ス書記タルノ權利ヲ得ルニアラス其ノ人物經驗等ヲ査定シ之レヲ採用スルト否トハ全ク官廳ノ自由ニ存スルカ故ニ假令之レヲ詐取スルノ所爲ヲ行フモ其ノ危害ノ及フ處ハ免狀ノ場合ト同一ニ論ス可ラサルヤ言ヲ俟タス從テ之レヲ同一ニ制裁スルノ證據ヲ發見スルヲ得サレハナリ

(參照) 國務身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス。官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ(刑法第二條百十四)

第一審 京都地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 大谷正三 耶

外一名

右詐欺ニ依リ免狀ヲ取得シタル被告事件ニ付明治三十五年三月三十一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ同院檢察事長代理檢察事香坂駒太郎ハ上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決中第二ノ事實ヲ單ニ刑法第二百三十一條ノ氏名詐稱ノ罪ニ擬シ而シテ刑法第二百十四條免狀詐取ノ罪ヲ構成セスト爲シタル理由ハ「免狀ハ之ヲ得ルヤ直ニ或權利ヲ實行シ得ルモノナラサルヘカラス然ルニ書記試験合格證書ノ如キハ唯資格ヲ得ルニ止マリ權利ヲ實行シ得ルモノニアラサレハ之ヲ得ルモ免狀詐取ニアラス」ト云フニ在リ然レトモ右ハ法意ヲ誤解シタルモノナリト信ス抑モ該條所謂免狀ナルモノハ「法律カ一私人ニ或行爲ヲ行フコトヲ得ルノ資格ヲ付與シタル證明ナリ」トハ刑法學者ノ一般ニ認ムル定義ナリ此定義ニ依レハ直ニ權利ヲ實行シ得ル旅行免狀若シハ漁業免狀ノ如キハ勿論假令直ニ權利ヲ實行シ得サルモ或行爲ヲ行フコトニ付テノ資格ヲ證明シ得ラル、モノニ在テハ總テ免狀ト稱スルヲ得ヘシ本件書記試験合格證書ノ如キハ之ヲ得ルヤ直ニ書記タルヲ得ルモノニアラサルモ之ニ依テ書記ニ登用セラル、ノ資格ヲ得タルヲ以テ書記ニ登用セラレンコトヲ其筋ニ請フコトヲ得ヘシ即チ之ヲ稱シテ免狀ト云フ固ヨリ不可ナルヘシ今被告兩名ハ共

謀シテ氏名ヲ詐稱シ此免狀ヲ詐取シタルモノナレハ刑法第二百十四條ノ罪ヲ構成スルコト  
明ナリ然ルニ原判決此ニ出テス單ニ氏名詐稱トシテ論シタルハ擬律錯誤アル不法ノ判決ナ  
リト云フニ在レドモ○刑法第百二十四條ノ所謂免狀ナルモノハ之ヲ受クルト同時ニ或ル  
特殊ノ行為ヲ實行シ得ヘキ權利ヲ享有スルモノナリ本件書記試驗及第證書ノ如キハ之レト  
異リ唯單ニ書記試驗ニ及第シタルコトヲ證シ得ルニ過キスシテ該證書ニ依リ或ル特殊ノ權  
利ヲ行ヒ得ヘキモノニアラサレハ同條ノ免狀ヲ以テ論スヘキモノニアラサルヤ明カナリ即  
チ原判決カ被告ノ所爲ヲ同條ニ問擬セサルハ相當ニシテ論旨ハ其理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ木件上告ハ之ヲ棄却ス

賭博事件

明治三十五年(九)第八三三號  
明治三十五年五月二十日判決

(破毀)

判決要旨

刑事訴訟法第五十九條ニ依リ被告人ヲ逮捕引致シタル巡  
査憲兵卒ト其ノ被告人ヲ受取り調書ヲ作ルヘキ司法警察  
官トハ別人ナルユトヲ要ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ  
逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ(刑事訴訟法第五十九條)

第一審 函館地方裁判所

第二審 函館控訴院

被告人 谷口新太郎

右賭博被告事件ニ付明治三十五年四月十日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ  
上告ヲ爲シタリ

依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意ハ原院カ警部代理巡查長谷川順治ノ作成シタル逮捕及告發調書ヲ本件斷罪ノ資料  
ニ供セラレタルハ失當ノ裁判ナリト信ス元來長谷川順治ナルモノカ巡查ニシテ警部代理ヲ  
爲スモノタルコトハ該調書ニ徴シテ明ナレハ長谷川順治ハ巡查ニアラスシテ司法警察官ノ  
職ヲ執レルモノト云ハサルヘカラス既ニ司法警察官タル以上ハ同人カ賭博ノ現行犯ヲ瞻見  
シ其被告人ヲ逮捕シタル場合ニハ刑事訴訟法第四百七條ノ規定ニ基キ證據書類ニ意見書  
ヲ添ヘ逮捕シタル被告人ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スルノ手續ヲ爲スヘキモノニ  
シテ決シテ刑事訴訟法第五十九條ノ規定ニ準據スヘキモノニアラス蓋シ同一人ニシテ一面  
ニハ逮捕巡查トシテ告發ヲ爲シ他ノ一面ニハ司法警察官トシテ其告發ヲ受ケ以テ逮捕及告  
發ニ付テノ調書ヲ作ルカ如キハ審ニ事理ニ於テ穩當ヲ欠キ信認ヲ措ク能ハサルノミナラス  
抑モ又不必要不適法ノ行爲ト云ハサル可ラサルヲ以テナリ翻テ刑事訴訟法第五十八條ヲ按

逮捕告發調書作製者

スルニ司法警察官及巡查憲兵卒ニ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ現行犯罪アル場合ニ於テ令狀ヲ待タズシテ被告人ヲ逮捕スヘキ職責ヲ負ハシメ而シテ巡查憲兵卒カ被告人ヲ逮捕シタルトキノ處分方法ハ刑事訴訟法第五十九條ニ規定シアルモ司法警察官カ被告人ヲ逮捕シタルトキノ處分方法ハ該條ニ規定シアラサルコトハ明白ナル所ナリ左レハ此場合ニ於ケル處分方法ハ之ヲ如何ニスヘキモノナリヤ是レ即チ刑事訴訟法第四百十七條ノ規定アル所以ニシテ該條ニ據リ處分スヘキモノタルヤ論ナキナリ然ラハ則チ本件ニ於テ司法警察官ノ職務ヲ執行スル巡查長谷川順治カ賭博ノ現行犯ヲ瞳見シ其被告人ヲ逮捕シタル場合ニ際シ刑事訴訟法第四百十七條ノ規定ニ據ラスシテ強テ同法第五十九條ノ規定ニ準據シ一身ニシテ一面ニハ巡查トシテ逮捕及告發ヲ爲シ一面ニハ司法警察官トシテ之カ調書ヲ作成シタルハ背法ノ行爲ト云ハサルヘカラス既ニ其行爲カ背法タル以上ハ其作或シタル逮捕及告發調書ヲ本件斷罪ノ資料ニ供セラレタルハ失當ト云ハサルヲ得スト云フニ在リ○按スルニ刑事訴訟法第五十九條ニハ巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及告發ニ付テハ調書ヲ作ルヘシトアリテ被告人ヲ逮捕引致シタル巡查憲兵卒ト其被告人ヲ受取リ調書ヲ作ルヘキ司法警察官トハ素ヨリ別人ナルコトヲ要ルヌヤ論ナキナリ今本件原判決ノ援用シタル逮捕及告發書ヲ見ルニ「當署詰巡查長谷川順次ハ本職ノ面前ニ云々左ノ逮捕及告發ヲ爲セリ云々右讀聞カセタ

(參照) 選舉開會中ノ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス(町村制第三十二條第一項)

ルニ相違ナキ旨申立ルニ付共ニ署名捺印ス右逮捕巡查長谷川順次警部代理巡查長谷川順次「トアリテ即チ同一人ナル巡查長谷川順次被告人ヲ逮捕及告發ヲ爲シ同一人ナル警部代理巡查長谷川順次其被告人ヲ受取リ調書ヲ作リタルモノニシテ背法ノ措置タルヲ免カレス然ルニ原判決カ該告發書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニシテ上告論旨ハ結局其理由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス

官吏侮辱恐喝取財未遂及誹毀事件 明治三十五年(レ)第七五一號 明治三十五年五月廿三日判決 (棄却)

判決要旨

- 一、財ヲ得ンカ爲メニ恐喝ニ着手シタルトキハ犯罪ノ實行ニ着手シタルモノトス
- 二、恐喝ニ着手シタル後新聞紙ニ其ノ非行ヲ暴露セラレタル爲メ其ノ實行ヲ遂クルコト能ハサリシトキハ障礙ニ依ル恐喝取財罪ノ未遂罪ヲ構成ス
- 三、證據物件ハ文書タルトキト雖モ被告人ニ示シ辨解チナサ

恐喝取財罪ノ着手未遂○書類證據ト物件證據トノ差異

シムルノ外書記ヲシテ之レガ朗讀ヲナサシムルヲ要セス

一三項ハ説明ヲ要セス  
 三 刑事訴訟法上斷罪ノ證據ニ書類證據ト物件證據トノ二種ノ別アルハ明  
 文ノ認ムル所ナリ書類證據トハ被告事件ニ關シ新ニ作成セラレタル凡  
 テノ文書ヲ云ヒ被告人訊問調書檢證調書證人訊問調書等ノ如シ物件證  
 據トハ被告事件ニ關シ犯罪證明ノ用ニ供スル爲メ押収又ハ鎖置セラレ  
 タル文書其他ノ物品ヲ云フ因是觀之ハ等シク刑事ノ證據トナルヘキ文  
 書ノ内ニ於テモ其ノ文書カ被告事件ニ關シ新ニ作成セラレタルモノナ  
 ル時ハ書類證據タルヘク反是シテ己ニ存在セル文書ヲ差押若クハ其ノ  
 他ノ處分ニ依リ領得シタルモノナルトキハ其ノ證據ハ即チ物件證據ナ  
 リトス書類證據ト物件證據トハ刑事訴訟法上斷罪ノ資料タルニ付キ如  
 何ナル點ニ差異アル哉左ニ之レヲ説述ス可シ  
 第一ノ差異。刑事訴訟法上書類證據ト物件證據トノ異ナル所ハ其證據  
 ノ態樣同一ナラザルカ爲メ從テ之レニ對スル證據調ノ手續同一ナラザ  
 ルノ點ニ存ス蓋シ一ノ物件カ書類證據トシテ斷罪ノ資料タルハ其書類  
 ノ形體カ證據ヲナスニアラスシテ其書面ニ記載セラレタル無形ノ記事

實ニ之レカ證據ヲナスモノトス證形ノ事項ハ之レヲ目撃シ得ヘカラサ  
 ルヲ以テ是ニ依テ被告事件ヲ審理シ被告人ノ辯解ヲ求メシハ(即チ證  
 其文書ヲ朗讀シテ其意義ヲ被告ニ通告セザルヲ得ス豫審調書檢證調書  
 其ノ他證人訊問ノ調書ハ書記ヲシテ之レヲ朗讀セシムヘキ規定アル所  
 以茲ニ存スルナリ  
 反是テ一ノ物件カ物件證據トシテ斷罪ノ資料タルトキハ假令其證據物  
 件カ文書タルトキト雖モ證據タルノ要點ハ文書ノ無形ナル記事ニ存セ  
 スシテ有形ナル物ソレ自體ニ存スルカ故ニ之ニ依テ被告事件ヲ審理シ  
 被告人ノ辯解ヲ求メシハ(即チ證單ニ之レヲ被告ニ示スノミヲ以テ足  
 レリトス刑事訴訟法第九十八條ノ規定アル所以茲ニ存スルナリ之レ  
 畢竟一ハ無形ナル文書ノ記事ヲ以テ證據トナスト一ハ有形ナル物ソレ  
 自體ヲ以テ證據トナスヨリ生スルモノニシテ刑事訴訟法上二クノ證據  
 ニ對シ各其ノ手續ヲ異ニスル亦タ怪ムニ足ラサルナリ  
 第二ノ差異。書類證據ハ被告事件ニ關シ新ニ作成スルモノ  
 ルハ以上説明スルカ如シ而シテ法律ハ之レカ作成ニ付キ一定ノ方式ヲ  
 規定スルカ故ニ(刑事訴訟法第二十條以下及七條)刑事訴訟法上ノ所謂  
 有效ノ證據タルニハ此等規定ノ方式ヲ遵守スルニテラスンハ能ハス蓋

恐囑取財罪ノ着手未遂○書類證據ト物件證據トノ差異

シ、文書ノ記載事項ハ此ノ嚴正ナル法規ノ方式ヲ遵守スルニ於テ始メテ  
其ノ真正ヲ保ツテ得ヘクハナリ反是物件證據ハ有形ナル物シレ自體  
カ犯罪ノ證據ヲナスカ故ニ假令法律ノ規定ニ違背シテ之レカ蒐集ヲ爲  
スモ其違背ハ未タ以テ物件自體ニ附着スル證據ノ真正ニ影響ヲ及サス  
從テ違法ニ押取シタル物件モ亦タ之レヲ以テ有效ニ斷罪ノ用ニ供スル  
ヲ得ヘシ

第一審 山口地方裁判所 第二審 廣島控訴院  
被告人 得富太郎

右官吏侮辱恐喝取財未遂及誹毀被告事件ニ付明治三十五年三月二十九日廣島控訴院ニ於  
テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履  
行シ審理スルコト左ノ如シ

上告論旨ノ第四點ハ原判決ハ被告ヲ騙取ノ未遂トシ他ノ新聞即チ防長馬關兩新紙ニ於テ其  
犯行ヲ暴露セラレタルヲ以テ未遂ノ原因即チ意外ノ障礙トセラレタルトモ被告ハ未タ之レ  
カ爲メニ刑事ノ追訴ヲ受ケタルニアラス唯タ他ノ新聞ニ其犯行ヲ暴露セラレ之レカ爲メニ  
金錢ヲ騙取スルニ至ラサリシハ被告ノ意思ヲ以テ之ヲ中止セルニ外ナラス原院カ之ヲ以テ  
意外ノ障礙トセラレタルハ法律ヲ誤解セルノ不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○他新聞紙ニ  
自己ノ犯行ヲ暴露セラレ爲メニ金員騙取ノ目的ヲ達シ得ラレサルハ未遂ノ原因即チ意外ノ

障礙タルハ言テ俟タサルナリ而シテ原判文中被告ハ自己ノ意思ヲ以テ金員騙取ノ所爲ヲ中  
止スルニ至リタリトノ事實ヲ認メアルコトナクハ本件ノ未遂ヲ中止犯ナリトノ論等ハ謂  
ハレナシ」其第六點ハ原判決ニ云フ「清一ハ益愛慮ノ念ヲ増シ大ニ之ヲ恐レ矢島作郎ニ告  
ケタルニ同人モ亦之ヲ恐レテ周陽銀行ノ重役會議ヲ開キテ協議シタルニ該會議ニ於テハ被  
告ノ申込ニ應セサルコトノ決議ヲ爲シタルモ作郎ハ尙同銀行ノ爲メ憂慮ニ堪ヘス廣告料ト  
シテ多少ノ金錢ヲ被告ニ交渉セシメタル折柄云々」ト此判決理由ヲ推讀スレハ被害者ハ周  
陽銀行ノ如クナルモ周陽銀行ノ其重役會議ノ決議ノ如ク毫モ恐怖ノ念ヲ生セス又欺罔錯誤  
ヲモ生シタルコトナクハ同銀行ニ對シテハ恐喝取財ノ犯罪ヲ構成スルコトナカルヘク又  
右判文ノ後段ノ如ク作郎カ被害者ニシテ作郎ノミ獨リ恐怖ノ念ヲ生シタリトスルモ多少ノ  
金錢ヲ被告ニ交付セントノ交渉ハ全ク作郎ヨリ清一ヲシテ被告ニ申込マシメタルモノニシ  
テ毫モ被告ヨリ之ヲ申込タルモノニアラス故ニ此點ニ於テハ原院ハ銀行ヲ被害者トスレハ  
何等ノ犯罪ヲ構成セザル行爲ヲ有罪トシ作郎ヲ被害者トスレハ何等ノ金錢ヲモ要求セザル  
被告ニ對シテ金錢騙取シタルモノトスルノ不法アルヲ免レスト云フニ在レトモ○本件ノ被  
害者ハ周陽銀行ノ代表者タル頭取矢島作郎タリシコトハ第一點ニ説明スル如クナルノミナ  
ラス恐喝取財ノ未遂犯ハ被恐喝者ノ畏怖セシト否トニ依リ犯罪ノ消長ヲ來スヘキモノニア  
ラス苟モ恐喝取財ノ實行ニ着手セシ上ハ即チ該犯罪ノ成立スヘキモノトス故ニ本件周陽銀  
行ニ於テ會議ノ上被告ノ申込ニ應セサルコトノ決議ヲ爲シタリトテ犯罪ノ構成上何等ノ影

恐喝取財罪ノ着手未遂○書類證據ト物件證據トノ差異

響アルコトナシ後段ノ論旨ニ付原判文ヲ查スルニ「先社員ノ協議ヲ覆ヘスノ手段トシテ云々一年間料金五百六十圓ヲ拂込ムヘシ若シ之ヲ願ミス打捨テ置キ編輯員ノ爲ス所ニ放任セハ終ニ銀行破滅ニ立至ルヘキ旨ヲ記載シタル書狀ヲ送付シ云々トアリテ被告ヨリ金銀ノ要求アリシ事實ヲ認定シアレハ本論旨ハ原判旨ニ副ハサルモノトス」其ノ第七點ハ原院ハ本件ノ證據書類中一號二號ノ書狀ニ記載アル文詞ヲ採テ被告ニ對スル斷罪ノ證據ニ援用シタリ斯ノ如キ證據書類ノ内容ヲ證據ニ援用スル場合ニハ公判審理ノ際之ヲ朗讀シタルコトヲ要ス然ルニ原院ハ公廷ニ於テ其文詞ヲ朗讀セスシテ突然有罪ノ證據ニ引用シタルハ口頭審理ノ定則ニ違反セリト云フニ在レトモ凡ソ證據ニハ書類ト物件トノ別アリテ被告事件ニ關シ又ハ其事件ニ關聯シタル被告事件ニ關シ作成セラレタル文書ハ證據書類ニ屬シ犯罪證明ノ具トシテ押收若シハ領置セラレタルモノハ文書タルト物品タルトヲ問ハス總テ之ヲ證據物件ト云フヘキモノトス而シテ其證據書類ニ付テハ朗讀ヲ以テ證據調ノ結果ヲ得ル能ハサル場合ハ格別其他ニ在テハ總テ之ヲ朗讀スヘキモノトス而シテ其證據物件ニ至テハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシトハ刑事訴訟法第九十八條第二項ノ規定スル所ニシテ之レヲ示シテ被告ニ辯解ヲ求メタル場合ニ於テ其物件ノ文書タルトキハ被告ニ於テ其内容ヲ閱讀シ辯解ノ如何ヲ考量スヘキ充分ノ餘地ヲ有スヘキモノナレハ其證據物件ノ文書タル場合ト雖モ裁判所ハ此規定ニ從ヒ之レヲ示スノ外朗讀ヲ爲サシムルヲ要ナシ故ニ原院カ此手續ニ據リ證據調ヲ爲シ之レヲ罪證ニ供シタルハ相當ノ措置ナリトス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年五月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野斯平立會宣告ス

●約束手形及委任狀并附帶私訴事件明治三十五年(九)第三八號 (破毀)  
偽造行使詐欺取財明治三十五年五月一日判決

判決要旨

- 一、虛無ノ人名ヲ以テ約束手形ノ振出人トナシ之レヲ行使シタル所爲ハ記錄者ノ資格ヲ詐リタルモノニアラサルヲ以テ手形偽造行使罪ヲ構成スルモノニアラス
- 二、數罪俱發一ノ重ニ從ヒ處斷シタル判決ニ對シ上訴シタルトキハ其ノ上訴提起ノ效力ハ俱發シタル總テノ犯罪事件ニ及フ

說明

想像假説ノ人名ヲ用ヒ文書ヲ作製行使シタルトキハ文書罪ヲ構成スルヤ否ヤニ付テハ學者ノ間頗ル議論ノ存スル處ナルモ大審院ハ是レヲ以テ記錄者ノ資格ヲ詐リタル事實ナシトシ消極ニ論斷シタルモト實ニ本判決ノ明示スル所タリ然レトモ吾輩ノ見解ヲ以テセハ如斯キ論決ハ蓋シ文書偽

虛無ノ人名ヲ用ヒタル文書ノ偽造○上訴ノ效力

造罪ニ於クル刑罰ノ基本ヲ誤解セルノ結果ニアラサルナキカヲ疑ハシム  
何ヲ以テ之レヲ云フ曰ク  
抑モ法律カ文書偽造ノ所爲ヲ罰スル所以ノモノハ詐欺ノ證據ヲ製シ其ノ  
提示ヲ受ケタル者ノ信用ヲ誤ラシメ是ニ由テ不正ノ利益ヲ領得シ以テ一  
般社會ノ信用ヲ阻害スルニ由ル果シテ然ラハ文書夫レ自體カ已ニ他人ヲ  
誤ラシムルニ足ルヘキ堪能タニ存セハ其ノ文書ノ署名者カ虛無ノ人タル  
ト否トハ之レヲ何レニ決スルモ敢テ文書偽造罪ノ所爲ヲ責罰スル理由ニ  
影響スル所ナクハナリ

二、數罪俱發一ノ重ニ依テ處斷シタル判決ハ數罪全體ニ對スル判決ニ外ナラ  
サルヲ以テ之ニ對スル上訴ノ提起ハ事件全體ニ對シテ移審ノ効力ヲ有ス  
ルモノトス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院  
公訴私訴上告人 石田 米藏 辯護人 小木曾 義房

公訴上告人 昆野 淺太郎  
私訴被上告人 厚見 仁三郎  
外一名

右米藏貞次郎淺太郎等カ約束手形及委任狀偽造行使詐欺取財被告事件並ニ之ニ附帶スル私  
訴事件ニ付明治三十五年二月二十四日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告米藏  
貞次郎ハ公私訴ニ付被告淺太郎ハ公訴ニ付各上告ヲ爲タリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條

ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告貞次郎上告趣意書ハ要スルニ原判決第三事實ニ付テハ手形ノ振出人タル宮地金治宮地  
千逸ナル者ナキヲ以テ約束手形成立セサルモノナリ又第一事實ニ付テハ被告ハ石田政助ノ  
約束手形ヲ偽造シタル情ヲ知ラス且金三百圓ヲ同人ヨリ騙取シタルコトナシト云フニ在リ  
○因テ原判決ヲ閱スルニ原院ハ右宮地金治宮地千逸ナルモノハ虛無ノ人名ナル事ヲ明認シ  
タルモノナレハ被告等カ金治千逸名義ノ約束手形ヲ偽造行使シタル所爲ハ記錄者ノ資格ヲ  
詐ハリタル事實ナキヲ以テ約束手形偽造行使罪ヲ構成スヘカラサル事實ナルニ拘ハララス刑  
法第二百九條第一項ヲ適用シテ之ヲ處罰シタルハ失當ニシテ本論旨ノ前段ハ其理由アリ其  
後段ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由ナシ

被告淺太郎ノ擴張書第三點ハ被告人ハ第一審裁判所ニ於テ同應(ト)第二六號ノ約束手形偽  
造行使詐欺取財被告事件ト同應(ト)第二五號ノ約束手形偽造行使詐欺取財事件ノ公訴同時  
ニ起リシ爲メ兩事件ノ證據調以後ノ手續ハ併審ノ決定ヲ受ケ證人ノ訊問辯論及判決言渡モ  
日時場所ヲ同ウシテ手續ヲ進行セラレタルモノナリ依テ被告人ハ明治三十四年七月二十六  
日第一審廷ニ於テ口頭ヲ以テ受ケタル數罪俱發ニ依リ重キ輕懲役七年ヲ執行スヘシトノ  
判決言渡ニ對シ同月二十九日岐阜監獄署ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シタルモノナルカ故ニ被告人  
ノ意思ニ於テハ右併合審理ノ二件ニ對シ共ニ控訴ヲ爲シタルモノナルハ毫モ疑ヒナキ所ナ  
リ然ルニ原院ニ於テ第二審ノ開廷ニ臨ミ(ト)第二五號ノ被告事件ニ付テハ其書類ニ控訴申

虛無ノ人名ヲ用ヒタル文書ノ偽造○上訴ノ効力

立書ノ添附ナキ故ヲ以テ該件ニ對シテハ控訴手續ノ成立ヲ認メストノコトナルニヨリ(ト) 第二五號一件書類ノ取寄ヲ申立テ右二事件ノ書類ヲ調査シタルニ圖ラサリキ右併合審理ノ實際ニ反シタル調書及判決書ヲ判決言渡ノ後ニ於テ引直シタルモノト視ヘ書面上ニテハ併合審理ノ影タニ視ルヲ得サルモノニ作爲シ在ルヲ發見シ一驚ヲ喫シタル次第ナリ然レトモ調書及判決書ノ日附場所ヲ同フスルハ蔽フヘカラサル所ナルノミナラス二個ノ判決書ニ何レモ「淺太郎ハ本日當應ニ於テ言渡シタル云々」ノ文字アリテ何レカ先何レカ後ナルカヲ見分ク難キ判決ナレハ口頭辯論言渡以外ニ於テハ結局辯論及ヒ判決言渡ノ視ルヘキモノナキニ歸スト云フヲ憚ラサル事態ヲ露ハシタルニヨリ此點ニ於テ已ニ被告人カ併合審理二件ノ口頭辯論言渡ニ對シ併セテ控訴ヲ申立タルモノナルハ明瞭ナレトモ其形式上無視スヘキ辯論及判決言渡ノ事實ヲ慥カメタル上尙ホ進ンテ書類ノ無効ニ歸スルヨリシテ第一審公判廷ノ證人ノ陳述ヲ土崩ニ屬セシムルニヨリ之ヲ回復スル爲メ證人再調ノ端緒ヲモ開カント前審立會ノ書記ヲ證人トシテ喚問セシコトヲ申立テ立會檢事モ亦併合審理ニ依テ二件ニ對スル控訴ノ成立タルヲ認メ併セテ控訴ノ審理ニ着手セシコトノ陳述アリシニモ拘ハラズ都テ之ヲ否決シ單ニ上訴ヲ爲シタルモノト見ルヘキ事跡ナシト一言ヲ付シテ判決シタルハ當ニ法律ニ違背スルノミナラス重大ニシテ且人權問題ニモ推シ及ハントスル被告人ノ辯護權ヲ無視シタル審理不盡理由不備ノ判決ト謂ハサルヲ得サルモノナリト云フニ在リ。因テ第一審判決書ヲ査閱スルニ其法律ノ理由説明中ニ前略「淺太郎ハ數罪俱發ニ付同法第百條ニ

從ヒ犯情尤モ重キ第二約束手形偽造行使ニヨリ處斷スヘキモノトシテ淺太郎ハ本日當應ニ於テ言渡シタル輕懲役六年ノ刑ト俱發スルニ付刑期ノ長キ本件ノ刑ヲ執行スヘキモノトストアリテ第一審裁判所ニ於テ本件ノ判決言渡下同日ニ被告ニ對シテ輕懲役六年ノ刑ヲ言渡シタル犯罪ハ本件ノ犯罪ト俱發シタルヲ以テ刑法第百條ノ規定ヲ適用シ一ノ重キ本件ノ罪ニ從ヒ處斷シタルモノナルヤ明カナリ果シテ然ラハ右輕懲役六年ノ刑ヲ言渡シタル被告ノ犯罪事件ハ本件ト分離スルヲ得サルモノナルヲ以テ被告ノ控訴中ニハ當然右二事件ヲ包含スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ「淺太郎ハ岐阜地方裁判所明治三十四年〇號第二五號事件ニ付同年七月二十六日同裁判所ニ於テ輕懲役六年ノ確定判決ヲ受ケ居ルモノニ付本案ハ其餘罪ニ係ル」ト説明シ判決主文ニ於テ「但淺太郎ノ刑ハ前發ノ刑輕懲役六年ト通算ス」ト言渡シ右控訴中ニ包含シタル〇號第二五號事件ニ付審理判決ヲ爲サリシハ則チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サル不法アリ故ニ右論旨ハ其理由アルモノトス已ニ此點ヲ以テ被告淺太郎ニ對スル原判決ヲ破毀スル以上ハ同人ノ他ノ論旨ニ對シテハ逐一説明スルノ要ナシ

明治三十五年五月一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

●葉煙草專賣法違犯官文書偽造行使事件 明治三十五年(乙)第八六四號(棄却)

判決要旨

官文書ノ意義〇行使ノ意義





右被告延太郎カ葉煙草專賣法違反及ヒ被告三名カ官文書偽造行使被告事件ニ付明治三十五年四月二十三日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告三名並ニ被告龜太郎、勇吉辯護人秋山源藏ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

二百三十二

被告延太郎上告趣意ノ前段ハ本件包裝紙製造ノ件ハ官文書ヲ偽造行使シタルモノニアラス然ルニ之ヲ有罪ト判決セラレタルハ違法ナリト云ヒ」其後段ハ葉煙草專賣法違反事件ニ付有罪ノ判決セラレタルモ亦違法ナリト云ヒ」被告龜太郎、勇吉辯護人ノ上告趣意ハ本件ニ於テ官文書ヲ以テ論セラレタル葉煙草包裝札ナルモノ、官文書タル性質ヲ有セザルコトハ事實及ヒ各證據ト文書自體ニ據テ明確ナリ元來右包裝札ナルモノハ專賣支局ニ於テ葉煙草ヲ營業人ニ賣渡ニ際シ其手續取扱ニ付便宜ノ爲メ作成セラレタル一種ノ符合ニ過キスシテ葉煙草ノ種類品質數量等ヲ公證シ若クハ其密賣ヲ豫防スル爲メ作成シタル具ニアラス從テ其效用ハ專賣支局内ニ限レルモノニシテ一旦葉煙草ノ營業人ノ手ニ渡リタル後ハ何等ノ用ヲ爲サル一片ノ反古タルニ過キサルナリ斯カル何等ノ效力ナキ反古タル包裝札ニ類似セルモノヲ被告等カ模造シテ之ヲ葉煙草ニ附着シタリトテ何等ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原院ハ之ヲ官文書偽造行使トシテ擬スルニ刑法第二百三條ヲ以テシタルハ則チ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ナリト云フニ在リ○依テ先ツ本件被告等ノ所爲ハ官文書偽造行使罪ヲ構成スルモ否ヤハ論旨ニ付キ審按スルニ刑法第二百三條ニ所謂官文書トハ官

五二

吏カ其職務ノ執行上法令其他所屬官廳ノ職務規定ニ基キテ作成スル書類ヲ謂フ蓋シ官吏カ其職務ノ執行上ニ於テ作成スヘキ書類ハ一般ニ公布スル法律命令ニ依リテ定マルコトアリ或ハ當該官廳ヨリ其部内ノ官廳又ハ官吏ニ對スル令達ニヨリテ定マルコトアリ或ハ官吏ノ職務執行上ノ必要又ハ便宜ニ依リ書類作成ノ慣例ヲ生シ當該官廳ニ於テ其慣例ヲ認許シ之ヲ職務上ノ例規トシ所屬官廳又ハ官吏ヲシテ之ニ依ラシムルコトアリ何レノ場合ニ於テモ其書類ハ官吏カ規定ニ從ヒ其職務執行上ニ於テ作成スル書面ニシテ官文書タルノ性質ヲ有スルモノトス而シテ官文書偽造行使罪ヲ斷スルニ當リ偽造ノ文書カ一般ニ公布スル法律命令ニ依リ官吏ノ職務執行上作成スヘキモノナルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ其文書ノ官文書ナルコトヲ認ムルコトヲ得ヘク一般ノ法律命令ニ別段ノ規定ナキモノ即チ官廳ノ内達慣例等局外者ニ於テ知ルコトヲ得サル職務上ノ例規ニ依リ作成スヘキ書類ニ關シテハ斯ル例規ノ果シテ存在スルヤ否ヤハ一ノ事實問題トシ各種ノ證據方法ニ依リテ其存否ヲ認メタル上係爭書類ノ官文書ナルヤ否ヤヲ解決セザルヘカラス依テ本件被告等ノ偽造シタル葉煙草包裝札カ官文書ノ性質ヲ有スルヤ否ヤヲ審查スルニ原判文第二事實ノ摘示ノ冒頭ニ於テ「被告延太郎ハ云々秦野專賣支局松田出張所ニ於テ其ノ名義ニ於テ作成セラレ便宜上包裝葉煙草ニ附着シタル儘拂下ケ是ニ依リ該葉煙草ハ政府ヘ納付後拂下ケラレタルコトヲ證明シ得ヘキ效用アル包裝札ヲ偽造セント企テ云々秦野專賣支局松田出張所名義ノ包裝札六十八枚合計六十九枚ヲ偽造シ云々」ト記載シタルヲ始メトシテ被告龜太郎モ亦松田出張所名義

五三

官文書ノ意義○行使ノ意義

二百三十三

ノ包裝札ヲ偽造シタル旨ヲ判示シタル後證據證明ニ關スル部分ニ於テ被告龜太郎外一人官  
 文書偽造行使事件記録中高畑千畝ノ訊問調書ヲ援用シ「包裝札ナルモノハ葉烟草專賣法改  
 正ノ後即チ明治三十二年三月以後ハ大藏省專賣局長ヨリ全國ノ支局長ヘ達セシ取扱規定ア  
 リテ之ニ依リ作リシモノナル旨記載」云々ト判示シ包裝札ノ官文書ナルコトヲ認メタル所  
 以ノ理由ヲ説明セリ右原院カ證據ニヨリテ認メタル事實ニ依レハ本件ノ包裝札ハ葉烟草專  
 賣支局ニ於テ所屬官應ノ達ニ基キ其事務取扱上ニ於テ作成スル書面ニシテ官文書タルコト  
 明カナリ既ニ右包裝札ナルモノカ其性質ニ於テ官文書タル以上ハ其本來ノ效用ハ專賣支局  
 内ニ限ルモノニシテ葉烟草ノ種類品質數量等ヲ公證シ若シクハ其密賣ヲ豫防スル爲メニ作  
 成シタル具ニアラサルコト所論ノ如クナリトスルモ之レヲ偽造行使スルニ於テハ局外ニ於  
 テ之レヲ使用シタル場合ト雖モ尙ホ官文書偽造行使ノ所爲アルモノト斷定セサルヲ得ス何  
 トナレハ眞正ナル包裝札カ局内ニ於テ一旦其效用ヲ爲シ了リタルトキハ其包裝札ハ反古ト  
 ナリタルモノト謂ヒ得ヘキモ眞正ナル包裝札ヲ模擬シテ新タニ包裝札ヲ偽造スルハ包裝札  
 ノ反古ヲ偽造スルニアラスシテ常ニ官ノ文書タル包裝札ヲ偽造スルモノニ外ナラサルヲ以  
 テナリ且ツ書類ノ官文書タルヤ否ヤハ常ニ其書類本來ノ性質ニ因リテ定マルモノナレバ其  
 性質ニ於テ官文書タル書類ハ其用法ノ如何ニ拘ハラス常ニ官文書タルノ性質ヲ有シ是レヲ  
 其本來ノ用途ニ供セスシテ他ノ目的ニ使用シタルカ爲メ此性質ヲ失却スルノ理由ナシトス  
 隨ツテ官文書ヲ偽造シテ之レヲ行使シタルトキハ其文書ノ效用其行使ノ目的及ヒ方法如何

ニ拘ハラス官文書偽造罪カ完全ニ成立スヘキ筋合ニシテ被告等カ包裝札ヲ偽造シ其本來ノ  
 效用ニ從ヒ之レヲ局内ノ用途ニ供シタルトキハ官文書偽造トナリ是レヲ局外ノ用途ニ供シ  
 タルトキハ官文書偽造トナラスト主張スルカ如キハ官文書ノ性質ト相容レサル論旨ナリト  
 謂ハサルヲ得ス故ニ本件ニ在リテ原院カ被告等ニ官文書偽造行使ノ所爲アリトシ刑法第二  
 百三條ニ問擬シタルハ相當ニシテ被告延太郎上告趣意ノ前段並ヒニ被告龜太郎、勇吉辯護  
 人ノ上告趣意ハ共ニ理由ナク被告延太郎上告趣意書ノ後段ハ漫然原判決ヲ違法ナリト主張  
 スルニ止マリ其違法ノ點ヲ明示セサルヲ以テ是レニ對シテ辯明ヲナスノ要ナシ  
 辯護人秋山源藏上告趣意擴張書ノ第二點ハ前記第一點ニ説明スルカ如ク本件包裝札ナルモ  
 ノハ其性質效用ニ於テ葉烟草ノ密賣ヲ防ク爲メニ作製セラレタル文書ニアラサルコト明白  
 ナルニ拘ハラス原院ハ之ヲ以テ葉烟草密賣ヲ取締ル爲メ作製セラレタル官文書ナリト判定  
 シ其理由ニ該文書偽造者ノ意思カ密賣品タルコトヲ慮リテ不正品タルコトヲ隱蔽センカ爲  
 メニシテ且右物品ノ買受人ヲシテ充分欺クニ足ルノミナラス其買受人モ亦該包裝札ノアル  
 テ以テ不正品ニアラサルコトヲ信スルニ足ルモノナレハ之ヲ以テ包裝札ナルモノハ葉烟草  
 ノ密賣ヲ豫防スル效用アルモノナリト辯明シタルトモ元來官文書ノ性質及ヒ效用ナルモノ  
 ハ其作製ノトキニ於テ已ニ定マルモノニシテ一旦或一定ノ目的ノ爲メニ作成セラレタル文  
 書カ其作成者以外ノモノ之ヲ模造スルニ當リ特種ノ意思ト目的トヲ以テ擬製シタルハトテ  
 其模造者及其以外ノ者ノ意思ト目的トニヨリ其效用ヲ變更セラルルモノニアラス然ルテ原

院本件ハ包裝札ナルモ專賣支局内ニ限レル事務取扱上ノ便宜ニ止ル効用ヲ目的トシテ作成セラレタルモノナルコトヲ認メナカラ其模造者カ該札紙ノ効用ヲ他ノ方面ニ利用セシメテ之ヲ以テ直ニ該文書固有ノ性質ト効用トヲ擴張シ元來作成者ノ意思ト目的トヲ包含セサル效果ヲ有セシメタルハ判決ノ理由齟齬シタル不法ノ裁判ナリトスト云フニアリ○依リテ按スルニ官文書ヲ作成スル所以ノ目的其本來ノ効用ハ一定シテ動カス可カラサルモノナルコトハ論ヲ俟タサル所ナリト雖モ官文書ヲ作成スル所以ノ目的及其本來ノ効用如何ニ拘ハラス之ヲ他ノ目的ニ使用シ之ヲシテ其本來定マレル効用以外ノ効用ヲ致サシムルコトハ決シテ爲シ得ヘカラサルコトニアラス故ニ包裝札ハ所論ノ如ク本來葉烟草ノ密造ヲ豫防スルノ用ニ供セラル、モノニアラストスルモ當業者カ是レヲ葉烟草ニ結付ケタルマ、取引ヲ爲ストキハ包裝札ハ元ト葉烟草專賣支局ニ於テ作成スルモノナレハ取引ノ相手方ハ包裝札ノ結付ケアル以上ハ其葉烟草ノ密賣品ニアラストノ信念ヲ生スルコトアルヘク此場合ニ於テハ包裝札ハ其本來ノ効用以外ノ効用ヲ爲シタルモノト謂フコトヲ得ルハ勿論是レカ爲メ包裝札本來ノ効用ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシトス而シテ原判文ヲ見ルニ原院カ包裝札ヲ以テ葉烟草ノ密賣ヲ取締ルカ爲メニ作成セラレタル官文書ナリト判示シタル形跡ナシ原院ハ單ニ包裝札ハ葉烟草カ政府ヘ納付後拂下ケラレタルコトヲ證明スルノ効用アリトシニ包裝札ハ葉烟草營業者間ニ於テモ密賣品ニアラサルコトヲ確カムル効用アルヤ明カニシテ被告等ハ即チ其効用ヲ利用シ以テ其密賣品タルコトヲ隠蔽シテ賣却セシコト明

ラカナルヲ以テ云々ト判示シタルニ過キサルヲ以テ毫モ理由齟齬ノ點ナク本論旨モ亦理由ナシ

其第四點ハ原判決書ニ記載セラレタル被告龜太郎ノ第四ノ事實即チ被告カ模造セル包裝札ヲ添付シテ葉烟草賣業石橋保右衛門ヘ百二俵ノ葉烟草ヲ賣却ノ爲メ同人方ヘ送付シタルモ同人ハ注文品ト相違セルニ付キ預リ置キタルモノナレハ右賣買取引ハ未タ成立セザルモノナレハ假リニ該葉烟草ニ添付セル包裝札ハ被告ノ偽造ニ係ル官文書ナリトストルモ未タ其行使ヲ爲サルモノナレハ之レヲ以テ已遂罪ニ間擬シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法ノ判決ナリトスト云フニ在レドモ○官文書ノ偽造行使罪ヲ斷スルニ當リ偽造官文書ノ行使アリトスルニハ偽造ノ官文書ヲ他人ニ示スノミニテ足ルヲ以テ被告龜太郎カ偽造ノ包裝札ヲ添付シタル葉烟草ヲ石橋保右衛門ニ送付シ之レヲ示シタル以上ハ包裝札ノ偽造行使罪ハ完全ニ成立スヘク之ヲ送付スルニ付キ被告ノ目的トシタル賣買取引カ成立シタルヤ否ヤハ毫モ本罪ノ成立ニ影響ナシ故ニ原院カ被告龜太郎ヲ已遂罪ニ間擬シタルハ相當ニシテ上告ノ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十五年六月十二日於大審院第二刑事部公延檢事小宮三保松立會宣告ス

●證書騙取事件

明治三十五年(レ)第七四三號  
明治三十五年五月二十九日判決 (破毀)

眞正ノ證書中ニナシタル保證證書ノ騙取

判決要旨

甲者カ自己ノ所持スル真正ノ預證書ニ對シ乙者カ其ノ預金ノ保證債務ヲ負擔シタルカ如ク虚偽ノ記載ヲナシ以テ乙者ニ對スル保證債權ノ證書ヲ騙取シタル事實ヲ認メナカラ其ノ證書ノ全体ヲ舉テ被害者タル乙者ニ還付スヘキモノト判決シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 盛岡地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 小原倉之助

右證書騙取被告事件ニ付明治三十五年三月十八日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書第三點ハ原判決ハ「現在ノ贓品タル金五十五圓ノ保證人付預リ證書ハ刑法第四十八條ニ依リ十八條ニ依リ被害者ニ云々還付スヘシ」ト判定セラレタリ然レトモ刑法第四十八條ニ依リ被害者ニ還付スヘキ贓物ハ被害還一己ノ資格ヲ以テ自由ニ處分シ得ヘキ物件ナラサルヘカ

ラス本件ノ預證書ハ主タル債務者瀬川儀藏ヨリ倉之助ニ宛タルモノニシテ多藏ハ單ニ保證人トシテ記名シタルニ過キサレハ之レカ還付ヲ受クルコトアルモ自由ニ處分シ得サルモノナリ又儀藏ト倉之助間ニ真正ニ成立シタル證書ニ對シ欺キテ保證ヲナサシメタリトテ證書全部ヲ其保證人ニ還付スルモノトセハ儀藏ニ對シ後日請求シ得ヘキ證據物ヲ失フノ結果ヲ見ルニ至ルヘシ然レトモ儀藏倉之助間ニ於テ有效ニ成立シタル證書ニ對シ假令欺キテ保證セシメタルモノトスルモ之レカ爲メ證書全部ヲ倉之助ノ手裡ヨリ脱離シテ保證人一己ニ歸セシムルノ理ナシ故ニ本件ノ如ク單ニ「保證人」タルノ記名ヲナサシメタル場合ハ刑法第四十三條第三號ノ「犯罪ニ因テ得タル物件」ニ該當スルモノナルヲ以テ其保證人トシテ記入シタル部分ハ之レヲ沒收シ其他ノ部分ハ差出人タル上告人倉之助ニ還付スヘキモノナルニ然ラスシテ前掲ノ如ク判決セラレタルハ失當ヲ免レズト信スト云フニ在リ○因テ原判決ヲ査閱スルニ本件被告カ高橋多藏ヲ欺キ騙取シタルモノハ金五十五圓ノ預リ證書中多藏カ保證債務ヲ證スヘキ部分ニ限リ證書全部ニアラサルヤ明カナリ何トナレハ瀬川儀藏カ主タル債務ヲ證スヘキ部分ハ正當ニ儀藏ヨリ差入レタルモノナルヲ以テ被告カ之ヲ騙取シタルモノニアラサルコト固ヨリ論テ疑タサレハナリ故ニ右證書中多藏カ保證債務ヲ證スヘキ部分即チ該證書ノ末尾ニ多藏カ保證名義ヲ記入シタル一部ハ之ヲ多藏ニ還付スヘキモ其他ノ部分ハ之ヲ差出人ニ還付セサルヘカラス然ルニ原院カ其全部ヲ被害者高橋多藏ニ還付スヘキモノトシテ控訴ヲ棄却シタルハ擬律錯誤ノ失當アルモノニシテ本論旨ハ結局其理由アルモ

真正ノ證書中ニナシタル保證證書ノ騙取

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

右

小原倉之助

原判決ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十九條第一項第三百九十四條ニ該リ再犯ニ付第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ其刑期範圍内ニ於テ被告ヲ重禁錮十月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス金五十五圓ノ預リ證書中高橋多藏カ保證債務ヲ證スヘキ部分ハ被告カ騙取シタルモノニシテ且被告ノ手ニ現存スルヲ以テ刑法第四十八條ニ依リ之ヲ被害者高橋多藏ニ還付シ同證書中其他ノ部分並ニ他ノ押收物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ刑法第四十五條ニ依リ被告ノ負擔トス

明治三十五年五月二十九日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

●森林法違犯事件 明治三十五年(八)第八四二號(棄却)

判決要旨

公訴不受理ノ言渡若クハ管轄違ノ言渡確定スルモ公訴權

消滅ノ原由タラス從テ此等ノ裁判ヲ受ケタル被告ニ對シ更ラニ適法ノ公訴ヲ提起スルモ一理不再理ノ原則ニ違犯スルモノニアラス

說明

公訴不受理ノ判決。本案ノ審理ニ立入り公訴權ノ消滅若クハ其ノ他ノ理由ニ依リ之レヲ罰ス可ラサルモノトシテ此ノ判決ヲ言渡シタル場合ハ格別荷モ本案ノ審理ニ入ラヌ若クハ其ノ審理ニ入ルモ公訴提起ノ形式ニ違法アリトシテ此ノ判決ヲ爲シタル場合ハ被告事件ニ對スル刑罰權ノ有無ヲ判定シタル裁判ニアラサルヲ以テ從テ亦タ此ノ裁判確定ニ至ルモ之レニ對スル公訴權ノ消滅スヘキ理ナシ再ヒ正式ノ訴ヲ提起シ得ヘキヤ論ヲ待タサルナリ  
管轄違ノ判決。管轄違ノ裁判ハ被告事件ニ對スル裁判所ノ職權ノ有無ヲ判定スル所ニシテ刑罰權ノ有無ヲ決スル裁判ナラス從テ此ノ判決確定スルモ其ノ效力ハ未タ以テ刑罰權ヲ消滅セシムルニ足ラス刑罰權ニシテ已ニ消滅セサルモノトセハ之レニ對スル公訴權モ亦タ消滅スヘキモノニアラサルヤ勿論ナリトス何トナレハ公訴權ハ刑罰權ヲ實行スル一ノ手段ニ

公訴不受理及ヒ管轄違ノ判決ノ性質

○シテ刑罰權ト常ニ其ノ運命ヲ同スヘキモノナレハナリ  
要之ニ刑事訴訟法第六條ノ所謂確定判決トハ被告ニ對シ有罪無罪ヲ決シ  
タル裁判ノ謂ニシテ或ル場合ノ公訴不受理ノ裁判若クハ管轄違ノ裁判  
如キハ之レニ包含セサルモノト解スルヲ以テ隱當トナサルヲ得ス

第一審 水月地方裁判所下妻支部 第二審 東京控訴院  
被告人 寺崎寅五郎 辯護人 櫻原三四郎

右森林法違反被告事件ニ付明治三十五年四月十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對  
シ被告辯護人櫻原三四郎ヨリ上告ヲ爲シタル因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ  
判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ判決ナリ凡ソ同一ノ被告人ニ對シ同一ノ原  
因ニ基ク犯罪ヲ理由トシテ再ヒ公訴ヲ受理スヘキモノニアラスト信ス本件ハ曩ニ被告カ森  
林法違反ノ追訴ヲ受ケ豫審決定ニ依リ公判ニ付セラレタル末第一審裁判所ハ檢事ノ起訴狀  
ニ起訴ノ趣旨カ記載ヲキテ以テ公訴ノ提起ナキモノトシ公訴不受理ノ判決ヲ受ケタルニモ  
拘ハラス同檢事ハ再ヒ同一事件ヲ起訴シ依テ起リタル公訴ナレハ一事不再理ノ原則ニ抵觸  
スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ檢事ノ起訴ナシトノ理由ニ基キ本案判決ヲ爲サ  
ス直チニ公訴不受理ノ判決ヲ下シタルモノナレハ適法ナリ云々トアレトモ前述ノ如ク事實  
ニ於テ公判ニ於テ取調ヲ受ケタルコトハ事實本件記録ノ上ニ於テ明ナリ左レハ本件ハ曩ニ

一度公訴受理セラレタルコトハ事實爭フヘカラサルコト、信ス何トナレハ其判決ハ即チ公  
訴受理ノ結果ナレハナリ果シテ然ラハ本件公訴ハ一事再理ナルヲ以テ公訴不受理ノ判決ヲ  
爲サ、ルヘカラサルニ原院ハ上告人ノ申立ヲ却下シタルハ法律ニ違背シタル不法ノ判決ナ  
リト云ヒ「同追加申立ハ一度公訴受理シタル上ハ其事件ニ付テハ其判決ヲナスト否トニ係  
ラス又判決ノ本案ナルト否ラサルトニ關セス再ヒ受理スルトキハ一事再理ナルヲ以テ不法  
ナリ然ルニ原院ハ本案ノ判決ヲ爲サス直チニ公訴不受理ノ判決ヲ下シタルモノナレハ適法  
ナリト云フニ在レトモ前述ノ如ク不法ノ判決ナリト云フニアレトモ○檢事ノ起訴ナキ事件  
ハ裁判所ニ於テ之ヲ審理判決スルノ權限ヲ有セサルヲ以テ其事件ニ付テハ本案ノ審理判決  
ヲ爲サス換言セハ被告ヲ罰スヘキヤ否ヤハ之ヲ審理判決セサルコト恰モ裁判所ニ於テ管轄違  
ノ言渡ヲ爲シタルトキト同一ナリトス故ニ右等ノ場合ニ於テ裁判所カ取調ヲ爲スハ單ニ其  
事件ノ公訴ハ之ヲ受理スヘキモノナリヤ否又ハ其事件ハ裁判所ニ於テ管轄スヘキモノナリ  
ヤ否ノ點ニ止マリ其事件ノ本案即チ事件其モノハ之ヲ審理シタルト云フヘカラス而シテ論  
旨ニ所謂一事再理セストハ果シテ如何ナル意義ナルカヲ詳カニセスト雖モ若シ追加申立ノ  
如ク單ニ一タヒ裁判所ニ公訴ノ提起アリタル事件ハ裁判所ニ於テ其事件ニ付判決ヲ爲シタ  
ルト否トニ拘ハラス再タヒ之ヲ審理判決スルヲ得ストノ謂ナランカ右ノ如キハ固ヨリ法律  
ノ規定セサル所ナリ若シ然ラスシテ刑事訴訟法第六條ノ規定ニ依リ確定判決アリタルトキ  
ハ公訴權消滅スルヲ以テ再ヒ審理判決スルヲ得ストノ意義ナリトセンカ公訴權消滅ノ原因  
公訴不受理及ヒ管轄違ノ判決ノ性質

タル確定判決ハ被告ヲ罰スヘキモノト爲シ若シハ罰スヘカラサルモスト爲シタル判決ニ關  
ニシテ本件ニ於ケルカ如キ公訴不受理ノ言渡若シハ管轄違ノ言渡ノ如ク被告ノ罪責ノ有無  
ヲ定メサル判決ハ之ヲ包含セサルモノト解セザルベカラズ何トナレハ右等ノ判決ハ其趣旨  
ニ於テ公訴權ヲ消滅セシムヘキモノニ非サルニミナラズ若シ之ヲ以テ公訴權消滅ノ原因ナ  
リトセハ犯罪者ヲシテ濫リテ刑罰ヲ免カレシムルニ至リ法律ノ主旨ニ反スルヤ明カナルヲ  
以テナリ夫レ斯ク如ク公訴權消滅セサル以上ハ更ニ適法ク起訴アリタルトキハ裁判所ニ於  
テ之ヲ審理シ判決ヲ爲スハ當然ナルヲ以テ原判決ハ相當ニシテ右論旨ハ其理由ナシト  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

● 誣告事件 明治三十五年(元)第八〇〇號 明治三十五年五月二十九日判決 (棄却)

判決要旨

辯護人ハ被告人ノ代理人トシテ被告ニ代リ上訴ヲナスコ  
トヲ得ルニ止マリ獨立シテ上訴ヲ爲スノ權限ヲ有セス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 福島地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 齋藤 啓藏 外一名

辯護人 野副重一 高木益太郎

右誣告被告事件ニ付明治三十五年三月二十八日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被  
告等辯護人野副重一ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決  
スル左ノ如シ

辯護人高木益太郎辯明書ハ本件記録ヲ精査スルニ上告人阿部チカノ控訴ハ前審辯護人渡邊  
留藏丹野潔ノ兩人ヨリ爲シタルモノニシテ決シテ上告人ヨリ爲シタルモノニアラス抑モ辯  
護人ハ被告人代理行爲トシテ上訴ヲナスモノナリト雖其後被告人カ上訴ヲ爲サル以上ハ  
辯護人ノ上訴トシテ生存スルモノニシテ上訴期間ノ經過後被告人カ公判廷ニ於テ其上訴ヲ  
是認シタレハトテ被告人ノ上訴アリト言フヲ得ス何トナレハ上訴ヲ適式ニ爲サント欲スレ  
ハ一定ノ期間ト一定ノ方式ヲ要スレハナリ論者或ハ曰ハシ辯護人上訴ヲナシ被告人出頭シ  
タルトキハ別ニ上訴ヲ爲サスト雖モ對席判決ヲ言渡スヘキモノナルヲ以テ辯護人ノ申立ハ  
被告ノ控訴トナルモノナリト是レ控訴ノ生滅轉變ト其控訴ノ效力トヲ混同セシ謬論ナリ抑  
々辯護人ノ上訴ノ滅亡又ハ轉變スル場合(一)取下(二)被告人カ反對意見ヲ表示シタル時  
(三)被告人ノ適式ナル上訴アリタル時ナリトス由之觀是以上ノ事實發生セサル以上ハ辯護  
人ノ上訴ハ獨立シテ生存スルモノニシテ裁判所ハ之ヲ審理判定スル權義ヲ有スルモノナリ  
而シテ本件ハ前陳ノ如ク辯護人ヨリ控訴ヲナシタルモノニシテ上告人タル被告チカハ其期  
間經過後ノ控訴公判廷ニ於テ控訴シタリト陳述セルノミ從テ裁判所ハ辯護人ノ控訴ヲ審

辯護人ノ上訴權



理判決セザルヘカラサルニモ不拘被告人ノ控訴ヲ審理判決シタルハ刑事訴訟法第二百六十  
九條第七ニ適合スル違法アルモノナリト云フニアリ○依テ審按スルニ刑事訴訟法第二百四  
十三條ニ「辯護人ハ被告人ニ代リテ上訴ヲ爲スコトヲ得トアルヲ以テ辯護人ハ自家固有ノ權  
利トシテ上訴ヲ爲スノ權ヲ授與セラレタルニアラスシテ唯被告人ノ代理人トシテ上訴ヲ爲ス  
コトヲ許サレタルニ過キササルモノト解釋スルヲ相當トス辯護人ニシテ既ニ上訴ニ關シテ被  
告ヲ代理スルノ權限ヲ授與セラレタルモノニ過キササルモノトセハ被告ニ代リテ爲シタル辯  
護人ノ上訴ハ代理ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒ常ニ被告ノ利益ニ於テ其效ヲ生シ被告ノ上訴  
トシテ被告事件ヲ上級審ニ繫屬セシムルニ止マリ獨立シタル辯護人ノ上訴トシテ特ニ上級  
審ノ審理判決ヲ受クルノ效力ヲ發生スルコトナカルヘキハ敢テ説明ヲ要セサル所ナリ果シ  
テ然ラハ本件ニ於テ被告阿部「チカ」ニ代リテ爲シタル辯護人渡邊留藏丹野潔ノ控訴申立  
ニ對シ原院カ單ニ被告「チカ」ヨリ控訴申立ヲ爲シタルモノトシテ審理判決ヲ爲シタルハ相  
當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ判決スル左ノ如シ  
本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十五年五月二十九日於大審院第二刑事部公廷檢事奧宮正治立會宣告ス

●約束手形偽造行使并詐欺取財事件 明治三十五年(七)第七七六號 (棄却)  
明治三十五年六月五日判決

判決要旨

一定ノ權利關係ヲ證明スル效力アル文書ノ記載ヲ増減變  
更シタル結果證書本來ノ效力ヲ滅却シテ更ラニ新ナル別  
異ノ權利關係ヲ證明スルノ用ニ供セラル、トキハ其行爲  
ハ文書ノ偽造タリ  
證書ノ記載ヲ増減變更シタルノ結果唯其ノ證書ノ證據力  
ニ變動ヲ來スニ止マリ證書本來ノ證據力ヲ滅却スルニ至  
ラサルトキハ其ノ行爲ハ文書ノ變造タリ

說明

文書ノ偽造トハ不正ニ權利義務ノ證明タルヘキ文書ヲ新ニ作成スルノ所  
爲ヲ云ヒ變造トハ權利義務ヲ證明ス可キ真正ナル證書ノ記載ヲ増減變更  
シテ其文書ノ證據力ヲ不當ニ變更スルノ所爲ナリトハ一般學者ノ唱道ス  
ル所ナリト雖モ些細ニ之レヲ探究スルトキハ真正ナル文書ノ記載ヲ増減  
變更スル所爲ノ裏ニモ亦タ文書偽造ノ所爲アリ得ルナリ已ニ述ルカ如ク  
文書ノ變造ナルモノハ真正ナル證書ノ記載ヲ増減變更シ以テ其ノ證據力

文書ノ偽造變造ノ區別

不○當○ニ○變○更○ス○ル○所○為○チ○ル○カ○故○ニ○其○變○更○ノ○程○度○ハ○單○ニ○已○存○ノ○證○據○力○  
ノ○內○容○ヲ○短○縮○若○ク○ハ○伸○長○ス○ル○ニ○止○マ○リ○敢○テ○其○以○外○ノ○變○更○ヲ○包○マ○ス○故○ニ  
若○シ○此○ノ○程○度○ヲ○越○ヘ○變○更○ノ○結○果○其○證○據○力○ヲ○減○却○ス○ル○ニ○來○ル○ト○キ○ハ○增○減  
變○更○ノ○所○為○ハ○最○早○變○造○ノ○區○域○ヲ○脱○ス○ル○ニ○至○ル○ヘ○シ○而○シ○テ○斯○ル○變○更○ノ○結○果  
其○ノ○文○書○カ○更○ニ○別○異○ノ○權○利○關○係○ヲ○證○明○ス○可○キ○態○樣○ヲ○具○フ○ル○ニ○至○ル○ト○キ○ハ  
則○チ○前○キ○證○書○ノ○形○體○タ○ル○紙○片○ヲ○基○礎○ト○シ○テ○新○チ○ル○他○ノ○證○書○ヲ○作○成○ス○ル  
モ○ノ○ニ○シ○テ○一○箇○ノ○文○書○偽○造○タ○ル○ニ○外○ナ○ラ○サ○レ○ハ○ナ○リ

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院  
被告人 小野寺隆助 辯護人 高木益太郎

右約束手形偽造行使並ニ詐欺取財被告事件ニ付明治三十五年四月二十四日宮城控訴院ニ於  
テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告人高木益太郎上告辯明書ノ第二、八原院ハ小野寺榮三郎カ上告人隆助ニ明治三十二年六  
月十五日支拂期日ノ手形ヲ債務消滅後二ノ字ヲ三ノ字ト訂正シ其部分ニ實印ヲ押捺シテ他  
ノ負擔セル債務ノ爲メニ上告人隆助ニ交付シ上告人隆助カ之ヲ行使シタルヲ以テ私文書偽  
造行使罪ニ問擬シタルハ不法ナリ抑モ偽造ト變造トハ既存文書ト未存文書トニ因テ區別ス  
可キモノタルハ蓋シ争テキ理論ナリ然ルニ本件ハ單ニ明治三十二年ヲ明治三十三年ト訂正

シタルニ止マリ其權利關係ノ消滅後タルト否トニ論ナク決シテ未存證書ヲ造出シタルモノ  
ニアラスシテ變造罪タルヤ疑ヒナシ然ルニ偽造罪ナリト認メタル原院判決ハ不當ナリト云  
フニアリ○依テ按スルニ約束手形其他一般ニ權利義務ニ關スル證書ハ一定ノ權利關係ヲ證  
明スルヲ以テ目的トスルモノニシテ其證書カ證明ノ具トシテ效用ヲ爲スハ畢竟其證書記載  
ノ主旨ニ依リ證書ニ因リテ證明セントスル一定ノ權利關係ヲ證明スルノ效力ヲ有スルカ爲  
メニ外ナラス換言スレハ權利義務ニ關スル證書カ證書トシテ其固有ノ存在ヲ有スルハ其證  
書カ一定ノ權利關係ヲ證スルノ效力アルニ因ルモノトス故ニ權利義務ニ關スル證書ノ記載  
ヲ增減變更スルモ爲メニ特定ノ權利關係ヲ證明スヘキ證書本來ノ效力ヲ減却セスシテ單ニ  
其效力ヲ増減スルニ過キサルトキハ該證書ハ其效力ニ變更ヲ來タシタルニ拘ハラズ依然ト  
シテ存在ス可ク之レニ反シテ證書ノ記載ニ増減變更ヲ加ヘタル結果證書ハ其本來ノ證明力  
ヲ失却シ新タニ別異ノ權利關係ヲ證明ス可キ效力ヲ發生シタルトキハ前キノ證書ハ最早證  
書トシテ存在セス前キノ證書ノ形體タリシ紙片ヲ基礎トシテ新タナル他ノ證書カ作成セラ  
レタルモノト謂ハサルヲ得ス權利義務ニ關スル證書ニシテ既ニ斯ノ如キ性質ヲ有スル以上  
ハ證書偽造罪ヲ斷スルニ當リテハ證書ノ效力ニ着眼シ犯人カ新タニ證書ヲ作成シ又ハ既存  
ノ證書ヲ利用シ其記載ヲ増減變更シテ新タナル權利關係ヲ證スヘキ證書ヲ作成シタルトキ  
ハ證書偽造ノ所爲アリトス可ク既存ノ證書ノ記載ヲ増減變更スルモ單ニ其證書ノ效力ヲ變  
更スルニ過キサルトキハ證書變造ノ所爲アリトナステ正當ナリトス尤モ刑法第二百十條ニ

文書ノ偽造變造ノ區別

ハ「賣買貸借其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者」トアリテ  
 一見證書ノ形體ノミヲ基本トシテ偽造變造ノ區別ヲ爲シタルカ如シト雖モ既存ノ證書ヲ利  
 用シテ新タナル他ノ證書ヲ作成スルハ正サシク證書偽造ノ所爲ニ該當スルコトハ前述ノ如  
 シナルヲ以テ此所爲ハ同條ニ所謂「偽造」ノ中ニ包含スルモノト解釋セサル可カラズ而シ  
 テ原判決ヲ見ルニ本件偽造手形ノ材料ニ供セラレタル舊手形ハ支拂ニ依リテ其效ヲ失ヒタ  
 ル結果一片ノ廢紙ニ屬シ被告等カ改竄ヲ加タルノ前ニ於テ既ニ證書タルノ效用ヲ失却シ手  
 形面ニ記載セル手形上ノ權利關係ヲ廢スルノ效ナカリシモノニシテ被告等カ支拂期日ノ  
 「三十二年」ヲ「三十三年」ニ改竄シタルカ爲メ別異ナル一ノ手形カ新タニ成立シタル筋合ナ  
 レハ原院カ之レヲ手形偽造罪ナリト認メタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十五年六月五日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

判決要旨

謀殺事件 明治三十五年(レ)第八九六號 (棄却)  
 明治三十五年六月六日判決 (棄却)  
 刑法第三百十一條中「直チニ」ナル語ハ「姦所ニ於テ」ノ語ヲ承  
 ケタルモノトス從テ本夫カ姦通ノ現場ニ於テ直チニ殺傷

シタル行爲ハ其ノ豫謀ニ出テタル場合ト否トナ不問同條  
 ノ宥恕ヲ受クヘキモノトス

本件ハ説明ヲ要セス

(參照) 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先キニ姦通ヲ縱  
 容シタル者ハ此限ニアラス

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
 被上告人 佐藤嘉助

右謀殺事件ニ付キ明治三十五年四月十一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被  
 告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ニ履行シ判決スル左ノ如シ  
 上告辯明書ノ第一點カ法律カ殺傷ニ關スル特別宥減輕ヲ設ケタルノ理由ハ主トシテ犯人  
 ガ一時ノ感激ニ出テ意思ノ中正ヲ失ヒタルヤ否ヤニ在リ故ニ刑法第三百九條及第三百十一  
 條ハ何レモ犯人ノ意思ト行爲トノ間ニ(直チニ)ナル接續詞ヲ以テシタリ隨テ裁判所カ遺般  
 ノ刑ノ適用ヲ爲スニ方リテハ亦須シ犯人カ精思熟慮ノ結果犯シタルモノナルヤ將タ又タニ  
 時ノ感情ニ制セラレ前後ノ分別ヲナスニ違アラスシテ犯シタルモノナルヤ否ヤヲ究メサル  
 へカラス然ルニ本件ニ關シテ第二審裁判所ハ其刑ノ適用ヲ論スルニ方リテハ「本件被告ノ  
 行爲ハ本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫ヲ謀殺シタルモノナリ」云々ト判斷

姦所ノ謀殺

セラレタルニモ不拘而モ刑法第二百九十二條謀殺ノ本件ニ該當スルモノトセラレタリ由是  
 觀之所謂姦所ニ於テ直チニ(又、同時)姦夫ヲ殺害シタル所爲ト所謂熟慮精思ノ結果其犯行  
 ナテ遂ケタル場合トハ全然其性質ヲ異ニシ刑ノ適用ヲ異ニセサルヘカヲサレニ原院ハ事茲ニ  
 出テス法律上恕宥減輕ヲ與フヘキ場合ト否ラサル場合トテ混同シ直チニ謀殺罪ニ間擬セラ  
 レタルハ要スルニ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○刑法第三百十一  
 條ニハ「本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタルモノハ云々  
 トアルヲ以テ其「直チニ」ナル語ハ「姦所ニ於テ」ノ語ヲ承ケタルモノト解釋セサルヲ得ス左  
 レハ姦通現行ノ場所ニ於テ直チニ殺傷ヲ爲スニ於テハ良シ其殺傷ハ豫謀ニ出テタル場合ト  
 雖モ同條ノ宥恕ヲ與ユ可キモノナルコト勿論アレハ原判決ノ擬律ハ相當ニシテ錯誤アルコ  
 トナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年六月六日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

●私書偽造行使詐欺取財事件 明治三十五年第九六〇號(棄却)

判決要旨

自己ニ振出シタル郵便爲替券ト雖モ詐欺ノ手段ヲ以テ郵  
 便局ヲ偽罔シ其ノ券面ノ金額ヲ騙取スルノ所爲ハ詐欺取

財罪ヲ構成ス

說明

爲替振出人カ爲替資金トシテ券面ノ金額ヲ郵便局ニ拂込ミタルトキハ郵  
 便局ハ單ニ振出人ニ代テ其ノ拂込金額ヲ占有スト云フニアラスシテ拂込  
 ミタル金額ノ所有權ハ直チニ郵便局ニ歸屬シ振出人ハ之レニ對シテ債  
 權ヲ有スルニ過キス故ニ振出人ニシテ若シ其ノ拂戻ヲ求メントセハ債權  
 請求ノ原則ニ基キ已定ノ手續ヲ以テスルノ外其ノ金錢ニ對スル自己ノ所  
 有權ヲ主張シ之レヲ要求スルヲ得サルナリ果シテ然ラハ右金額ノ拂込者  
 (即チ振出人)ト雖モ詐欺ノ手段ヲ以テ其ノ券面ノ金額ヲ騙取スルノ所爲ハ即チ  
 他人ノ財物ヲ騙取スル所以ニシテ詐欺取財罪ノ構成ヲ妨ケサルモノトス  
 或ハ云ハシ郵便局ハ右爲替券ノ受取人ニ對シテ拂渡ヲナリルトキハ結局  
 振出人ニ對シテ其ノ金額ヲ拂戻サル可ラサルヲ以テ假令詐欺ノ手段ニ依テ  
 之レヲ騙取セラルモ取テ被害者タラス從テ之ニ對シテ詐欺取財罪ノ成立  
 スヘキ理由ナシト然レトモ凡ソ犯罪ハ犯意ト及ビ之レニ對スル所爲トタ  
 ニ存在セハ常ニ完成スヘシ何人カ如何ナル損害ヲ被リタルヤハ是レ民法  
 上ノ問題ニシテ刑罰ヲ斷スルニ當リ此等ノ問題カ如何ニ決セラルハモ敢  
 テ問フ處ニアラサルナリ假令今一步ヲ讓リ被害者ニ損害ノ事實アルヲ必

郵便爲替券ニ依ル詐欺取財

要下チスモ本件ノ場合ニ詐欺取財罪ヲ認ムルニ妨クル處ナカレハシ何  
ナレハ郵便局ニ對シ拂込ミタル爲替資金ハ局ノ所有ニ歸屬ストセハ之ヲ  
騙取スルノ所爲ハ局ニ對シ何等ノ損害ヲ生セスト云ラテ得サレハナリ

第一審 宇都宮地方裁判所栃木支部 第二審 東京控訴院  
被告人 齊藤平吉 辯護人 龜山 要

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十五年五月五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル  
判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決ス  
ルコト左ノ如シ

上告趣意書ヲ要スルニ第一ハ詐欺取財ニハ他人ノ財産權ヲ侵害スルノ事實アルヲ要シ刑法  
第三百九十條ノ財物ハ他人所有ノ財物ヲ指稱スルモノト解セサルヘカラス然ルニ被告カ右  
橋郵便局ニ於テ受領シタル金員ハ被告ノ所有ニシテ郵便局又ハ内田五郎ノ所有ニアラス明  
治三十三年法律第五十五號郵便爲替規則等ニ依ルニ爲替金ハ振出後拂渡前ニ於テハ郵便局  
又ハ受取人ノ所有ニ歸スルモノニアラス要スルニ郵便局ハ爲替金ヲ保管シ送金ノ手續ヲ爲  
スニ過キス是ヲ以テ若シ保管中不可抗力ノ爲メ滅失毀損シタルトキハ其損失ハ振出人ニ歸  
シ郵便局ニ其責メナシ然ラハ本件ハ原院ノ認ムル如クズルモ被告ハ被告所有ノ金員ヲ騙取  
シタルモノナレハ詐欺取財ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○郵便爲替ノ場  
合ニ於テハ郵便局ハ特定物ノ郵送ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ爲替資金トシテ拂込ヲ爲シ

タル以上ハ其金額ヲ指シテ拂込人ノ所有ナリト云フヲ得サレハ本論旨ハ理由ナシ○第二前  
段ハ前説述スル如ク爲替金ハ被告ノ所有ナルヲ以テ被害者ノ存スル理ナシ殊ニ原院ノ認定  
スル所ニ依レハ石橋郵便局長ハ成規ノ手續ニ依リ爲替金ヲ交付シタルハ爲替金ノ所有カ被  
告ニ存ナルト郵便局ニ存スルト判問ハズ郵便爲替法第十四條ニ依リ郵便局ハ被害者ニアラ  
ス然ルニ原判決ハ石橋郵便局ヲ被害者トシ該局ヨリ金圓ヲ騙取シタルモノト判斷セシハ擬  
律錯誤ナリト云フニ在レトモ○本件ニ付石橋郵便局ハ内田五郎ニ對シテ拂渡スノ義務アル  
ニ被告ガ詐欺ノ手段ヲ行フタルニ因リ錯誤ニ陥リ被告ニ拂渡スニ至リタルモノニシテ郵便  
爲替法第十四條ニ依リ最早正當ノ受取人タル内田五郎ヨリ拂渡ヲ要求セラルコトナシト  
雖モ個ハ受取人ヨリ拂渡ニ付異議ヲ唱ルモ其責ニ任セサルマテニシテ若シ郵便局ニ於テ正  
當ノ受取人ニ渡サント欲セハ被告ヨリ取戻シ更ニ五郎ニ拂渡スコトヲ得ヘキ筋合ナレハ一  
旦被告ニ拂渡シタルハ被告ノ犯法行爲ニ基因シタル損害ニシテ郵便局ニ被害ナシト云フヲ  
得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十四年六月十二日於大審院第二刑事部公延檢事與宮正治立會宣告ス

●詐欺取財及附帶私訴事件

明治三十五年(レ)第八六七號(棄却)  
明治三十五年五月二十七日判決

判 決 要 旨

調書ノ作成

豫審判事カ自己ノ口述ヲ書記ニ録取セシメ作成シタル調書ハ則チ豫審判事ノ作成シタル調書ニ外ナラス

二百五十六

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人望ナキコトヲ證明ス可キ模樣ニ付キ調書ヲ作レ可シ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模樣ヲ記載ス可シ(刑事訴訟法 第四百三條)

第一審 和歌山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴被告人 崎 中 善 楠 辯護人 今村カ三郎

右吉松善楠ニ對スル詐欺取財事件及ヒ附帶ノ私訴ニ付明治三十五年四月一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決中被告ヨリ上告ヲ爲シタルリ

辯護人今村カ三郎上告趣意書第四點一審判決ニ援用シ斷罪ノ證據ニ供シタル豫審判事ノ檢證證書ハ左ノ四個ノ理由ニ依リ違法無効ノモノトス(一)豫審判事カ臨檢地ニ於テ訊問シタル證人岡本伊左衛門ニ對シ刑事訴訟法第一百條第百二十二條ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメタル事(二)豫審判事ハ證人岡本伊左衛門ニ對シ刑事訴訟法第二百二十三條ノ證人タル資格ニ關スル訊問ヲナサ、ルコト(三)豫審判事ハ證人ニ對シ刑事訴訟法第三百一十一條ニ從ヒ岡本伊左衛門ニ調書ノ讀聞クヲ爲サ、ルコト(四)臨檢地ニ於テ作成シタル調書ニアラサルコト證人岡本伊左衛門カ唯檢證ニ立會ヒタルニ止マラス證人トシテ事實上ノ訊問及供述ヲ爲シタルコト

七六

七七

トハ檢證調書ノ記載ト同人カ證人トシテ署名捺印セルニ依テ明白ナリ果シテ然ラハ豫審判事ハ一般ノ規定ニ從ヒ前段摘示ノ法條ヲ遵守セサル可ラサルニ總テ是等手續ノ缺如セルハ該檢證調書ノ無効ノ理由トシテ最顯著ナルモノナリト信ス又調書ハ總テ訊問ノ場所又ハ檢證若クハ差押ノ場所ニ於テ作成スヘキモノタルコトハ調書ノ性質ヨリ推理スルモ亦刑事訴訟法第九十二條ノ法文ヨリ解釋スルモ明白ニシテ疑ヲ容レズ然ルニ本件檢證調書ノ海草郡西和佐村彼場ニ於テ判事ノ口述ニ依リ此調書ヲ作成ストアリテ判事ノ記憶セル事項ヲ臨檢地以外ニ於テ書記ノ録取シタル一ノ聽取書ニ過キス檢證調書トシテ效力アルモノニ非ス第一審判決ハ此違法ノ檢證調書ヲ採用シ(記録三七四裏ヨリ三七五表ニ渉ル)上告人等ノ有罪ヲ認定セル資料ニ供セリ故ニ原判決ハ結局被告ノ控訴ヲ理由アリトシテ一審判決ノ取消ヲナスヘキモノナルニ控訴棄却ノ判決ヲナシタルハ刑事訴訟法第二百六十一條後段ノ規定ニ背キタル判決ナリト云フニ在レトモ○岡本伊左衛門ナルモノハ明治三十四年一月二十四日本件ノ證人トシテ豫審判事ノ訊問ヲ受ケ式ニ從ヒ宣誓ヲ爲シタルモノナリ而シテ今論難スル所ノ檢證調書ハ其以後二月六日ノ作成ニ係ルモノナルコトハ彼此ノ文書ニ徴シ明白ノコトナリトス論旨ニ基キ該檢證調書ヲ查スルニ伊左衛門ヲシテ證人トシ記名捺印セシメタルハ同人カ疑キニ證人トシテ供述シタル事實ニ基キ檢證ヲ爲シタルヨリ斯クノ措置ニ出テタルモノニ過キスシテ其實同人ヲ立會人トシテ實地ノ臨檢ヲ爲シタルニ外ナラサルナリ故ニ前示第一乃至第三ノ手續ヲ履行セサルヲ以テ不法ト云フヲ得ス第四即チ臨檢地ニ於テ調書

調書ノ作成

二百五十七

ヲ作成セザルノ點ヲ論難スル所アルモ臨檢地ニ於テ調書ノ作成ヲナシ能ハサル場合抄ナカラサルモノニシテ必シモ臨檢地ニ於テノ作成ヲ要スベキモノニアラス故ニ檢證ヲ了リタルト同時ニ其場所ニ接スル村役場ニ於テ該調書ヲ作成シタルハ不法ニアラス又該調書ハ判事ノ口述ニ依リ作成シタルトノ點ニ對シ論難スル所アルモ刑事訴訟法第百三條第一項ニ豫審判事ハ犯罪ノ性質云々調書ヲ作ルヘシトアリテ此規定ニ依レハ檢證調書ハ豫審判事ノ作成スベキモノニシテ書記ノ作成スベキモノニアラス書記ハ唯タ之レヲ錄取スルニ過キサルモノナレハ書記カ判事ノ口述ニ依リ此調書ヲ作成セシハ當然ノコトニシテ之レヲ以テ該調書ノ效力如何ヲ論争スルヲ得ヘキモノニアラス以上説明スル如ク本件檢證證書ハ適式ニ作成セラレタルモノナルニ付第一審裁判所カ探テ以テ罪證ニ供シタルハ不法ニアラス從テ原院カ此點ニ付キ第一審判決ハ取消サハルハ相當ニシテ論旨ハ何レモ其理由ヲシテ左ノ理由ニ付キ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十五年五月二十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

（略）

●恐喝取財事件

明治三十五年(乙)第八五六號(棄却)

判決要旨

恐喝手段ヲ用ヒ財物ヲ交附セシメタル所爲ハ自己ノ有スル債權請求ノ目的ノ爲メニ出テタルト否トテ不問恐喝取財罪ヲ構成ス

不法ノ手段即チ盜取強取詐欺等ノ行爲ヲ以テ他人ノ財物ヲ領得スルモ其ノ目的トテ所不正ニ自己ヲ利スルニテ専ラ被害者ニ對シテ債權請求ニ在ルトキハ犯罪ヲ構成スルモノニアラストヘ方今或ハ一部ニ學者問ニ唱道セラル今其ノ理由トスル處ヲ聞クニ曰ク債權ノ請求ニ對シ任意ニ辨濟ヲ得サルトキハ之レカ要求ハ訴訟法ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ經由シテ強制執行ノ方法ニ據ラサル可ラサルニ此手段ヲ採ラシテ強テ直接ニ不適式ノ手段ヲ以テ財物ヲ領得スルハ是レ畢竟裁判ヲ蔑視シテ其ノ職權ヲ侵害シタルト云フヲ得ヘキモ債權ノ目的ノ之ニ依テ達スルヲ得ヘキカ故ニ手段其ノモノノ所爲カ獨立シテ刑法ノ明文ニ觸ル、場合ハ格別苟手是ナクシテ以テ犯罪ヲ構成スルモノニ屬ス

債權辨濟ノ恐喝





ラス唯其中間ニ介在スル請求ノ方法カ不穩ナリト云フニ過キス隨テ右不穩ノ所爲ニ對シ刑事法ノ責任ノ伴フモノアラシカ之レニ因テ處斷スルヲ得ルハ勿論ナリモ其所爲ノ不穩ナルカ故ニ適法ナル請求權及適法ナル金錢ノ受領ヲモ一括シテ強テ犯罪ノ構成ニ加ヘ以テ恐喝取財ニ問擬セラルヘキニアラス然ルニ原院ハ本件ニ於テ「假令其權利ヲ有スルモルモ(中略)恐喝其他不正ノ手段ヲ以テ債權ノ實行ヲ爲サシカ是則債務者ノ財産ニ對テハ侵害シテ被告ハ其方法ト結果トニ從テ刑法上ノ責任ニ任セサルヘカラ」ト説明シ債權ノ實行ト實行ノ方法トヲ一括擬同シ且其債權ノ存在ヲ明確ニセシテ直チニ刑法第三百九十九條第一項ヲ適用セシトシタルハ不當ニ法律ヲ適用シタルノミナラス理由明示ノ法則ニ違背セル不法判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ認定シタル事實ニ依リ古川「スミ」ニ辨濟ノ意思ナク金十圓ヲ被告等ニ交付シタルハ一ニ被告等カ行フタル恐喝手段ヨリ恐怖シタル結果ナルコトハ明瞭ナリ本件ニ付キ若シ被告等ニ何等シ債權ナカリシトセハ恐喝取財ノ罪ヲ構成スルコト勿論ナリ假令ヒ債權アリトスルモ辨濟ヲ爲サシムルニハ相當ノ手續ニ依ルニアラサレハ債務者ヲ強制スルヲ得ス恐喝手段ヲ用ニルカ如キハ固ヨリ正當ナル強制方法ニアラサルヲ以テ金十圓ノ交付ハ債務ノ辨濟ナリトスルヲ得スシテ恐喝ノ結果「スミ」カ心意上ノ自由ヲ失ヒ交付ヲ承諾シタルモノナリ而シテ恐喝ノ效果ニ因リ財物ノ交付ヲ受ケタルニ於テハ其交付ヲ受ケタル行爲ハ刑法第三百九十條ノ騙取ナリトス故ニ被告ハ債權ノ有無ハ本件犯罪ノ成否ニ關係ナキヲ以テ原院カ其有無ニ付判斷ヲ下サスシテ恐喝取財ノ

詐欺取財未遂及偽證事件

明治三十五年(乙)第一一〇號

(棄却)

明治三十五年六月二十日判決

判決要旨

「相濟」ト刻シタル印願ト雖モ押捺者ノ承諾ヲ證スル爲メ其名下ニ押捺スルニ於テハ法律上有效ノ調印タルモノトス

說明

本件ハ輕微ナル判例ニ似テ其ノ實最モ讀者ノ注意ヲ要スル所タリ方今辯護士事務若クハ會社銀行等ニ使用スル印願ニシテ往々其ノ使用ノ範圍ヲ定メンカ爲メ何々事務所事務用之印若クハ事務用ニ限り使用之印等ノ文言ヲ調刻シ其ノ文言以外ノ事項ニ對シ之レヲ押捺スルモ其ノ責ヲ負ハサルノ目的ヲ以テ此等ノ印願ヲ調製スル者アリト雖トモ右判例ニ依ルトキハ此等ノ行爲ハ法律上何等シ效力ヲ有スルモノニアラサルヲ知ルベキナリ蓋シ法律ノ規定ハ單ニ署名捺印スヘシト云ラニ止マリ其ノ印願ニ調

刻シタル文言ニ對シテハ何等ノ制限ヲ置カサルヲ以テ形體上稱シテ一ノ  
印願ト云フヲ得ヘクシハ之レヲ如何ナル事項ニ使用スルモ有效ノ捺印タ  
ルニ妨クル所ナクハナリ

第一審 松江地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 島田林次郎 辯護人 花井卓重 金重藏

右林次郎ニ對スル詐欺取財未遂謙吉竹一郎ニ對スル偽證被告事件ニ付明治三十五年五月十  
七日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告三名以上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟  
法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告林次郎上告趣意書ノ第二點ハ原判決ヲ閱スルニ押收第二號證ノ承諾書ニハ島田林次郎  
ノ記名調印アルヲ以テ云々トアリ然ルニ該承諾書ニハ被告ノ記名調印アルコトナシ其島田  
林次郎トアル文字ハ被告ノ筆跡ニアラサルハ勿論其印影ハ相濟ト刻シタル何人ヲモ表彰セ  
サルモノナルコトハ證據自體ニヨリテ明瞭ナルノミナラス本件起訴以來被告ノ記名調印ナ  
リト主張シタルモノナシ然ルニ原告記名調印ナリト斷言シタルハ證據自體  
ヲ誤認シタルモノニシテ其不法タルコト論ヲ俟タスト云フニ在レトモ○印影ニハ必スシモ  
氏名ヲ表彰スルノ要ナシ故ニ「相濟」ト刻シタル印願ト雖モ被告ノ承諾ヲ證スル爲メ其名下  
ニ捺捺スルニ於テハ被告ノ調印ニ外ナラス要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據判斷  
ノ批難ニシテ上告ノ理由ト爲ラス依テ刑事訴訟法第二百八十五條ニヨリ之レヲ棄却ス

明治三十五年六月二十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

強盜傷人事件

明治三十五年(九)第九一五號 (棄却)

判決要旨

二人以上共謀シテ強盜ヲナシ其ノ強奪ノ際傷人ノ所爲アリタルトキハ假令其ノ傷人ハ他ノ一人ノ所爲ナリトスルモ共犯者ハ共ニ強盜傷人ノ責任ヲ免カル、コトヲ得ス

說明

本件ニ於テ左ノ二點ヲ説明スヘシ(一)強盜傷人罪ノ成立スヘキハ傷人ノ行爲カ如何ナル時期ニ行ハレタルヲ要スル乎(二)二人以上共謀シテ強盜ノ所爲ヲ行フニ當リ一人ノ爲シタル傷人ノ行爲ハ如何ナル範圍ニ於テ他ノ共犯人ニ其ノ責任ヲ及スヤ是ナリ  
(一)強盜傷人罪成立ノ時期。強盜傷人ノ場合ニ於テ強盜カ人ヲ殺傷スルノ所爲ハ如何ナル時期ニ行ハレタルヲ要スルカ之レ本問ニ於テ講究ノ主眼トスル所ナリ強盜傷人ノ場合ニ於ケル殺傷ノ所爲ハ強盜ニ着手以後其ノ強盜タル事實ノ繼續スヘキ範圍内ニ於テ行ハレタルコトヲ要ス換言セバ

強盜傷人罪ノ成立時期

傷人ノ始期ハ強盗ノ着手ニ始リ其ノ終期ハ強盗タル事實ヲ消滅ニ終ル。

(一) 強盗ノ着手。如何ナル時期ニ強盗ノ着手アリタルモノトナスヤハ着手ノ意義ニ依テ之レヲ決スルヲ得ヘシ抑モ犯罪ノ着手ト云ハ行為ノ程度カ犯罪自體ト分離シテ他ニ獨立シテ存在ヲナスコト能ハサル迄ニ進行シタル時ヲ以テ犯罪ノ着手トナスハ現今ノ定説ナリ強盗ノ着手モ又タ此ノ觀念ヲ以テスルトキハ容易ニ之ヲ會得スルヲ得ヘキカ故ニ其ノ詳細ヲ略シ判例彙報第十三卷第六號(二)強盗タル事實ノ消滅。是レ強盗傷人ヲ行フ時期頃終點タリ強盗タル事實ノ消滅ト強盗タル所爲ノ消滅トハ同一ナラズ強盗タル所爲ノ消滅ハ募行強迫ヲ手段トシテ財物ヲ領得シ終リタルトキニ在リ犯人其ノ現場ニ在ルト否トハ強盗タル所爲ノ消滅ニ何等ノ關係ナシ反シテ強盗タル事實ノ消滅トハ財物ヲ領得シ終ルモ犯人未タ其ノ現場ヲ去ラサル間ハ勿論假令其現場ヲ去ルモ捕者ノ追及ヲ受ケタルトキハ之ヲ逃レ盡ササル間ハ尙ホ強盗事實ノ繼續中トス故ニ強盗事實ノ消滅ハ犯人其ノ兇行ノ現場ヲ逃レ盡スカ又ハ逃ルニ當リ之ヲ追捕スル者アルトキハ其ノ追及ヲ逃レ盡シタルトキニ在リト云ハサルヲ得ス故ニ犯人カ其現場ヲ去ラサル間若クハ去ルモ其追及ヲ逃レ盡ササル間ニシタル殺傷ノ所爲ハ未タ強盗傷人ノ範圍ニシテ刑法第三百八十條適用ヲ免レサルヘシ

(二) 共犯ノ場合ニ於テ一人ノ爲シタル殺傷ノ所爲ハ如何ナル範圍ニ於テ其責任ヲ他ノ共犯人ニ及スヤハ二人以上共謀シテ強盗ヲ行フニ當リ一人ノ爲シタル傷人ノ所爲カ他ノ一人ニ其ノ責任ヲ及スノ範圍ハ殺傷ノ所爲カ財物奪取ノ手段トシテ行ハレタル範圍ニ限リ財物ヲ奪取シ終リタル後ニ行レタル殺傷ノ行為ヲ包マズ何トナレハ凡ツ共犯ノ場合ニ於ケル共謀ノ範圍ハ其ノ目的タル犯罪行為ニ止マルヲ以テ原則トナスカ故ニ其ノ犯罪行為ヲ行ヒ終リタル後之レニ附加シテ特別ナル行為ヲ行フハ共謀ノ範圍以外ニ屬ス特此ノ點ニ對スル共謀ノ事實ヲ認ムルニアラスンハ其ノ責任ヲ他ニ嫁スルヲ得サルハナリ

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 有家 嘉吉

右強盗傷人被告事件ニ付明治三十五年四月二十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ第二審ニ於テ第一審ノ判決ヲ認メ自分ハ有家富太郎藤平芳太郎ト共ニ明治三十三年十二月十三日夜小高伴河方ニ押入り強盗傷人ヲ爲シタルモノト認メタルハ事實未タ盡サレル所アリ縱シ共謀シタルハ事實アリトスルモ自分ハ屋外ニ在リテ傷人ニ與ラサル

強盗傷人罪ノ成立時期

コトハ原判決ニ明記スル所ナリ然ルニ富太郎芳太郎等ト輕重ナキ刑ニ處セラレタルハ擬律ニ錯誤アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ認ムル如ク被告ハ他ノ被告ト共ニ強盜ヲ行ヒ其強奪ノ際ニ傷人ノ事實アル以上ハ假令其傷人ハ他ノ被告ノ行為ニ因ルモ犯罪自體ハ強盜傷人ナルヲ以テ原院カ被告ニ強盜傷人ノ罪アリトシテ處斷シタルハ相當ナリ而シテ法律ノ定メタル刑期ノ範圍ニ於テ刑ヲ定量スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ共犯ノ刑ニ比較シ刑ノ輕重ヲ爭論シテ上告ノ理由トナスヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十二條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年六月十二日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

官吏侮辱事件

明治三十五年(レ)第一〇三號

(棄却)

判決要旨

一、公廷内ニ於テ檢事ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加フルノ目的ヲ以テ檢事ニ面シタル儘故ラニ兩手ニテ顔ヲ撫テ大ナル咳嗽ノ聲ヲ發シ雙手ヲ高ク差伸シ大聲ヲ發シタル所爲ハ刑法第四百四十一條第一項形容ヲ以テ侮辱シタル所爲ニ該當ス

二、裁判所構内辯護士控所ニ於テ多數控者居合セタル際暗ニ檢事ヲ指シ侮辱ノ語ヲ放チ大聲演述シタル所爲ハ刑法第四百四十一條第二項公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル所爲ニ該當ス

三、公廷ニ列席シタル判事檢事等ニ對シ單一ノ行為ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ則チ一ノ官憲ニ對スル侮辱行為ニシテ列席者ノ數ニ應シ數罪ヲ構成スルモノニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ(刑法第百四十一條)

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 田中正造 辯護人 今村力三郎 高野金重 丸山喜太郎 高野雄四郎 丸山名政 天野敬一 新井要太郎 三好退藏 天谷恒太郎

辯護人ノ上告趣意ハ原院カ認メタル第一ノ事實即チ明治三十三年十二月二十八日前橋地方裁判所ニ於テ野口春藏外五十名ニ對スル兇徒聚衆被告事件公判ノ際檢事小林登志吉カ論告中被告カ咳嗽様ノ聲ヲ發シ雙手ヲ高ク差伸ハシタルノ事實ハ單ニ敬禮ヲ失シタルニ止リ未タ檢事ノ職務ニ對シテ形容ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタルモノト云フヲ得ス然ルニ之ニ對シテ刑法第四百一條第一項ヲ適用シタルハ不法ナリ又第二ノ事實即チ前同日前橋地方裁判所辯護士控所ニ於テ「アノ野郎賄賂ヲ取リヤカツタニ違ヒナイ云々」ト述ヘタルハ被告カ獨語ヲナシ不滿ヲ表シタルニ過キス然ルニ之ヲ以テ公然ノ演說ナリト認メ刑法第四百一條第二項ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在リ」其擴張書第一點ハ原院カ認メタル第一ノ事實ハ故ニ兩手ニテ顔ヲ撫テ乍ラ二三回大ナル咳嗽様ノ聲ヲ發シタリト云フニアリ法院内ニ於テ故意ニ咳嗽ヲ爲スハ固ヨリ靜肅ヲ守ルヘキ傍聽人ノ行爲トシテ不穩當ナルヲ免レズト雖モ未ダ以テ刑法第四百一條ニ該當スヘキモノニ非ス抑一般國民ハ殊ニ官吏ノ職務ニ對シテ敬禮ヲ表スヘキ法律上ノ義務アルナシ從テ時ニ敬禮ヲ失シ不遜ノ舉動アルヲ侮ルタラト云ヒ得ク未タ之ヲ辱メタリト云フ可ラス故ニ官吏侮辱罪ニハ單ニ敬禮ヲ失シタリト消極的行爲ニ止マラスシテ更ニ官吏ノ職務止ノ名譽ヲ毀損スヘキ積極的行爲アルヲ要ス是レ刑法第四百十七條同第一百九條等ノ不敬罪ト官吏侮辱罪トノ差異アル所以ナリトス若シ官吏侮辱罪ノ成立ハ唯敬禮ヲ失シタリトノ消極的行爲ノミヲ以テ足レリトセバ遂ニハ國民ニ敬意ヲ表スヘキ義務アル場合ノ不敬罪ト斯ル義務ナキ場合ノ官吏侮辱罪ト區別セギニ至リ法律ノ權衡

ヲ失シ決シテ穩當ノ解釋ト云フ可カラス而シテ原院カ認メタル事實ハ未タ以テ官吏ノ職務上ノ名譽ヲ毀損スヘキ積極的行爲トナスニ足ラス或ハ原判決ニ「侮辱ヲ加フ」目的ヲ以テトアルヨリ上告人ニ侮辱ノ行爲アリト論スルモノアラザラン然レトモ縱令上告人ニ侮辱ノ意思アリトスルモ此意思ヲ發表スヘキ行爲ニシテ前段所論ノ如ク官吏ノ職務ヲ侮辱スルニ足ラサル時ハ獨リ侮辱ノ意思ノミヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノニアラス原判決ハ罪トナラサル所爲ヲ處罰シタルハ不法アリト云フニ在リ○然レトモ原院カ認メタル第一ノ事實ハ被告ハ公庭内ニ於テ立會檢事ノ職務ニ對シテ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ檢事ニ面シタル儘故サラニ兩手ニテ顔ヲ撫テナカラ二三回大ナル咳嗽様ノ聲ヲ發シ引續キ雙手ヲ高ク差伸シ更ニ大聲ヲ發シタリト云フニ在リテ其行爲ノ積極的タルキ勿論故サラニ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ此之如キ舉動ニ及ビタルモノナリ又其第三ノ事實ハ裁判所構内辯護士控所ニ於テ辯護士新聞記者廷下給仕傍聽人等數十名居合セタル際暗ニ檢事小林登志吉ヲ指シ「アノ野郎賄賂ヲ取リヤカツタニ違ヒナイ」云々ト大聲演說シタリト云フニ在リテ右第一ノ行爲ハ刑法第四百十一條第一項官吏ノ職務ニ對シテ其目的ニ於テ容形ヲ以テ侮辱シタル者トアルニ該當シ第二ノ行爲ハ同條第二項其目前ニ非スト雖モ云々公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者トアルニ該當ス故ニ原院カ該法條ヲ適用シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ナリトス「擴張趣意第二點ハ本件ノ公訴ハ豫審終結決定ニ依レハ列席ノ判事檢事書記ノ職務ヲ侮辱セリト云フニアリ而シテ第一審判決ハ其全部ヲ無罪トシ檢事ハ又其判決ノ全部ニ對シテ控訴シタルモノガ本

院、檢事ニ對スル侮辱罪ノミテ判決シ其他ニ及ハズ是刑事訴訟法第二百六十九條第七號ニ該當スル破毀ノ原由アルモノナリト信ス下云フニ在リ○依テ豫審終結決定書ヲ閱スルニ第一ノ事實ニ付テハ其侮辱ヲ受ケタル者ハ檢事ニ止マラサルコトハ上告論旨ノ如クナリト雖モ本件ノ如ク判事、檢事等カ訟廷ニ列席シ職務ヲ執行スルニ當リ單一ノ所爲ヲ以テ其職務ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル場合ニ在テハ即チ一ノ官憲ニ對スル侮辱行爲ニシテ一私人ヲ誹毀シタル場合ノ如ク各人ニ對シテ效果ヲ異ニスル類ニ非ス故ニ此場合ニ在テハ各人ニ對スル毎ニ一罪ヲ構成スルニ非スシテ全ク一箇ノ犯罪ナルカ故ニ審理ノ結果被害者ノ數ヲ増減スルモ之カ爲メ殊別ノ判決ヲ爲スヲ要セス則チ一判決ハ以テ請求ノ全部ニ對スルモノナレハ既ニ檢事ニ對スル侮辱罪アリト判決セシ以上ハ前掲法條ニ所謂請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ與ヘサルモノト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年六月十二日於大審院第二刑事部公延檢事與宮正治立會宣告ス

●淫行勸誘媒介事件

明治三十五年(七)第七七七號  
明治三十五年五月十六日判決 (棄却)

判決要旨

一、證據調ノ後檢事ニ於テ事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述スルハ其ノ職責ニ屬ス從テ裁判所ハ檢事ニ其ノ意見ヲ

陳述スルノ機會ヲ與フルヲ以テ足ル之レニ意見ノ陳述ヲ強ユルノ要ナシ

二、前項ノ場合ニ於テ檢事カ意見ヲ陳述セサルトキハ直チニ判決ヲ下スモ違法ニアラス

說明

裁判所ニ於テ檢事カ意見ヲ陳述スルハ訴訟當事者ノ一方則チ原告トシテ辯論ニ外ナラス之レヲ爲スノ機會ヲ與ヘサルハ辯論ノ道ヲ杜絶スル所以ニシテ對審裁判ノ原則ニ違反ス然レトモ已ニ陳述ノ機會ヲ與ヘタルトキハ之レヲ爲スト否トハ全ク檢事ノ自由ニ存ス其ノ之レヲ爲サルハ檢事ニ陳述スヘキ意見ノ存セサルモノト云ハサルヲ得ス直チニ判決ヲ與フルモ敢テ對審制度ノ原則ニ違反スルコトナク從テ又々之レヲ以テ違法判決ナリト云フヲ得サルナリ

(參照) 證據調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ(刑事訴訟法第二(百二十條第一項))

第一審 京都地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 藤田ステ

辯護人 岸本辰雄

右淫行勸誘媒介被告事件ニ付明治三十五年三月十七日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ刑事裁判所ニ於ケル檢事ノ意見

不法トシ被告官署上告ヲ爲シ刑部因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人岸本辰雄上告擴張書ノ第三點ハ原院公判ノ始末書ヲ査閲スルニ原院ニ於テハ檢事ノ申立トシテハ其冒頭ニ「被告イト、ステノ兩名ニ對スル犯罪ノ證據充分ナルニ拘ハラス前判決ニ於テ無罪ノ宣告相成タルハ失當ナルニ付キ原院檢事ヨリ控訴ニ及ヒタルヲ以テ更ニ審理ヲ求ム」ト述ベ一併記録ニ依リ本案事實ヲ陳ヘ證據ヲ舉ケタリトノ記載アリ又證據調濟後ノ論告トシテハ同調書ノ末段ニ「イト、ステニ對シテモ證據十分ニ付キ結局前判決ハ取消ヲ免レサルモノトノ辯論ヲ爲シ各被告共ニ有罪ナリトノ趣旨ヲ辯論シ」トアルニ過キズシテ檢事カ本件ニ付法律ヲ適用ニ關スル論告ヲ爲シシル形跡ノ認ムヘキモノナシ右ノ刑事訴訟法第一條同第二百二十條ニ違背シタル不法アリ同法第二百六十九條第六號ニ該當スル破毀ノ原由アルモノト思料ス(判例參照明治二十七年十月十五日大審院判決同年第七一六號)ト云フニ在リトモ○刑事訴訟法第二百二十條ニハ證據調濟ノ後檢事ノ事實及法律適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シトアルカ故ニ意見ヲ陳述スルハ檢事ノ職責タルヘシト雖モ裁判所ハ檢事ニ對シ意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與フルヲ以テ足り之ヲ強ユルノ要ナキモノトス從テ檢事カ意見ヲ陳述セスト雖モ判決ノ瑕疵トナル可キモノニアラス今原院公判始末書ヲ査スルニ原院ハ辯論ニ移ル旨ヲ告ケ檢事ハ意見ヲ陳述シアルヲ以テ其意見ハ法律ノ適用ニ及ハストスルモノヲ理由トシテ原判決ヲ攻撃シ得キモノニアラス

酒造稅法違犯事件

明治三十五年(九)第九一六號

(破毀)

酒造稅法違犯事件

判決要旨

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
酒造稅法違犯事件  
間接國稅犯則者處分法違犯ノ行爲ニ對シテハ其ノ第十四條第十五條ノ場合ヲ除クノ外間稅官吏カ其ノ事實ヲ發見シタル場合ハ勿論檢事又ハ他人司法警察官之レヲ發見シタル場ト雖モ間稅官吏ニ於テ同法第十一條ノ手續ヲ行ハシタル後ニアラサレハ告發ヲナシ又ハ檢事ニ於テ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

說明

間稅官吏ノ職掌ニ係ル稅務ノ犯則者ニ對シテハ司法裁判ノ權限ノ一部ヲ割テ之レカ稅務官吏ニ附與スル所ナルカ故ニ犯則者ニ對スル刑罰ノ處分ハ稅務官吏カ同法第十一條以下ノ規定ニ從テ其ノ權限ヲ實行シタル後ニ司法裁判所ハ之ニ對シテ裁判權ヲ行フヲ得サレ

稅務違犯者ニ對スル稅務官吏ノ權限

(参照) 間税署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調査及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スルキ物品並ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スルキ(通告書ヲ作リ之ヲ本人ニ送達スヘシ)(間接國稅犯則者處分)(法第十二條第一項)

(参照) 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間税署長又ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ(間接國稅犯則者處分法第十二條)

犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス(間接國稅犯則者處分法第十三條)

第一審 仙臺地方裁判所石巻支部 第二審 宮城控訴院

被告人 塚本榮助

右酒造法違反事件ニ付明治三十五年四月二十二日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スル處

被告ノ上告趣旨書第一點ハ原院ハ被告人カ酒造税法違反事件ニ付收税官吏ノ處分ヲ俟タズ司法警察官カ告發ヲナシタルニ基キ檢事カ起訴ヲナシタルハ違法ルナリ以テ該公訴ハ受理スヘカラサルモノナリト申立テ棄却シタル理由ノ要領ニ曰ク酒造税法違反事件ト雖モ刑事上ノ犯罪タル以上ハ司法警察官カ之ヲ檢舉シ檢事カ之ヲ起訴スルハ違法ナラスト云フニ在リ然レトモ酒造税法違反事件ニ就キテハ特ニ間接國稅犯則者處分法ナル特別法アリテ收税官吏カ之ヲ檢舉スヘキコトヲ規定セリ故ニ普通事件ノ如ク司法警察官カ之ヲ檢舉スルコトヲ得ルトセハ是レ一事件ニ付兩様ノ處分法アルモノト云ハサルヲ得ス由來國家ノ意思ハ

ニシテ三スルモノニテラス收税官吏ト司法警察官トヲ間ハス國家ノ機關タル以上ハ互ニ抵觸セサル處分ヲ國家カ認許スヘキ理由アルハ故ニ若シ互ニ相抵觸ヲ來スヘキ場合ハ必ズ其一ニ隨テ處分スル他ハ其處分ノ權能ヲ認メサルヘキハ當然ノ理由ナラズ是レ裁判所構成法第三十條ニ方テ裁判所ノ權限及之ヲ行フ範圍ニ就キテ特別法ノ定ムル所ハ特別法ニ隨ヒ其權限ニ屬スヘキモノト然ラサルモノトヲ決定スヘキ趣旨ヲ規定セル所以ニシテ而シテ同條ノ特別法トハ間接國稅犯則者處分法ヲモ包含シテ規定シタルモノト思考ス果シテ然ラハ間接國稅犯則者處分法ハ酒造税法違反事件ノ爲メニ特ニ規定セラレタル法律ナルヲ以テ該被告事件ハ同法ニ依テ處分スヘキモノニシテ普通刑事訴訟手續ニ依ルヘキモノニアラサルヘシ論者曰ク同法第一條ニハ「收税官吏ハ云々爲スコトヲ得」ト規定シテアリ而シテ其「得」規定シタル趣旨ハ收税官吏カ之ヲナスコトヲモ亦ナサハルコトヲモ得ルトノ趣旨ニシテ其之ヲナサハル場合ヲ法律カ認メタルハ是司法警察官カ之ヲ檢舉スヘキコトアルヲ豫期シタルカ故ナリト然レトモ是レ法文ヲ誤解シタモルノナリ抑モ同法第一條ニ於テ「收税官吏ハ云々爲スコトヲ得」ト規定シタルハ收税官吏ニ對シテ特ニ檢舉スヘキ權能ヲ與ヘラレタル收税官吏カ之ヲ行ハサルコトヲ得ルヤ否ヤハ官吏カ職務ヲ執行セサルコトヲ得ルヤ否ヤノ一般法ニ從フヘキモノニシテ同條カ此點ニマテ規定シタルモノニアラス御院民事部カ會テ區有財産ノ代表者ニ付キ町村制ヲ解シテ「云々區會ヲ設置スルコトヲ得」トアル「得」トノ法文ノ趣旨ハ設置スルコトヲモ亦設置セサルコトヲモ得トノ趣旨ニアラス區會ヲ設置

稅務違犯者ニ對スル稅務官吏ノ權限



スル權能ヲ與ヘタル趣意ナルカ故ニ區會ハ必ズ之ヲ設置セザルヘカラスト判決セラレタル理由ヲ對照シテ其正確ナルコトヲ知ルヲ得ヘシ既ニ同法第一條ノ趣意ニシテ前掲ノ如シトセバ收稅官吏ガ犯則者アル毎ニ絶對ニ之ヲ檢舉スベキ權限アルモノニシテ司法警察官吏ノ檢舉ハ法律カ認許セザルモノナルニ拘ハラズ此理由ヲ認メサルハ違法ナリト信ス云ヒ

第三點ハ原院判決ノ如ク司法警察官カ檢舉スルコトヲ得ルトセバ處分法第十四條ノ通告ニ就キ被告人ノ權利ニ重大ナル影響ヲ及ボスニ至ルベシ抑モ通告處分ナルモノハ徵收主義ニ基ケル和解手續ニシテ刑罰ニアラス而シテ收稅官吏ノ檢舉シタル場合ハ常ニ通告處分ニ依ルヘキヲ以テ被告人ハ之ヲ履行シテ刑事訴追ヲ受クサルコトヲ得ヘシト雖モ司法警察官ノ檢舉シタル場合ハ直チニ刑罰處分ヲ受クルニ至ルヘシ即チ同一事件ニシテ之ヲ檢舉スル國家ノ機關カ異ナルニ依リテ被告人ニ各異ナル制裁ヲ來タスニ至ル是レ豈ニ法律ノ眞意ナラシヤ又同一ノ犯則事件ニ付キ收稅官吏カ通告處分中ナルヲ知ラスシテ司法警察官カ告發ヲナシタル場合ニ於ケル處分ハ如何ニスヘキカ之ヲ管轄ヲ異ニシタル場合ニ推及セバ其混雜ハ如何之ヲ要スルニ現今犯罪者處分法ト刑事訴訟法ト之ニ關係シ裁判官ノ取捨スヘキ法律ノ規定ヲキテ以テ原院判決ノ如ク司法警察官ニ檢舉ヲ許ストセバ之カ裁判ニ支障ヲ生ズルヤ言テ俟タス而シテ法律カ此點ニ就キ何等ノ規定ヲナサルハ是豈司法警察官ニ檢舉ヲ許サシムル法意ナルナカラスヤ即チ原院判決ハ此點ニ於テ亦違法ナリト信スト云云云云在也

○因テ審檢スルニ間接國稅犯則者處分法第十七條ニハ「間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ

調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收該ル者ハ沒收スヘキ物品並ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシトアリ同第十二條ニハ「犯則者前條ノ通告書ヲ受ク通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セザル者ハ間稅署長若クハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ」トアリ又同第十三條ニハ「犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事事又ハ民事ノ訴ヲ爲スヲ得ス」トアリ而シテ同第十四條第十五條ニ於テ間說官吏カ直チニ裁判所ニ告發スヘキ場合ヲ規定セリ故ニ間接國稅犯則者ニ對シテハ間稅官吏ニ右第十四條第十五條ノ場合ヲ除外先ツ第十一條ノ通告ヲ爲シ犯則者カ其通告ノ旨ヲ履行セザルトキニ於テ初メテ告發ヲ爲スヘキ犯則者カ其旨ヲ履行シタルトキハ刑事民事ノ訴追ヲ免カルヘキモノトス而シテ此法律ハ固ヨリ總テ間接國稅犯則者ニ對スル處分法ナルヲ以テ間稅官吏カ其犯則者ヲ發見シタル場合ト檢舉又ハ他ノ司法警察官カ之ヲ發見シタル場合トニ因リテ其處分ヲ異ニスヘキ理由ナキノミナラス犯則者ニ於テ右通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ公訴權ハ消滅スルモノナレハ一面ニ於テ通告ヲ爲シ一面ニ於テ公訴ヲ提起スルカ如キハ固ヨリ法律ノ許サハル所ナリト云ハサルヘカラス然ルニ若シ檢舉ハ間稅官吏ノ告發ヲ待タスシテ公訴ヲ提起スルヲ得ヘシトセハ間稅官吏カ通告ヲ爲シタルニ拘ハラズ檢舉ノ之ヲ知ラスシテ公訴ヲ提起スルコトナシトスヘカラス而シテ其通告ヲ爲シタルハ告發ヲ爲スルニ間稅官吏ノ認定ニ因ルヲ以テ結局右犯則者ニ對シテハ間稅官

稅務違犯者ニ對スル稅務官吏ノ權限

吏ノ告發ヲ待ツニ非サレハ公訴ヲ提起スルヲ得サルモノト解セサルヘカラス然ルニ原院ハ  
檢事カ間稅官吏ノ告發ヲ待タズシテ提起シタル本件公訴ヲ適法ナリトシテ被告ノ控訴ヲ棄  
却シタルハ失當ニシテ上告ハ其理由アルモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決  
スル左ノ如シ

塚 本 榮 助

原判決ノ認メタル所ニ依レハ本件公訴ハ不適法ナルヲ以テ受理セズ  
明治三十五年六月三十日於大審院第二刑事部公延檢事奧宮正治立會宣告ス

紙幣偽造事件 明治三十五年六月二十日判決 (棄却)

判決要旨

上告ヲナスニ當リ單ニ法則ヲ適用セザル不法ノ裁判ナリ  
トシテ申立ヲシテ趣意書ヲ以テ其ノ理由ヲ明白ニセザ  
ルトキハ其ノ上告ハ無効タリ

單ニ上告申立書ヲ提出スルモ之ニ對スル趣意書ヲ提出スルニアラズ  
ハ有效ナルト告アリト云フヲ得サルハ已ニ判例ノ認ムル所タリ而シテ趣  
意書ノ目的ハ申立書ノ理由ヲ明白ナラシムルニアルヲ以テ此ノ目的ヲ缺  
クトキハ趣意書トシテ其ノ效力ヲ有セサルカ故ニ假令之レヲ提出スルモ  
有效ナル上告タルヲ得サルナリ

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
被告人 田村力太郎

右力太郎ニ對スル紙幣偽造事件ニ付明治三十五年四月二十八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタ  
ル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ  
判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ原院ハ法律ヲ不當ニ適用シ及ヒ法則ヲ適用セザル不法ノ裁判ナリト思料スト  
云フニ在リ○依テ按スルニ凡上告ハ第二審判決ニ對シ法律ニ違背シタルモノナリトテ理  
由トスルトキニ限リ其申立ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ其理由ハ趣意書ヲ以テ明白ニ指示  
スヘキモノナルコトハ趣意書ヲ以テ上告ノ要件トセシ法意ニ依テ甚タ明白ナル所ナリ故ニ  
假令名ハ趣意書ナリトスルモ其記スル所其違法ナリトスル點ヲ指示セザルカ爲メ原判決ニ  
對シテ其論旨ノ理由アリヤ否ヤヲ説明スルコト能ハサル場合ニハ上告ノ要件タル趣意書ニ  
アラサルハ明カナリ本件被告ノ上告趣意書ハ單ニ法律ヲ不當ニ適用シ及ヒ法則ヲ適用セザ  
ル上告趣意書ノ效力

ル不法ノ裁判ナリト云フ事ニシテ其不法ノ點ヲ指示セザルカ故其趣旨ヲ理由以テ否  
ヤラ説明スルニ由キキテ以テ右趣意書ハ趣意書ノ效力ナキモノニシテ結局本止告ハ不法  
シテ成立スルモノトナス  
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從テ判決スル所ト左ノ如シ  
本件止告ハ之ヲ棄却スル  
明治三十五年六月二十日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

●國稅徵收法違犯事件

明治三十五年(九)第九二七號  
明治三十五年五月三十日判決 (棄却)

判決要旨

納稅義務者ノ保證人未タ徵稅ノ告知ヲ受ケザル以前ニ財  
産ヲ隱匿脱漏シタルトキト雖モ其ノ後滞納者トナリタル  
トキハ國稅徵收法第三十二條ノ處罰ヲ免カル、コトヲ得  
ス  
國稅徵收法第三十三條ノ規定ニ納稅義務者タル責任ヲ負フモノシカ其ノ納  
稅義務者ノ保證人未タ徵稅ノ告知ヲ受ケザル以前ニ財  
産ヲ隱匿脱漏シタルトキハ國稅徵收法第三十二條ノ處罰ヲ免カル、コトヲ得  
ス

義務ヲ免カル、爲メ自己ノ財産ヲ隱匿脱漏シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ  
加ヘントスル者ヲ罰スルノ趣旨ナルカ故ニ其ノ隱匿若クハ脱漏ノ所爲ハ  
必スシモ滞納者トナリタル以後ニ行ハレタルコトヲ要セス其ノ以前ニ  
シタル隱匿若クハ脱漏ノ所爲ト雖モ後ニ至リ納稅義務者カ納稅ヲ滞納ス  
ルトキハ其ノ隱匿若クハ脱漏ノ所爲ハ等シク國庫ニ對シ危害ヲ及スヲ以  
テ之レヲ同條ニ問擬スル固ヨリ其ノ所ナリトス

(參照) 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ隱匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以  
下ノ重禁錮ニ處ス「差押物仲ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ隱匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ」情ヲ知  
テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス「前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アル  
モノハ本條ヲ適用セス(國稅徵收法第三十二條)

第一審 熊本地方裁判所 第二審 長崎控訴院  
被告人 野尻徳次郎 外三名

右國稅徵收法違犯事件ニ付明治三十五年四月十四日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對  
シ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如  
シ  
被告四名ノ上告趣意書ハ被告徳次郎カ所有財産ノ賣買其他ノ處分ヲ爲シタルハ法律上滞納  
者タル身分ナリシヤ否ヤヲ審究スルヲ要ス然ルニ本件第一審裁判所カ認定セラレタル如ク

免稅ノ爲メニスル財産ノ隱匿脱漏

第一審相被告ナル瀨井辰熊カ酒類造石税滞納セシモ被告徳次郎ハ只タ納税保人ニシテ第二ノ義務者タル資格ニ止マリ未タ直接納税義務アルニアラス假リニ一步ヲ譲リ直接納税ノ義務アルモノトスルモ未タ被告徳次郎ニ對シ國稅徵收法第六條ノ告知ヲ爲サルヘカラス此ノ告知ヲ受ケサル以前ニ於テ保人タル第二義務者ヲ直ニ滞納者ナリト論斷スルヲ得ス果シテ然ラハ滞納者タル身分ニアラサル被告徳次郎カ其財產ヲ賣買隱匿シタリトスルモ罪トナルヘキモノニアラス況ンヤ被告眞振徳常五郎ノ如キ知情賣買隱匿セリトスルモ犯罪ヲ構成スヘキ理アルヘカラス故ニ原院ノ判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトスト云フニ在レトモ○國稅徵收法第三十二條第一項ハ納税者カ其財產ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル者ヲ罰スルモノナリ而シテ其危害ハ納税者カ滞納者トナリタル時ニアラサレハ生セサルヲ以テ本條ノ適用ハ常ニ納税者カ滞納者トナリタル以後ニアリ是レ法文ニ滞納者トアル所以ニシテ滞納者トナリタル後ノ行爲ノミヲ罰スルノ法意ニアラス何トナレハ右藏匿脱漏ノ行爲カ納期前ニ在ルトキト雖モ滞納スルトキハ徵稅上危害ヲ加フルモノナレハナリ故ニ被告徳次郎ハ元來納税本人ニアラス第一審ノ相被告タル瀨井辰熊ノ保人ニシテ本件ノ行爲ハ代納義務者トシテ未タ徵收ノ告知ヲ受ケサル以前ニアルモ徳次郎ニ於テ其後滞納者トナリタル上ハ原院カ原行爲ヲ同條ニ問擬シ又之レヲ幫助シタル被告眞振、惟徳、常五郎ヲ同條第三項ニ依リ處罰シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス

●酒造稅法違犯事件 明治三十五年(オ)第八百八十六號 (棄却)

判決要旨

稅務管理局長ハ刑事訴訟法第二十條ノ所謂官吏ニ該當セ  
ス從テ其ノ作成スル告發書モ亦々同條ノ規定ニ從フヲ要  
セス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 官吏公吏ノ作ル可キ書翰ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用ユルト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ效ナカル可シ「官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ」(刑事訴訟法第二十條)

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 小川 至 辯護人 内藤 庄吉

右酒造稅ハ違反被告事件ニ件明治三十五年四月二十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護人内藤庄吉上告趣意擴張書ノ第四ハ刑事訴訟法第二十條第一項ニヨレハ官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ其作成ノ場所ヲ記載セサルヘカラス而ルニ本件告發書ヲ見ルニ此規定ニ違背セルニヨリ結局横濱稅務管理局長ノ作成ニ係ル告發書タルノ效力ナキモノトス然ルニ原院カ之ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○稅務管理局長ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪捜査ノ職務ヲ帶フルモノニアラス唯タ間接國稅反則者處分法第十七條ノ規定ニ從ヒ反則者ニ對シテ告發ヲ爲スノ職責ヲ有スルニ過キサルヲ以テ稅務管理局長ハ刑事訴訟法第二十條ニ所謂ル官吏ノ部類ニ入ラサルモノナレハ其作成スル告發書ニ付キ同條一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス隨テ本件ノ告發書ニ作成ノ場所ヲ記載セサレハトテ告發書ヲ無効ナリト主張スルコトヲ得サルモノトス況ンヤ告發書ニ横濱稅務管理局長ト明記シアル以上ハ作成ノ場所ノ同管理局ナルコトハ自カラ明白ナルニ於テオヤ故ニ何レノ點ヨリ見ルモ本論旨ハ理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年六月十二日於大審院第二刑事部公廷檢事奧宮正治立會宣告ス

●私印盜用私書偽造行使事件 明治三十五年(九)第八〇八號  
明治三十五年五月二十三日判決 (棄却)

判決要旨

判決ハ事件全體ニ對シテ之レヲ爲スヘキモノトス從テ其

ノ事件中ノ一部判決ヲ受ケサル點アルモ之ニ對スル控訴ノ效力ハ被告事件全體ニ及フ

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 神戸地方裁判所豊岡支部  
被告 人 小林 藤 助  
辯護人 上 嶋 山 和 夫  
太 田 莊 九 郎

右藤助ニ對スル私印盜用私書偽造行使事件ニ付キ明治三十五年三月十日大審院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシテ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十六條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
辯護人嶋山和夫上原鹿造上告理由擴張書ノ第二點ハ假リニ原判決ノ說明セル如ク私印盜用委任狀偽造行使ノ點ハ第一審裁判所カ審理判決シタルモノニ非ストセハ其審理判決セサルモノニ對シ控訴審カ第一審ニ代リテ之レカ審理ヲ爲シ而カモ第一審ニ於テ判決セシ他ノ事實ト牽連シテ判決スル如キハ尤モ不當タルヲ免レス何トナレハ控訴審ニ於テ第一審裁判所ニ代リテ或事ヲ爲スニハ刑事訴訟法第二百六十四條ノ外之レヲ認ムルコトヲ得サレハナリ然ルニ原院カ二箇ノ所爲ニ對シ第一審裁判所カ之レヲ遺脱シタリトノ理由ヲ以テ自己ノ職權ニ屬スルモノ、如ク誤解シ之レカ審理判決ヲ爲シタルハ前掲法條ノ趣旨ニ違背スルノミ

ナラス不作為不理ノ原則ヲ無視シタルモノナリトスト云ヒ辯護人太田莊九郎上告趣意擴張書ノ第一點ハ原裁判所ノ判決ハ刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ違背セル不法ノ判決ナリ其理由ハ本件ハ第一審裁判所ニ於テ被告藤助ヲ私書偽造行使ノ所爲ニ依リ重禁錮六月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ附テ押收物件ノ内一千七百二十圓ノ抵當權設定契約證ノ偽造ニ係ル部分ハ之レヲ沒收シ其他ノ書類ハ各被押收者ニ還附ス公訴裁判費用金八圓七十圓四錢ハ被告ノ負擔トスト言渡サレタル判決ニ對シ被告人ノミ控訴申立ヲ爲シタルモノニ係リ檢事ヨリ控訴又ハ附帶控訴ヲ爲シタルコトナシ然ルニ原判決法律適用ノ理由ニ於テ被告カ右金借證書及ヒ委任狀ヲ偽造行使シタル犯行ハ各刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ印影ヲ盗用シタル犯行ハ各同法第二百八條第二項第二百十二條ニ該リ數罪俱發ニ係ルヲ以テ同法第百條ニ依リ犯狀尤モ重キ金借證書偽造行使ノ犯行ニ從ヒ處斷シ云々第一審裁判所ニ於テ被告カ委任狀ヲ偽造シタリ又印影ヲ盗用シタリト豫審決定ヲ受理シナカラ其點ニ付何等ノ判決ヲ與ヘサリシハ失當ニシテ控訴ハ理由アルニ歸スルカ故ト説明シ以テ第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲナシタリ然リ而シテ第一審裁判所ニ於テハ被告ノ犯罪事實ヲ單ニ金借證書偽造行使ノ一個ノミ認定シタルコトハ第一審判決及ヒ原判決ノ文旨ニ微シテ明カナリ而カモ第一審判決ニ對シ控訴ヲナシタルハ被告人ノミナルニモ拘ハラズ原裁判所ニ於テ被告ノ犯罪事實ヲ金借證書偽造行使ノ外委任狀偽造行使及ヒ私印盗用ノ所爲ナリトシ三個ノ犯罪ヲ認メ數罪俱發ノ法則ヲ適用シ處斷シタルハ當サニ第一審判決ヲ變更シテ被告人ノ

不利益トナシタルモノナルコトハ甚々明瞭ナリ此點ニ付キ原裁判所ハ刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂被告人ノ不利益ニ變更トアルハ刑ノミニ關スルモノニシテ一罪ヲ數罪ト變更スルモ刑ヲ重カラシメサル限リ該條ニ違背スルコトナシト解釋シタルモノナルヘシト雖モ該條ノ法意ハ爾カク狹隘ニ解釋スヘキニ非ラサルノミナラス御院ノ判例ニ於テモ上告論旨ヲ是認セラレタル所ナリ之レヲ要スルニ原判決ハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ヲ無視シ第一審判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ニ歸セシメタル違法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○判決ハ被告事件全體ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナレハ假令其事件中一部ノ判決ヲ受ケサル點アルモ該事件ニ付既ニ終局判決アリタル場合ニ於テハ之レニ對スル控訴ハ該事件即チ被告事件ノ全部ニ涉ルモノト謂ハサルヲ得ス若シ此場合ニ於テ一部ニ付判決ナキモノトセハ遂ニ之レカ終局ヲ見ル能ハサルニ至ルヘシ是則チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ與ヘサルモノトノ理由ヲ以テ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトシ積極的判決ナキニ拘ハラズ上訴ヲ許シタル所以ナリ故ニ本件ノ如ク豫審決定ニ於テ公判ニ付シタル委任狀借證書偽造行使私印盗用被告事件ニ付借金證書偽造行使ノ點ノミニ對シ判決ヲ下シ委任狀偽造行使及私印盗用ノ點ニ付判決ヲ下サル第一審判決ハ即チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ與ヘサル不法ノ裁判ナリニ依リ其裁判ニ對シ控訴アリタルトキハ第二審ニ於テハ豫審決定ニ於テ公判ニ付シタル被告事件全體ニ對シ審理判決スヘキハ當然ナリトス又刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ原

判決ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ許サズトノ律意ナルヲ以テ第一審ニ於テ一罪トシテ判決シタル第二審ニ於テ數罪トスルモ其刑期ヲ重クセサル以上ハ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス故ニ論旨ハ孰レモ上告ノ理由トナラス  
右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年五月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

●詐欺取財事件 明治三十五年(九)第七二一號  
明治三十五年五月二十六日判決

判決要旨

一、刑事訴訟法中證人ノ訊問調書及ヒ宣誓書ニ被告事件ヲ明記スヘキ旨ノ特別規定アルコトナシ從テ其記載ナキモ無効ニ非ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 岐阜地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 長屋 泰 善

辯護人 岡崎 正也

右詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十五年五月二十四日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決

ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタル因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護人岡崎正也上告趣意擴張書ハ本件原裁判ノ引用セシ證人三島榮太郎豫審訊問調書ニハ被告事件ノ記載ナク又其宣誓書ニモ其記載アルコトナシ如此調書ハ如何ナル事件ノ證人調書ナルヤヲ確ムルニ由ナキヲ以テ無効ノ調書ナルコトハ先例ニ於テ定メラレタル所ナリトス(明治二十九年四月九日大審院判決同年第三九八號)故ニ原裁判ニ於テ右調書ヲ採用シ本件犯罪事實認定ノ材料ニ供シタルハ全ク違法ノ裁判ナリト信スト云フニアレトモ○證人三島榮太郎豫審調書並ニ其宣誓書ニ被告事件ノ記載ナキコトハ所論ノ如シト雖モ同人ハ本件被告ノ詐欺取財事件ニ付キ豫審判事ノ訊問ヲ受ク宣誓ノ上供述ヲ爲シタルモノニシテ原審ニ於テ採用シタル豫審調書ハ即チ其供述ヲ錄取シタルモノナルコトハ豫審調書ノ記載ニ徴シテ明カナルノミナラス刑事訴訟法中證人ノ訊問調書及ヒ宣誓書ニ被告事件ヲ明記スヘキ旨ノ特別規定ナクハ三島榮太郎ノ調書及ヒ其宣誓書ニ被告事件ノ記載ナクハトテ其調書ヲ無効ナリト主張スルコトヲ得ス但シ辯護人ノ援用セル當院明治二十九年四月九日判決ニハ所論ノ如キ判旨アレトモ右ノ判例ハ其後ノ當院ノ判例ニ依テ變更セラレ當院ハ新判例ヲ維持スルヲ相當ナリト認ム故ニ原院カ該調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

被告事件ノ記載ナキ調書及宣誓書

明治三十五年五月二十六日於大審院第二刑事部公庭檢事小宮三保松立會宣告ス

冒認事件 明治三十五年(九)第九六四號 (破毀)

判決要旨

委託物費消罪ハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親族者間ニハ成立セズ從テ裁判所ニ於テ被告ハ被害者ノ親族ナルコトヲ認メナカラ如何ナル親等ノ親族ナルカヲ明示セサル判決ハ違法ナリ

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 祖父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹五ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在

ラスニ若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分テタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス(刑法第三百七十七條)

此處ニ記載シタル罪狀即チ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス(刑法第三百九十八條)

第一審 盛岡地方裁判所 警非支部

被告人 志田兵四郎

辯護人 高木益太郎

右冒認被告事件ニ付明治三十五年五月五日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨ

リ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護人高木益太郎上告趣意辯明書第一ハ本件ハ委託物費消罪ニシテ一定ノ範圍ニ於ケル親族ハ不論罪ナルニ原院ハ上告人ト被害者熊谷うんとカ親族ナルコトヲ認メナカラ果シテ刑法第三百七十七條ノ親族範圍ニ屬スルヤ否ヤヲ說明セザレハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ閱スルニ被告ハ其親族ナル未成年者熊谷「うん」ノ所有ニ係ル無記名軍事公債證書五十圓券二枚ヲ「うん」ノ他ノ親族ナル佐藤源助及ヒ田中榮治ト協議ノ上之ヲ榮治ニ付託シ置タルニ佐々木善治ナル者之ヲ借受ケタキ旨申込ミタルヲ以テ榮治ハ被告及ヒ源助ト協議ノ末之ヲ善治ニ貸渡シ善治之ヲ所持シ居タル處被告ハ善治ト共謀シ云々野川重太郎ニ代金八十七圓五十錢ニテ擅ニ之ヲ賣却シタリトアリテ被告ト被害者トノ間ニ於ケル親屬ノ關係アルコトヲ認メタリ抑委託物費消罪ニ付テハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親族之レヲ犯ストキハ其罪ヲ論セサルハ同法第三百九十八條ノ規定スル所ナリ然ルニ原判決ハ被告ト被害者ノ親族タルコトヲ認メナカラ如何ナル親等ノ親族ナルヤヲ明示セザルハ不法ナリ何トナレハ若シ被告ニシテ同法第三百七十七條ニ掲ケタル親族ニ係ルトキハ罪ヲ論スルコト能ハサレハナリ故ニ原判決ハ上告論旨ノ如ク理由不備ニシテ破毀ノ原因アルモノトスニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認メタルヲ以テ他ノ論旨ニ對シ一々說明ヲ爲スノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ノ全部ヲ破毀シ本件ヲ函館控

親族間ノ受寄物消費



訴訟ニ移ス  
明治三十五年六月十九日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

（以下は判例本文の文字が非常に小さく、詳細な内容は読み取れず、主に縦書きの文脈が確認できる）

●恐喝取財事件

明治三十五年（レ）第一一六九號  
明治三十五年六月二十七日判決

（棄却）

判決要旨

公訴權ハ犯罪事實ニ依リ犯罪事實ト同時ニ發生ス公訴權ノ發生ハ必スシモ犯罪ノ完成シタルコトヲ要セス苟モ犯罪着手ノ事實アリテ之レニ未遂犯罪ノ成立ヲ認メ得ヘクシハ其ノ犯罪ヲ完成スル時期ノ如何ニ不拘之レニ對シ公訴權ノ發生ヲ妨ケサルモノトス

説明

公訴權發生原因。公訴權ハ犯罪事實ノ發生ト同時ニ發生ス犯罪事實カ相當官府ニ發覺シタルト否トハ公訴權ノ發生ニ何等ノ關係ナシ又タ公訴權ハ犯罪ノ完成ニ依テ始メテ發生スルモノニアラス苟モ犯罪着手ノ事實アリテ之レニ未遂犯罪ノ成立ヲ認メ得ヘクシハ其ノ犯罪ヲ完成スル時期ノ如何ニ不拘之レニ對シテ公訴權ノ發生ヲ妨ケス是レ公訴ノ目的ハ專ラ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルニ在テ存シ犯罪ノ證明ト刑ノ適用ハ必スシモ犯罪所爲ノ完成ヲ待ツノ必要ナキノミナラス國家ノ公益ヨリ考フルモ寧ロ

公訴權發生ノ原因

之レヲ其ノ未前ニ防止スルノ必要存スレハ... 公訴權ハ犯罪事實ノ發生ニ依リ供ニ發生ス...

第一番 大阪地方裁判所 第二番 大阪控訴院

被告人 森田 外一名

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十五年五月二十七日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不...

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ... 被告兩名上告趣意書ハ檢事カ公訴ヲ起ス...

公訴權發生ノ原因

ラス起訴カ形式上適法ナル以上飽迄適法ナリト云ハサルヘカラスト云フカ如キハ法理ノ正  
鶴ヲ誤リ論理ノ正確ヲ缺ケル違法ノ裁判ナリト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○檢事  
ノ公訴權ハ犯罪アルト同時ニ發生スヘキモノナルヲ以テ其既遂ナルト未遂ナルトニ論テク  
苟モ犯罪ノ成立ヲ認ムルトキハ檢事ニ於テ直ニ公訴ヲ提訴シ得ヘキコト勿論ナリ故ニ公訴  
提起ノ當時ニ在テ既ニ犯罪ニ着手シタル以上ハ未タ其目的ヲ遂ケス却テ公訴提起後ニ至リ  
テ其目的ヲ遂ケタルモノナリトスルモ公訴ノ效力ニ何等消長ヲ來タスヘキモノニアラス然  
レハ論旨ハ如ク本件起訴ノ當時ハ未タ金圓ノ授受ヲ爲サ、リシモノトスルモ既ニ犯罪ニ着  
手シタルモノナルニ依リ其起訴ノ有效ナルコト論テ待タサルノミナラス審理ノ結果金圓ノ  
授受ヲ爲シタルハ檢事ノ起訴後ニアリタリトスルモ爲メニ其起訴ノ效力ニ影響ヲ及ホサス  
故ニ論旨ハ上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年六月二十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

判決要旨

一、受命判事ハ臨檢ノ處分ヲ爲スニ當リ證人又ハ參考人ノ訊問ハ公判ノ證據  
問ヲ必要トスルトキハ之レヲ爲スコトヲ得

二、前項ノ場合ニ於ケル證人又ハ參考人ノ訊問ハ公判ノ證據  
調ニアラサルヲ以テ其供述ニ付キ被告人ノ意見ヲ徴シ辯  
解ヲ爲サシムルノ要ナシ

說明

一、刑事訴訟法第二百三十八條ノ規定ニ據ルトキハ裁判所ハ事實發見ノ爲  
メ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲサシメ其ノ報告ヲサシムルコトヲ  
得トノミアリテ證人參考人ノ訊問ニ付キ何等ノ規定ナシ茲ニ於テカ受  
命判事ハ臨檢ノ場合ニ於テ必要トスルトキハ證人參考人ノ訊問ヲナス  
コトヲ得ルヤ否ヤノ問題ヲ生ス。刑事訴訟法ノ規定ヲ通覽スルニ證人  
參考人ノ訊問ハ公判廷ニ於テスルニアラスハ絶對ニ之レヲ爲スコト  
サルノ規定ヲキノミナラス呼出テ受ケタル證人ニシテ疾病其ノ他ノ事  
故ニ依リ出頭スル能ハサルトキハ裁判所ハ受命判事ヲシテ其ノ居所ニ  
臨ミ訊問ヲサシムルコトヲ得ルハ第九十一條ノ規定スル所ナリ然  
リ而シテ凡ソ刑事訴訟ノ手續ハ法律ノ明文ニ抵觸セサル限りハ便宜ノ  
處分ニ出ツヘキハ蓋シ刑事訴訟法ノ精神ナルカ故ニ今若シ證人自身ノ  
障礙ノ爲メニ公判廷以外ニ於テ證人訊問ノ必要生シタル場合ニ受命判

受命判事ハ臨檢ノ場合ニ證人訊問ヲ爲スコトヲ得ルヤ

事ヲシテ之カ訊問ヲナサシムルヲ得ヘシトセハ臨檢處分ノ爲メニ證人  
 訊問ノ必要生シタル場合ニ於テモ尙且ツ是レカ訊問ヲ許サハルヲ得  
 ス公判廷外ニ於テ爲ス證人訊問ノ必要カ一ハ證人自身ノ障ノ基キ一  
 ハ臨檢處分ノ手續ニ存シ彼是レ其ノ必要ノ原因ヲ異ニスト雖モ其ノ訊  
 問ノ目的ハ共ニ刑事裁判ノ手續ヲ完成スルニアルカ故ニ受命判事ノ爲  
 ス證人ノ訊問ヲシテ獨リ第九十一條ノ場合ニアルカ之ヲ限定スルカ如  
 キハ寧ロ法律ノ精神ヲ無視スルモノト云フヘシ加之受命判事カ臨檢處  
 分ヲ爲スニ當リ證人參考人ヲ必要トスル場合ニ之ヲ爲スヲ得ストセハ  
 終ニ完全ナル臨檢ノ處分ヲ盡ス能ハサルニ至ルヲ以テ此ノ點ヨリ論ス  
 ルモ受命判事ノ臨檢ニ對シ證人參考人ノ訊問ヲ許スヲ以テ至當トナス  
 ノ理由アルヲ知ルヘキナリ

此ノ點ニ付キ今大審院ノ判示スル所ニ依レハ證人參考人ノ訊問ハ臨檢  
 處分ノ一部ナルカ故ニ受命判事ハ之レヲ爲スコトヲ得ヘシト云フニ在  
 リ然レトモ臨檢ナル法語ノ意義カ如斯廣義ノ意味ヲ有スルモノナリト  
 ハ吾人ノ俄ニ贊同スル能ハサル所ナリト雖モ暫ク記シテ本論決定ノ一  
 理由ニ加ヘントス

二受命判事ノ臨檢處分ハ公判ノ手續ヲ準備スル公判以外ノ一ノ訴訟手續

ナルカ故ニ公判ノ證據調ニ關スル第九十八條ノ規定ハ此ノ場合ニ適  
 用スヘキモノニアラサルナリ

(參照) 裁判長ハ各證人ノ取調終リタル毎ニ被告ハニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ證據ヲ提出スヲ得ヘキ  
 コトヲ告知ス可シ又證據物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシム可シ(刑事訴訟法第  
 百九十八條)

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 田子雅樂吉 辯護人 高木益太郎

右冒認被告事件ニ付明治三十五年五月十九日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告  
 ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ第二ハ公判開延後受命判事ヲシテ證人及ヒ參考人ヲ訊問セ  
 シムルハ刑事訴訟法上特別ノ場合ヲ除クノ外是ヲ許サハルハ明ナリ何トナレハ口頭審理ノ  
 定則ニ反スルヲ以テナリ然ルニ原院ハ受命判事伊藤浩藏カ檢證ノ際檢證ノ場所ニ於テ訊問  
 シタル參考人小泉才吉田子傳作證人鈴木軍三郎根本彦次郎ノ供述ヲ斷罪資料ニ供シタルハ  
 不法ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ被告事件公判裁判所ニ繫屬スルトキハ證人及ヒ參  
 考人ノ訊問ハ公判ニ於テ之レヲ爲スヲ通則トスルモ其訊問ハ公判ニ於テスルニスラサレハ  
 絕對ニ爲シ得ヘカサルモノニアラスシテ時アリテ裁判所ハ受命判事ニ命シテ其訊問ヲ爲  
 サシムルコトヲ得ヘキコトハ刑事訴訟法第九十一條ノ主旨ニ徴シテ明ナリ而シテ刑事訴  
 訟法第二百三十八條ニ依レハ裁判所ハ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得ル

受命判事ハ臨檢ノ場合ニ證人訊問ヲ爲スコトヲ得ルヤ

ヲ以テ臨檢ノ場所ニ於テ證人又ハ參考人ノ訊問ヲ必要トスルトキハ受命判事ニ其訊問ヲモ  
爲サシムルコトヲ得ヘキモノト解釋スルヲ相當トス蓋シ前掲第二百三十八條及第百九十二  
條ノ如ク受命判事ヲシテ證人參考人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定セズト雖モ  
臨檢ニ際シ證人參考人ヲ訊問スルノ必要アル場合ニ於テハ受命判事ノ臨檢ハ證人參考人ノ  
訊問ト相俟テ其效用ヲ全フスルコトヲ得ヘク證人參考人ノ訊問ハ即チ臨檢處分ノ一部分ヲ  
リト謂フコトヲ得ヘシ夫レ斯クハ如ク刑事訴訟法中公判以外ノ證人參考人ノ訊問ヲ絕對ニ  
禁スル旨ノ規定ナキノミナラス却テ之レヲ認許シタル法條アリ又タ臨檢ニ付必要ナル證人  
參考人ノ訊問ハ臨檢處分ノ一部分ヲ爲スモノトスル以上ハ裁判所ハ受命判事ニ臨檢ヲ命スル  
ニ當リ之レカ爲メニ必要ナル證人參考人ノ訊問ヲ命スルコトヲ得ヘキモノトナス  
ヲ以テ刑事訴訟法ノ主旨ニ適シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ原院カ被告ノ冒認被告事件  
ニ付キ福島地方裁判所平支部ニ於テ言渡シタル犯所檢證及同所ニ於テ證人訊問ヲナスノ決  
定ニ基ツキ受命判事伊藤浩藏カ檢證ノ場所ニ於テ爲シタル參考人小泉才吉等ノ訊問ヲ有效  
ナリトシ其供述ヲ斷罪ノ證ニ供シタルハ適法ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

其第三ハ原院ハ參考人小泉才吉田子傳作證人鈴木軍三郎根本彦次郎ノ供述ヲ採ツテ證據ト  
ナシタレトモ該供述タルヤ何レモ其供述セシメタル際(受命判事ノ檢證調查)被告ノ辯論ヲ  
求メサル不法ノ證據ナリ然ルニ原院カ之レヲ證據材料トナシタルハ違法ナリト信スト云フ  
ニ在リ○依テ審按スルニ辯護人ノ所謂被告ノ辯論ヲ求メサル不法ノ證據ナリトハ受命判事

カ第百九十八條ノ規定ニ從ヒ證人參考人ノ供述ニ對シ被告人ヲシテ辯解ヲ爲サシメザリシ  
トノ主旨ナラン然レトモ第百九十八條ハ公判ノ辯論ニ付キテ遵守スヘキ審理手續ヲ規定シ  
タルモノニシテ公判廷ニ顯出シタル證據ニ付キテハ常ニ必ラス被告ノ意見ヲ徵シ辯解ヲ爲  
サシムヘシトノ主旨ニ外ナラサルコトハ同條ノ位置及ヒ其規定ノ主旨ニ徵シテ明カナリ蓋  
シ事實裁判所カ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得ヘキ證據ハ常ニ必ラス公判廷ニ顯出シタルモ  
ノタルコトヲ要スルト同時ニ公判廷ニ顯出シタル適法ノ證據ハ總テ斷罪ノ證ニ供シ得ヘキ  
モノナレハ被告利益ノ爲メ公判廷ニ顯出シタル證據ニ付キ其意見ヲ求メ辯解ヲ爲サシメ且  
ツ之レニ對スル反證ヲ提出スルコトヲ得セシムルノ必要アリ是レ公判通則中ニ於テ特ニ第  
百九十八條ノ規定アル所以ナリ然ルニ受命判事ノ證人參考人ノ訊問ハ公判ノ證據調ニアラ  
ズ公判ノ證據調ヲ準備スル公判以外ノ一ノ訴訟手續ニシテ必スシモ被告ノ立會ヲ要セサル  
ヲ以テ被告ノ立會ナクシテ證人參考人ノ訊問ヲ爲スト時ハ其意見ヲ徵シ辯解ヲ爲サシムル  
コト能ハサルハ勿論ニシテ訊問ノ當時ニ於テ此手續ヲ爲サレハトテ其訊問ヲ違法ナリト  
スル筋合ナク被告カ其訊問ニ立會ヒタル場合ト雖モ其意見ヲ徵シ辯解ヲ爲サシムルノ必要  
ナキハ事理ノ當然ナリトス何トナレハ公判ノ證據調ニ關スル第百九十八條ノ規定ハ公判以  
外ニ於テナス受命判事ノ證據調ニ適用スルコト能ハサルハ多言ヲ要セスシテ明カナルヲ以  
テナリ而シテ受命判事ノ爲シタル檢證並ニ證人參考人ノ訊問ハ檢證調查ニ錄取セラレタル  
後其檢證調查ハ公判廷ニ於テ朗讀セラレ證據書類トシテ茲ニ公判廷ニ顯出スルモノナレハ

受命判事ハ臨檢ノ場合ニ證人訊問ヲ爲スコトヲ得ルヤ

刑事訴訟法第九十八條ノ規定ハ此時ヲ以テ始メテ適用セラルヘキモノニシテ裁判長ハ同條ノ規定ニ從ヒ檢證調書中ノ證人參考人ノ供述ニ付キ被告ノ意見ヲ徵シ辯解ヲ爲サシムルコトヲ要スルヲ以テ裁判長カ此手續ヲ等閑ニ付シタル場合ニ於テ其證人又ハ參考人ノ供述ハ辯護人ノ所謂被告ノ辯論ヲ求メサル不法ノ證據ナリト主張スルコトヲ得ヘキノミ而シテ原審公判始未書ヲ見ルニ參考人小泉才吉等ノ供述ヲ錄取シタル檢證調書ハ被告ニ讀ミ聞ク辯解ヲ爲サシメタルノ記載アリテ刑事訴訟法第九十八條ノ手續ヲ履踐シタルコト明カナレハ上告論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年七月十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

●詐欺取財事件 明治三十五年(九)第九三號 (破毀)

判決要旨

官吏公吏ニアラサル者ノ作成スヘキ書類ハ法定ノ方式ニ違背スルノ故ヲ以テ直チニ無効トナスコトヲ得ス

說明

是レ法律ニ於テ官吏公吏ノ作成スヘキ書類ノ方式ニ違背シタルトキハ無

効ノ制裁アルヲ明規スルニ不拘常人ノ作成スル書類ニ對シテハ單ニ其ノ方式ヲ明示スルニ止マリ違式ノ場合ニ於ケル無効ノ制裁ヲ定メサレハナ

リ

(參照) 官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ(刑事訴訟法第二十二條第二項)

官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印ス可シ官吏、公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏公吏代署シテ其事由ヲ附記ス可シ(刑事訴訟法第二十一條ノ二)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 渡邊安五郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十五年五月六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ同院檢事長横田國臣ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ當院ハ裁判所構成法第四十九條ニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意ハ刑事訴訟法八同法第二十一條ノ二ノ方式ニ遵由セサル書類ニ付キテハ無効ノ規定ヲ置カス故ニ其書類ハ法律上當然無効ノモノトナスヲ得ス從テ之ヲ斷罪證據ニ採用スルモ固ヨリ妨ケナシ然ルニ當院ハ之ヲ無効ナリトシ原判決ニ該法條ノ方式ニ遵由セサル橋本松五郎杉浦晋次郎ノ各告訴狀ヲ斷罪ノ證據ニ引用シアルハ不法ヲ免レスト證明シ被告人ノ

控訴テ理由アリトシ原判決ヲ取消シタルハ即チ法律ヲ不當ニ適用シタルモノト思料スト云  
フニ在リ○依テ按スルニ刑事訴訟法第二十條第二項ニ於テ官吏公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ  
書類ニハ本人自カラ署名捺印スヘキ旨ヲ命シテ同第二十一條ノ二ニ於テ官吏公吏ニ非  
サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名捺印スルコト能ハサルトキニ當リテ履行ス可キ方  
式ヲ規定シタリト雖モ同法第二十條第二十一條及ヒ第二十一條ノ二ハ共ニ書類作成ノ方式  
ヲ規定シタル條項ナルニ第二十條第一項並ニ同第二十一條ノ二ニ背キタル場合ニ於テ  
無効ノ制裁ヲ加ヘタルニ拘ハラズ同第二十一條第二項及同第二十一條ノ二ニハ無効ノ制裁  
ナキニ依レハ其方式ニ背キタルカ爲メ直ニ其書類ヲ無効ナリト論スヘカラス例ヘハ本人自  
カラ署名セス又ハ立會入代署ノ事由ヲ附記セス若クハ代署者自カラ己ノ名ヲ署セサルカ如  
キ場合ニ於テモ本人又ハ代署者ノ捺印アルカ其他苟モ本人ノ承諾ニ出タル書類ナルコトヲ  
認ムルニ足ルヘキ事實アルニ於テハ其書類ハ之ヲ有效ナリトス可ク唯本人ノ承諾ニ出タル  
書類ナルコトヲ認ムヘキ事實ナキ場合ニ於テ之ヲ無効ト爲ス可キノミ今本件ニ於ケル橋本  
松五郎杉浦音次郎ノ各告訴狀ヲ査閱スルニ何レモ本人並ニ代署者ノ捺印アリテ固ヨリ本人  
ノ承諾上提出シタル書類ナルコト疑ヲ容ルヘカラス然ルニ原院カ右書類ヲ以テ無効ナリト  
シ之ヲ證據トシテ採用シタル第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク失  
當ノ判決ニシテ破毀ヲ免カレサルモノトス

ニ移ス

明治三十五年七月十日於大審院第二刑事部公延檢事與宮正治立會宣告ス

●衆議院議員選舉法違犯事件明治三十五年(七)第一七四〇號(棄却)

判決要旨

一、衆議院議員選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者  
ハ禁錮ノ刑タルト罰金ノ刑タルトヲ不問等シク同選舉法  
第二百二條ニ依リ二年以上八年以下選舉權被選舉權ノ行使  
ヲ停止セラレヘキモノトス  
罰金ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於ケル選舉權被選舉權ノ  
停止期間ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

說明

衆議院議員選舉法第二百二條ノ規定ニ依ルトキハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ  
刑ニ處セラレタル者ハ裁判宣告ノ日ヨリ刑期後仍二年以上八年以下選舉  
人及被選舉人タルコトヲ禁スト下アリ本條ノ所謂刑ニ處セラレタル者ト  
ハ罰金ノ刑タルト將タ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトヲ不問共ニ其ノ裏

衆議院議員選舉法第二百二條ノ解

ニ含ムト解スルヲ以テ當然ナリトスト雖モ如斯解スルトキハ直チニ其末  
段ノ所謂刑期後仍ニ二年以上八年以下云々ノ規定ニ抵觸スルニ至ル何トナ  
レハ元來罰金ノ期ナルモノハ一定ノ刑期アルヲ想像シ得ヘカラサルヲ以  
テ刑期後云々ノ文字ハ獨リ禁錮以上ノ刑ノミニ適用セラレ罰金ニ對シテ  
ハ之レヲ適用スルヲ得サレハナリ茲ニ於テカ本條ノ制裁即チ二年以上八  
年以下選舉權ノ行使ヲ停止セララルヘシトノ規定ハ獨リ禁錮ノ刑ヲ受ケタ  
ル場合ニ限り罰金ノ刑ヲ受ケタル場合ハ敢テ之レヲ適用スヘキニアラス  
トノ説アルト同時ニ又夕假令刑期後云々ノ規定アルニセヨ其ノ前段ニ於  
テ單ニ刑ニ處セラレタル者云々トアリテ別ニ罰金ノ刑ヲ除外スルノ文詞  
ナキカ故ニ同條ノ制裁ハ獨リ禁錮ノ刑ニ止マラス罰金刑モ亦タ其ノ内ニ  
包含スルモノナリトノ説ヲ生スルニ至ル今此ノ點ニ對スル大審院ノ見解  
左ノ如シ

試ニ本法制定ノ沿革ヲ釋スルニ舊法ニ在テハ前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ  
處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選  
舉權ヲ停止ス(第百一條)トアリテ其後第十二議會ニ提出セラレタル改正法案ニハ  
此法律ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ云々刑期終リタル後三年以上七年以  
下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス云々罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ其選舉  
ニ於ケル被選舉人タルコトヲ得ス(第九十六條)又第十三議會ニ提出セラレ

タル改正案ニハ此法律ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ云々刑期後尙二年以上八年  
以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス(第九十五條)トアリテ更ニ第十四議  
會ヲ經テ本法トナリタルモノニシテ其法案(第百二條)ハ全ク本法ニ異ナラス今此  
本法ノ來歴ニ依ルトキハ右第二ノ法案以前ニ在テ公權停止ノ制裁ニ付キ禁錮ノ  
刑ト罰金ノ刑トノ間多少輕重ナキニ非スト雖モ罰金ノ刑ニ付キ公權停止ノ制  
裁ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ限ルトノ旨趣ナリトセハ第一法案中禁錮中刑  
ニ處セラレタル者トアリテ其旨趣ヲ表示スル必要ナル文字アルニ拘ハラヌ故サ  
ラニ之ヲ削除シ却テ廣義ニシテ且前條(法案第九十四條)本法第百二條)ト同一ナル  
文詞ヲ用ユルノ理アルヘカラス之ヲ詳言スレハ立法者カ故サラニ右ノ如ク文詞  
ヲ改メタルハ其意禁錮罰金ヲ包含スルコト恰モ前條ト同一ナラシムルノ旨趣ナ  
リト認ムルニ足レリ加之舊法及ヒ第一法案ニ三年以上トアルヲ改メテ二年以上  
トナシ其短期ヲ減縮シタルハ罰金ノ刑ニ對スル場合ノ調和ヲ慮リタルモノニシ  
テ亦以テ兩者ヲ包含スヘキ法意ナリトスルニ難カラズ而シテ刑期後仍ホトアル  
ハ第一法案禁錮ノ刑ニ處セラレタル者アルニ該當セル文字ヲ變用シタルモノニ  
シテ其實禁錮ノ文字ヲ削除スルト同時ニ之ヲ改ムヘキ注意ヲ缺キタルモノト認  
メサルヲ得ス則チ此不注意ハ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニ對スル公權停止ノ起  
算點ヲ知リ難キニ至ラシメタリト雖モ凡ソ刑期ハ主刑タルト附加刑タルトヲ問  
ハス例外アルニ非サレハ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキモノナルヲ以テ場合ニ於  
テモ公權停止ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキハ當然ナリトス



(參照) 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ズ(衆議院議員選舉法第百二條)

第一審 安濃津地方裁判所四日市支部 第二審 名古屋控訴院  
被告人 水谷立次郎

右衆議院議員選舉法違反被告事件ニ付明治三十五年八月四日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告及原院檢察長藤堂融ヨリ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告ノ上告趣意ハ原院カ被告ヲ衆議院議員選舉法違反者トシ罰金五十圓並ニ四年間衆議院議員選舉人及ヒ被選舉人タルコトヲ禁止シタルハ違法ナリ衆議院議員選舉法第百二條ヲ按スルニ刑ニ處セラレタルモノハ云々トアリ此刑トハ體刑ニ限ルモノニシテ罰金刑ヲ包含スルモノニアラス何トナレハ同條中刑期後仍云々トアリテ明カニ期限アル刑ニ處セラレタルモノナルコトヲ見ルニ足レハナリ或ハ罰金刑ニモ期限アリト主張スル者アリト雖モ斯ハ曲解取ルニ足ラス故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ罰金刑ニ選舉權及ヒ被選舉權行使ノ禁止ヲ併科シタルハ衆議院議員選舉法第百二條ヲ曲解シタル不法アルモノト信スト云ヒ辯護人ノ

擴張趣意第一點ハ衆議院議員選舉法違反ニ依リ罰金刑ニ處セラレタル者ニ對シ選舉人被選舉人タルコトヲ禁止ヲ宣告スヘキモノナルヤ否ヤニ就テハ上告人ハ全然本件ニ對スル原院檢察長ノ意見ニ贊成スルモノナリ蓋シ衆議院議員選舉法第百二條ノ法文ニハ「刑期ノ後」云々トアルヲ以テ文理解釋上當然刑期ナルモノアルヘカラサル罰金刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ適用スヘキ謂ハレナキノミナラス同條中「刑期後仍」事々ノ意義ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑期中ハ當然公權ヲ停止セラレヘキモノナレトモ仍ホ引續キテ選舉權被選舉權ヲ失ハシムヘシトイフニ在リテ停止公權ヲ附加セラル、コトナキ罰金刑ヲ言渡サレタル者ニモ亦該條ノ規定ヲ擬スヘシトスルニ非サルヤ明ラカナルニ於テヤ加之我立法者ハ體刑ヲ以テ金刑ヨリ重シトシタルハ刑法ノ條文ニ徴シテ明ラカナルカ如ク選舉法ノ起草者モ刑ノ權衡上體刑ニ處セラレシ者ハ裁判所ニ於テ諸般ノ情狀ヲ斟酌シテ其罪重シト認定シタル者ニシテカ、ル者ニハ選舉權被選舉權ノ禁止ヲ附加スルヲ以テ相當トシ金刑ニ處シタル者ハ之ト反對ニ敢テ公權ヲ停止スルニ及ハスト思料シタルモノナルヘキハ同法第十一條四號ノ規定ニ參照スルモ之付度スルニ餘リアリ此點ニ於テ原判決ハ破毀セラレヘキモノナリト信スト云ヒ檢察長ノ上告趣意ハ衆議院議員選舉法第百二條ノ選舉權及ヒ被選舉權行使ノ禁止ハ刑法上停止公權ノ性質ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ附加スヘキモノナルハ該條ノ刑期後ノ文字ニ照シ明瞭ナルニ第一審ノ判決ハ被告水谷立次郎ヲ罰金刑ニ處シ

タルニ拘ハラス之レニ選舉法第二百二條ヲ適用シ四年間選舉人被選舉人タルコトヲ禁シタルハ不法ノ判決ナルニ原院判決力之ヲ是認シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ擬律錯誤ノ裁判タルヲ免レズ因テ原院判決ハ破毀ノ上相當ノ裁判ヲラシムトテ望ムト云フニ在リ○依テ按スルニ衆議院議員選舉法第二百二條ニ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ云々(前段)刑期後仍ホ二年以上八年以下選舉人及ヒ被選舉人タルコトヲ禁ス(後段)トアリテ其前段ノ文詞ニ依ルトキハ禁錮ノ刑タルト罰金ノ刑タルトヲ問ハス苟モ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ悉ク本條ノ制裁ヲ受クヘキモノ、如シ何トナレハ選舉ニ關スル犯罪ニ對スル刑ニハ禁錮罰金並存スルノミナラス其前條(第百二條)ニ於ケル同ノ文詞(選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者)ニハ右三者ヲ包含スルハ毫モ疑フヘカサルヲ以テナリ然レトモ本條後段ニ「刑期後仍ホ」ノ文字アルカ故ニ本條ノ制裁ハ單ニ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ限レルカ如シ何トナレハ「刑期後仍ホ」ノトハ刑期中ハ勿論刑期後ト雖モ仍ホ選舉人及ヒ被選舉人タルコトヲ禁スルノ旨趣ニシテ而シテ同法第十一條ニ依レハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其裁判確定前ト雖モ選舉權及ヒ被選舉權ヲ有セサルノミナラス刑法第三十三條ニハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止スルアリテ即チ禁錮ニ處セラレタル者ハ刑期中ハ勿論刑期後ト雖モ仍ホ選舉人被選舉人タルコトヲ禁スルノ旨趣ニ該當スレトモ罰金ニ付テハ右ノ如キ公權停止ノ規定ナキノミナラス抑モ刑期ト稱スヘキモノナキカ故ニ本條ノ制裁ヲ付スルニ付テハ明ニ之カ起點ヲ定メタルモ

ノナキヲ以テナリ故ニ本條ハ之ヲ兩様ニ解釋スヘキ餘地アリテ不明ノ法文タルヲ免レズ依テ試ニ本法制定ノ沿革ヲ繹スルニ舊法ニ在テハ前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及ヒ被選舉權ヲ停止ス(第百二條)トアリテ其後第十二議會ニ提出セラレタル改正法案ニハ「此法律ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ云々刑期終ハリタル後三年以上七年以下選舉人及ヒ被選舉人タルコトヲ禁ス云々罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ其選舉ニ於ケル被選舉人タルコトヲ得ス」トアリ(第九十六條)又第十三議會ニ提出セラレタル改正法案ニハ「此法律ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ云々刑期後尙二年以上八年以下選舉人及ヒ被選舉人タルコトヲ禁ス」(第九十五條)トアリ而シテ更ニ第十四議會ヲ經テ本法トナリタルモノニシテ其法案(第百二條)ハ全ク本法ニ異ナラス今此本法ノ來歴ニ依ルトキハ右第二ノ法案以前ニ在テハ公權停止ノ制裁ニ付キ禁錮ノ刑ト罰金ノ刑トノ間多少輕重ナキニ非スト雖モ罰金ノ刑ニ付キ全ク公權ヲ停止セサルトノ旨趣ハ會テ表顯セサル所ナリ若夫レ第二ノ法案ニシテ公權停止ノ制裁ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ限ルトノ旨趣ナリトセハ第一法案中「禁錮ノ刑ニ處セラレタル者」トアリテ其旨趣ヲ表示スルニ必要ナル文字アルニ拘ハラス故サラニ之ヲ削除シ却テ廣義ニシテ且前條(法案第九十四條本法第百二條)ト同一ナル文詞ヲ用ユルノ理アルヘカラス之ヲ詳言スレハ立法者カ故サラニ右ノ如ク文詞ヲ改メタルハ其意禁錮罰金ヲ包含スルコト恰モ前條ト同一ナラシムルノ旨趣ナリト認ムルニ足レリ加之舊法及ヒ第一法案ニ三年以上トア

ルヲ改メテ二年以上トナシ其短期ヲ減縮シタルハ罰金ノ刑ニ對スル場合ノ調和ヲ慮リタル  
 モノニシテ亦以テ兩者ヲ包含スヘキ注意ナリトスルニ難カラス而シテ「刑期後仍ホ」トア  
 ルハ第一法案禁錮ノ刑ニ處セラレタル者トアルニ該當セル文字ヲ襲用シタルモノニシテ其  
 實禁錮ノ文字ヲ削除スルト同時ニ之ヲ改ムヘキ注意ヲ欠キタルモノト認メサルヲ得ズ則チ  
 此不注意ハ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニ對スル公權停止ノ起算點ヲ知り難キニ至ラシメタ  
 リト雖モ凡ソ刑期ハ主刑タルト附加刑タルトヲ問ハス例外アルニ非サレハ裁判確定ノ日ヨ  
 リ起算スヘキモノナルヲ以テ本件ノ場合ニ於テモ公權停止ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算スヘ  
 キハ當然ナリトス如上ノ理由ナルヲ以テ原院カ罰金ノ言渡ト共ニ選舉人被選舉人タルコト  
 ヲ禁スルノ言渡ヲ爲シタルハ相當ニシテ前掲上告論旨ハ孰レモ理由ナキモノトス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ總テ之ヲ棄却ス  
 明治三十五年九月十八日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

●恐喝取財事件 明治三十五年(九)第八一六號 (棄却)  
 明治三十五年六月十六日判決

判決要旨

一旦有效ニナシタル宣誓ハ後日證人タル資格ヲ喪失シタ  
 ルノ故ヲ以テ當然消滅スヘキニアラス從テ證人カ被告事

件ニ對シ私訴ヲ提起シ民事原告人トナリシ爲メ證人タル  
 資格ヲ喪失スルモ其ノ訴ヲ取下ケ證人資格ヲ回復シタル  
 トキハ曩キニナシタル宣誓ニ基キ之レヲ訊問スルモ違法  
 ニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院  
 被告人 佐藤金五郎 外二名 辯護人 (松原辰太郎)

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十五年三月二十九日宮城控訴院ニ於テ控訴ヲ棄却シタル判  
 決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル  
 左ノ如シ  
 辯護人高木益太郎辯明書ノ第一ハ原院ハ第一審公廷ニ於ケル證人國分國治ノ供述ニ(記錄  
 三百九十六枚目)「勘之助カ金圓ヲ費消シタルノテ——私カ取り置ク様ニ思ハレソシテ  
 告訴スルナト、申スカラ遂ニ示談スルコトニナツタノデアリマス」ト陳述シタル點ヲ本件  
 斷罪ノ證據ニ採用シタリ然ルニ右ハ明治三十四年十二月二十三日第四回公判開廷ノ際供述

宣誓ノ效力○證人資格ノ喪失ト宣誓トノ關係 三百十五

シタルモノニシテ同人ハ其供述ヲ爲スニ當リテ更ニ宣誓ヲナシタル事跡ヲ同公判始末書ニハ「裁判長ハ前回ノ宣誓書ヲ適用シテ訊問スルニ付キ眞實ノ申立ヲ爲スヘシト告グタリ」トアルノミ其所謂前回トハ明治三十四年十一月二十九日第二回公判ノ際國治ノ爲シタル宣誓ヲ指シタルモノナルヘシト雖モ國治ハ其後明治三十四年十二月四日私訴ノ申立ヲ爲シ（記録第二百九十枚目参照）本件ノ民事原告人トナリシヲ以テ此申立アリシト同時ニ爲シタル宣誓ノ效力ハ爾後ノ訊問ニ及ホスヘキモノニアラサレハ其私訴ノ成行キ如何ニ拘ハラス前ノ宣誓ヲ以テ後ノ訊問ニ效力ヲ及ホスコトヲ得サルハ勿論ナリ故ニ第四回公判ノ際更ニ同人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサリシハ不適式ニシテ其供述ハ證言證據ノ價値アルモノニアラス然ルニ原院カ之ヲ證言ノ效力アルモノト認メテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○證人カ一ノ事件ニ付公廷ニ於テ一度爲シタル宣誓ハ縱令ヒ其續行期日數回ニ涉ルモ反對ノ事實ナキ限りハ其效力ヲ持續スヘキコトハ固ヨリ論ヲ竣タサル所ナリ而シテ其證人カ其後民事原告人トナリタルニ因リ證人ノ資格ヲ喪失シタリトスルモ之レカ爲メ一旦爲シタル宣誓カ直ニ其效力ヲ失ハサルコトハ裁判所カ其者ヲ廢ニ爲シタル宣誓ニ基キ證人トシテ訊問シタル事實アリトセハ其供述ハ證人ノ資格ナキ者ヲ證人トシテ訊問シタル瑕瑾アル爲メ無効トナルニ依テ見ルモ之ヲ推知スルコトヲ得ヘシ故ニ證人國分國治ハ第二回公判ノ際本件ニ付一度宣誓ヲ爲シタル者ナレハ其後ニ至リ縱令ヒ民事原告人トナリ證人ノ資格ヲ喪失シタリトスルモ之レカ爲メ廢ニ爲シタル宣誓カ直ニ其效力ヲ失フヘ

キ謂ハレナキヲ以テ同人カ第四回公判ニ於テ引續キ訊問ヲ受クルニ際シ一旦爲シタル私訴ヲ取下ケ證人タルノ資格ヲ回復シタル以上ハ裁判所カ廢ニ爲シタル宣誓ニ基キ之ヲ訊問スルハ不適式ニアラサルニミナラス其供述カ證言ノ效力ヲ有スルハ固ヨリ當然ノコトナルヲ以テ原院カ其供述ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニアラス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年六月十六日於大審院第二刑事部公延檢事小宮三保松立會宣告ス

●私書偽造行使詐欺取財及附帶私訴事件 明治三十五年（九）第八八八號  
明治三十五年七月三日判決（棄却）

判決要旨

委托物費消罪ノ目的タルヘキ委托物ハ必スシモ寄託契約ニ因リテ保管シタル財物ナルコトヲ要セス後見人ノ被後見人ニ對スルカ如ク法律ノ結果ニ依リ當然保管ヲ託セラレタル財物モ尙ホ此ノ内ニ包含ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

（參照）受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若  
委托物費消罪ノ目的タル委托物意義

シ騙取携帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑法第三百九十五條)

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 宮下 初吉

私訴上告人 田中 藤吉 外一名

私訴被上告人 宮下 清兵衛

右親權者 宮下 九十吉

辯護人 (今村力三郎 飯田 宏作)

右初吉ニ對スル私書偽造行使詐欺取財被告事件並ニ之ニ附帶スル私訴ニ付明治三十五年五月三十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル公私訴ノ判決ニ對シ初吉ハ公私訴藤吉小右衛門ハ私訴ニ付各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ辯護人今村力三郎同飯田宏作ノ公訴上告趣意擴張第二點ハ民法上ニ於ケル寄託ナルモノハ保管ヲ爲スノ意ヲ以テ物件ヲ授受スルニ因テ成立スルモノニシテ受寄物費消罪ハ此保管ヲ託セラレタルモノヲ不正ニ費消スルノ犯罪ナリトス故ニ本罪ニ於テハ被害者ト犯人トノ間ニ民法上委託ノ關係アルヲ必要トスルハ論ヲ俟タス然ルニ後見人又ハ親權者カ未丁年者ノ財産ニ於ケル干係ハ委託ニアラス則チ保管ヲナスノ目的ニヨリ物件ヲ授受シタルアラシテ後見人ハ保管ハ勿論一切ノ財産上ノ法律行為ニ付キ被後見人ヲ代表スルモノナレハ後見人ハ其職權トシテ被後見人ノ財産ヲ處分スルコトヲ得ルモノトス原院カ宮下末吉ハ宮下清兵衛ノ後見人トシテ不動産ヲ賣却シタル事實ヲ認メナカラ之ヲ刑法第三百九十五條ニ問擬シタルハ不法ナリト信スト云フニ在レトモ

窃盜事件

明治三十五年(九)第一〇三五號 (破毀) 明治三十五年七月十日判決

判決要旨

寄託ヲ受ケタル筆筒中ヨリ物品ヲ領得シタル所爲ヲ斷スルニ當リ其筆筒ニ鎖鑰又ハ封印ノ施シアリシヤ否ヤヲ判定セサル判決ハ其所爲ノ窃盜ナルヤ委託物費消ナルヤヲ

受寄ノ筆筒ノ鎖鑰ヲ開キ物件ヲ領得シタル者ノ處分

區別スルコトヲ得サルヲ以テ理由不備ノ裁判タルヲ免カ  
レス

説明

物ノ容器ニ鎖鑰又ハ封印ヲ施シ包括シテ一個トナシタルモノヲ寄託セラ  
レタル場合ニ於テ其ノモノ、寄託物タルヘキ範圍ハ包括シタル容器物其  
ノモノニ止マリ器中ノ金品ハ寄託物タル範圍ノ外ニアリ抑モ寄託ナルモ  
ハ當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ依リ一定ノ物件ヲ一方ノ保管ニ委  
ルモノナル故ニ苟モ其ノ保管ノ範圍ニ入ラサルモノハ假令受寄者ノ領  
内ニアルモ未タ寄託ノ物件ナリト云フ得サルナリ保管ノ範圍ニ入  
ルモノナルハ鎖鑰又ハ封印ヲ施セル容器ノ負擔者ハ單ニ容器ノ範圍  
コトニ止マリ鎖鑰又ハ封印ヲ施セル容器ノ負擔者ハ單ニ容器ノ範圍  
ハ受寄者ノ寄託者ノ爲メニ保管ノ義務ヲ擔スヘキ物件ノ範圍ニ在  
ルト是ナリ鎖鑰又ハ封印ヲ施セル容器ノ負擔者ハ單ニ容器ノ範圍  
管ヲナスニ止マリ器中ノ物品ニ對シテ敢テ保管義務ヲ負擔スヘキ  
ヲサルヲ以テ從テ又タ之レヲ以テ寄託ヲ受ケタル物件ナリト云フ得  
ルヤ明カナリ

外形ニ止マラス器中ノ物品モ亦タ其ノ内ニ包含スルモノト解スルヲ以  
テ最モ當事者ノ意思ニ適ス此ノ場合ニ於ケル器中ノ物件ハ則チ寄託ヲ受  
ケタル物件ナリト云フヲ得ヘシ  
等シク器中ノ物件ニシテ其ノ容器ヲ封鎖シテ寄託シタルト然ラサルトニ  
依リ其ノ物件ノ性質ヲ異ニスルコト如斯又タ等シク物件ノ窃取ニシテ其  
ノ目的物件ノ受寄物タルト然ラサルトニ依リ其ノ所爲ノ性質ヲ異ニスル  
ハ刑法ノ明文ニ照シテ明カナリ果シテ然ラハ受託者カ寄託ヲ受ケタル  
箇中ノ物品ヲ窃取シタルノ所爲ヲ斷スルニ當テハ宜シク鎖鑰封印ノ有無  
ヲ明カニスヘキハ當然ナルニ不拘之レヲ不問ニ付スルハ則チ理由不備ノ  
判決タルヘキヤ勿論ナリトス

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院  
被告人 柴田ケサ 辯護人 松本 豊

右竊盜被告事件ニ付明治三十五年五月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告  
ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
辯護人松本豊辯明書ハ原院ハ被告カ赤羽さよヨリ物件在中ノ箆等ヲ預リ其物件ヲ取出シ不  
法ニ處分シタル所爲ヲ竊盜罪ニ問擬スレトモ其判決ヲ見ルニ唯被告カ三倉熊吉ノ手ヲ經テ  
箆等ヲ預ル際其在中物件(即被害物件)ヲ一々展示シテ預リシモノニアラスシテ漫然箆等ヲ  
受寄ノ箆等ノ鎖鑰ヲ開キ物件ヲ領得シタル者ノ處分

預リタルハ在中物件ニ委託關係ナキヲ相當トスト云フニアレトモ果シテ如何ナル程度ニ於ケル任意占有カ受寄ノ關係アリヤ否ヤハ事實論ニアラスシテ法律論ノ範圍ニ屬スルハ明ナル所ニシテ御院明治二十六年(一一五三)號事件委託ノ物品ヲ「曾テ預リタル貯藏ノ鍵ヲ有スルモノ」取出シ費消セハ費消罪ニアラスシテ竊盜罪ナリトストノ判例及明治三十一年一月十八日御院言渡三十年一一三八號事件鎖鑰又ハ封印ヲ爲シ包括シテ一個トナシ寄託シ受託者其鎖鑰封印ヲ破リ品物ヲ取レハ或ハ竊盜罪ヲ構成スヘキモ吳服在中ノ無封印ノ風呂敷包ヲ預リ其中ヨリ若干ヲ取りタル所爲ハ竊盜ニアラス委託物費消罪ナリトストノ判例ニ徴スルモ被告ヲ竊盜ニ問擬セント欲セハ其箆笥ハ果シテ鎖鑰ヲ施セシヤ否ヤ將タ又被告カ其鎖鑰ヲ侵犯シテ在中物品ヲ取出セシモノナリヤ否ヤヲ認定セサルヘカラサルニ原院ノ玆ニ出テサルハ不法ナリト信スト云フニ在リ○依テ審按スルニ物件ノ容器ニ鎖鑰又ハ封印ヲ施シ包括シテ一個ト爲シタルモノヲ寄託セラレタル場合ニ於テ寄託者カ竊カニ其鎖鑰又ハ封印ヲ破リ其内ヨリ或ル物品ヲ取去リタルニ於テハ即チ竊盜罪構成スヘキモ原判決ニ依レハ被告ハ赤羽「キヨ」ヨリ三原倉吉ノ手ヲ經テ預リ自宅ニ置キタル箆笥二棹ノ中ヨリキヨ所有ノ證書白木綿一反外七點ヲ竊取シタリトノミアリテ果シテ該箆笥ニ鎖鑰ヲ施シアルニモ拘ハラス之ヲ破リ竊取シタルヤ否ヲ明示セス若シ其鎖鑰ノ施シナクシテ自由ニ開閉シ得ルモノナルトキハ或ハ委託物費消ノ罪トナルヘキモノナルニ此等ノ理由ヲ説明セサルハ所謂理由不備ノ判決ニシテ本論旨ハ原由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス

明治三十五年七月十日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

● 收賄事件 明治三十五年(レ)第一〇四八號  
明治三十五年七月十五日判決 (棄却)

判決要旨

刑法第二百八十六條ノ所謂刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之レヲ聽許シタル者トハ裁判官檢事又ハ警察官ニシテ刑事ノ裁判ニ關シ收受若クハ聽許シタル場合ハ勿論犯罪ノ捜査犯人ノ逮捕起訴豫審等苟モ被告事件ニ關シテ賄賂ヲ收受又ハ聽許シタル者ヲモ之レニ包含ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二百八十六條第一項)

收賄罪ノ構成○刑法第二八六條ノ意

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 土橋 爲熊 辯護人 重野久太郎

右收賄事件ノ控訴ニ付明治三十五年五月十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
上告趣意書ハ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ刑事裁判ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノニアラサレハ刑法第二百八十四條ヲ適用スヘキモノナルニ原院カ同第二百八十六條ニ間擬シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル裁判ナリト云フニ在レトモ○刑法第二百八十六條ニ「刑事裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者」トアルハ裁判官檢察官ニシテ刑事被告人ノ罪ノ有無ヲ定ムル公判ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ノミヲ指シタルモノト解スヘカラス刑事被告事件ヲ終局スル公判ノ裁判ハ勿論犯罪ノ捜査犯人ノ逮捕起訴豫審等刑事被告事件ニ關スル司法事務ニ付キテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ總テ其中ニ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス何トナレハ犯罪ノ捜査起訴其他公判前ノ處分、直接ニ刑事ノ裁判ニ關スルモノニアラサルモ何レモ犯罪ノ訴追處罰ヲ目的トシ刑事被告事件ノ裁判ヲ準備スル司法事務タルニ外ナラサルヲ以テ是等事務ノ取扱上ニ於テ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ即チ刑事裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルモノト謂ハサルヘカサルヲ以テナリ而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ柳川小三郎ナル者カ諸節茂助ナル者ノ所有ニ係ル銀側懷中時計一個ヲ竊取シ之レヲ矢部丹

七〇

藏妻アキニ預ケタルノ事實ヲ檢舉シ小三郎ヲ竊盜犯アキテ贓物寄藏犯トシテ引致シタルモ被害者及諸節新作ノ乞ヲ容レ金十七圓ヲ收受シ六圓ハ退テ授受スルコトニ定メ犯人ヲ釋放シ該犯罪事件ヲ不問ニ付シ其後ニ至リ更ニ右六圓ノ中三圓ヲ茂助ヨリ收受シタルモノナレハ其所爲刑法第二百八十六條ニ該當スルコト明カナリ故ニ原院カ被告ヲ同條ニ間擬シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ  
右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ判決スル左ノ如シ  
本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十五年七月十五日於大審院休暇部公廷檢察古賀廉造立會宣告ス

●強盜傷人事件 明治三十五年(九)第九八四號 明治三十五年六月二十三日判決 (棄却)

判決要旨

- 一、暴行強迫ヲ以テ財物ヲ奪取スルニ當リ人ヲ傷ケタルトキハ毆打ノ意思アルト否トナ不問強盜傷人ノ罪ヲ構成ス
- 二、調書ニ署名捺印セシムルハ供述者ナシテ其ノ供述ノ錄取ニ相違ナキコトヲ認承セシムルカ爲メナリトス從テ何等ノ供述ヲナサ、ル被告ニ對シテハ證人調書ニ署名捺印ヲ

強盜傷人罪ノ成立

三百二十五



ナサシムルノ要ナシ

説明

本件ハ説明ヲ要セス

第一審 甲府地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 龜田太作

辯護人 高木益太郎

右強盜傷人被告事件ニ付明治三十五年五月五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ辯護人高木益太郎ノ辯明書(一)ハ刑法第三百八十條前段所謂強盜人ヲ傷シタルモノハ云々ト規定セル傷人行爲ハ刑法第三編第一章第二節(毆打創傷ノ罪)ニ規定セル傷人行爲ノ場合ノミヲ指スモノニシテ同第四節(過失殺傷ノ罪)ニ規定セル傷人行爲ノ併發シタル場合ヲ包含セサルハ明ナリ而シテ本件上告人龜田太作カ小林龜太郎ニ創傷ヲナシタルハ龜太郎カ頸ニ掛ケ居リシ財布ノ紐ノ爲ナルコトハ第一二審ノ共ニ認ムル所ニシテ小林龜太郎ノ證言及ヒ醫師富田市五郎ノ檢案書ニ徴スルモ明ニシテ其過失致傷タルヤ疑ナシ從ツテ刑法第三百八十條ニ由ルヘキモノニアラスシテ強盜及ヒ過失致傷ノ各條及ヒ刑法第百條ニ該當スヘキモノナリ而シテ原裁判理由ニ「眞田紐ヲ以テ頸部ニ掛ケ懷中シ居リタル金四圓五十錢許在中ノ財布ヲ強ク引張リテ之ヲ奪取シタリ而シテ龜太郎ハ之レカタメ其後頸部ニ長サ十一仙迷巾六密迷ノ擦過傷一個ヲ受ケタルモノナリ」トアレトモ財布ヲ奪フ際過ツテ負傷セシメ

七二

タルモノナルヤ將タ毆打ノ故意アリシ結果ナルヤ明確ナラス乃チ理由不備ノ瑕疵アルモノナリト云フニ在レトモ○強盜ヲ行フニ當リ其強奪ノ行爲ヨリシテ人ヲ傷シタルトキハ傷ヲ生スヘキ毆打ノ意思アリシヤ否ヲ論セス強盜傷人ノ罪ヲ成スモノトス故ニ本件ノ如ク懷中ノ財布ヲ強奪セン爲メ之ヲ強ク引張リ因テ擦過傷ヲ負シタル事實ノ認定シアル上ハ強盜傷人ナルコト明白ニシテ原判決ハ相當ナリトス

七三

(五)ハ原院ハ上告人ノ控訴ヲ棄却シタレトモ第一審裁判所ハ證人小林龜太郎ノ豫審調書中ニ記載セル上告人ヲ示シテ私ノ財布ヲ奪取セシ人ハコノ人ニ相違ナシ云々ノ部ヲ援用シテ罪證ニ供シタレトモ元來證人ニ被告ヲ指示シテ其人違ナルヤ否ヤヲ確ムルハ對質ニ準スヘキモノニシテ其事項ヲ記載セル調書ニハ證人ノ署名捺印ノミナラス被告ノ署名捺印ヲ要スルハ其性質對質ト類似スルヲ以テ見ルモ明ナリ然ルニ原院カ此手續ヲ履行セサル小林龜太郎ノ調書ヲ援用セシ一審裁判ヲ認可シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○供述者ヲシテ調書ニ署名捺印セシムルハ其供述ノ錄取力供述ト同一ナルコトヲ認承セシムルカ爲メナリ然ルニ被告ハ何等ノ供述ルモ爲サ、リシモノナレハ證人龜太郎ノ調書ニ署名捺印ヲ爲サシムルノ要ナシ故ニ其調書ニ被告ノ署名捺印ナキモ違法ニアラスシテ之ヲ採用シタル第一審判決ハ失當ニアラス從テ第一審判決ヲ是認シタル第二審判決ハ違法ニアラス

右ノ理田ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年六月二十三日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

強盜傷人罪ノ成立

三百二十七

●窃盜事件 明治三十五年(九)第一二八號 (棄却)  
明治三十五年七月三日判決

判決要旨

共犯人中ノ一人ニ對シテノミ公訴起リタルトキハ他ニ共同被告人ナキヲ以テ刑法第四十七條ノ裁判費用其ノ他ノ賠償ノ負擔ハ當該被告ノ一人ニ之レヲ命スヘク他ノ共犯者ニ連帶負擔セシムヘキモノニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 數人共犯ニ係ル裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ナシテ之ヲ連帶セシム(刑法第四十七條)

第一審 山形地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 小野清司

辯護人 横山善藏

右竊盜被告事件ニ付明治三十五年五月二十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
辯護人横山善藏上告趣意擴張書ノ第一ハ原判決主文中「公訴費用中佐藤つね云々柏倉竹次郎ノ分ハ被告清司ニ於テ之ヲ負擔スヘシ」トアリ而シテ原院カ此費用ノ依テ生シタル事實

ハ上告人及ヒ氏名不詳數名トシ共犯ナリト認定セリ然ラハ刑法第四十七條ノ規定ニ從ヒ公訴費用ハ上告人及共犯者ト連帶負擔スヘシト判決スルヲ相當トス其茲ニ出テスシテ上告人ノミニ負擔セシメタルハ同條ノ規定ニ違背スル不法ノ判決ナリト云フニアレトモ○刑法第四十七條ノ規定ハ數名ニテ犯シタル犯罪ニ付キ共犯人カ共ニ訴追セラレ同一ノ判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ受シル場合ニ適用セラレヘキモノニシテ此場合ニ於テハ訴追セラレタル共同被告ニ對シ公訴費用ノ連帶負擔ヲ命スヘシトノ主旨ニ外ナラス何トナレハ一ノ判決ヲ以テ公訴費用ノ連帶負擔ヲ命スルニハ數名ノ共同被告アルコトヲ前提要件トスヘク共犯人中ノ一人ニ對シテノミ公訴起リタルトキハ他ニ共同被告ナクハ連帶負擔ヲ命スルコト能ハサルハ專理ノ當然ナルヲ以テナリ故ニ原院カ被告ノ所爲ノ數人共犯ニ係ルコトヲ認メタルニ拘ハラズ公訴費用ノ負擔ニ付キ刑法第四十七條ヲ適用セサリシハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年七月三日於大審院第二刑事部公延檢事奥宮正治立會宣告ス

●公私文書偽造行使公印盜用詐欺取財事件 明治三十五年(九)第一〇六號 (破毀)  
明治三十五年七月三日判決

判決要旨

起訴ノ手續無効ニ屬スルトキハ之ニ依テナシタル凡テノ

裁判費用ニ對スル共犯人ノ責任

訴訟手續モ亦々無効タルヲ不免無効ノ訴訟手續ニ依テ得タル證據ヲ以テ斷罪ニ供スルハ又々違法タルヲ免カレス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 度會常次郎 外一名 辯護人 花井卓藏 高木益太郎

右公私文書偽造行使公印盜用詐欺取財事件ノ控訴ニ付明治三十五年四月二十五日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
被告稻太郎辯護人花井卓藏同高野金重上告趣意擴張書第三點ハ本件相被告足立銚太郎ニ對スル豫審請求書ハ違法ノ點アリタルカ爲メ無効ニ歸シ從テ起訴ノ効ナキニ至リタルヲ以テ同人ハ原院ニ於テ公訴受理セストノ判決ヲ受ケタルモノトス左レハ本件ニ於テ同人ノ供述ハ之ヲ犯罪ノ資料ニ供スルノ効力ナキモノナルニ原判決カ尙同人ノ本件事實ニ關スル供述ヲ採用シ被告等ノ罪證ニ供シタルハ不法ナリト信スト云ヒ」被告常次郎辯護人高木益太郎ハ其辯明書ノ末尾ニ於テ右論旨ヲ援用シタリ○因テ按スルニ原院ハ本件ノ相被告タリシ足

立銚太郎ニ對スル豫審請求書ニ所屬官署ノ印章ノ押捺ナク又之ヲ押捺スルコト能ハサル事由ノ記載アラサルニヨリ該請求書ハ無効ニ歸シ從テ起訴ノ効アラサレハ同人ニ對スル公訴受理スヘキモノニアラストノ理由ヲ以テ同人ニ對スル公訴ハ之ヲ受理セストノ判決ヲ爲シタルモノナリトス而シテ檢事ノ適法ノ起訴ナク即チ無効ノ起訴ニ基キテ爲シタル手續ハ其豫審ニ於ケルト公判ニ於ケルトヲ問ハス總テ其効ナキコトハ論ヲ俟タサル所ナルニ原院カ右銚太郎ノ第一審ニ於テ爲シタル供述ノ一部ヲ採テ被告兩名ニ對スル斷罪ノ資料ト爲シタルハ即チ不法ニシテ上告ハ其理由アルモノトス已ニ此點ニ於テ被告兩名ニ對スル原判決ノ全部ヲ破毀スル上ハ他ノ論旨ニ對シテハ逐一說明ヲ爲スノ要ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ被告兩名ニ對スル原判決ヲ破毀シ本件ヲ大阪控訴院ニ移ス

明治三十五年七月三日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

無効ノ手續ニ依リテ得タル證人訊問ノ効力

偽證事件 明治三十五年(九)第二二四號 (棄却)

判決要旨

證人カ見聞セサル事實ヲ偽テ見聞シタルト稱シ虛偽ノ陳述ヲナシタルトキハ偶々其陳述カ事實ニ適合スルモ偽造罪ヲ構成スルニ妨クルコトナシ從テ被告人ヲ曲庇シ若クハ陷害スル證言ヲナシタルヤ否ヤハ專ラ陳述夫レ自體ニ依テ決スヘク事實ニ符合スルト否トヲ問ハサルナリ

偽證罪ノ性質 偽證罪ノ本質ハ主觀的ニ詐欺ノ陳述ヲ爲スノ罪ニシテ客觀的ニ虛妄ノ事實ヲ開陳スルノ罪ニアラス 說ク所ノ陳述ハ偶々眞ノ事實ニ符合スルモ證人カ未タ會テ見聞セサル事實ヲ詐テ見聞シタルトナシ詐欺ノ陳述ヲナスニ於テハ之レニ對シ偽證罪ヲ構成スルヲ妨ケス何トナレハ凡ソ證人ノ證言ニシテ裁判上斷罪ノ資料ニ供セラル、所以ノモノハ其ノ陳述スル所ノ事實ハ證人カ現ニ目撃シタル所ニ係リ之レヲ陳述スルノ意思ハ宣誓ヲ以テ誠心ニ誓ヒ些毫ノ修飾ヲ加フルナクシテ其ノ眞實ヲ開

偽證罪ノ性質

陳スルモノナルニ由ル若シ夫レ詐欺ノ證言モ尙ホ事實ニ符合スルノ故テ以テ之レヲ罪證ニ供スルヲ得ヘシトモ是レ詐言ヲ以テ犯罪ヲ斷スルモノニシテ其結果裁判所ヲシテ不當ニ職務ヲ行ハシメ爲メニ裁判ノ威信ヲ失墮スルヲ免レズ如斯キハ法律ノ精神ニ違背スルノ最モ甚シキモノナレハナリ夫レ如斯僞證罪ハ證人ノ主觀的意思ニ照ラシ詐欺ノ陳述ヲ爲スノ罪ナリトモ被告人ヲ曲庇シ若クハ陷害スルノ陳述ヲナシタルヤ否ヤハ專ラ陳述其ノモノニ依テ決スヘク其ノ陳述カ實體事實ニ符合スルト否トハ毫モ問フ所ニアラサルヲ知ルヘキナリ

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 丸山和四郎 辯護人 鹽谷恒太郎 信岡雄四郎

右僞證被告事件ニ付明治三十五年六月四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
上告趣意書ハ明治三十三年十一月五日前橋地方裁判所ニ於テ野口春藏外五十名ニ對スル兇徒聚賭被告事件ニ付證人トシテ取調ヘテ受ケタル際供述シタル事項ハ眞實ナルニ僞證ナリト判決セラレタルハ不法ト存候ト云ヒ辯護人鹽谷恒太郎信岡雄四郎上告擴張書ノ第一ハ原判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ原院認定ノ事實ハ明治三十三年十一月五日前橋地方裁判所ニ於テ野口春藏外五十名ノ兇徒聚賭事件永島與八外五名ノ治安警察法違反犯川島民八外二名ノ

官吏抗拒小野寅吉ノ官吏侮辱被告事件公判開廷ノ際證人トシテ取調ヲ受ケ明治三十三年二月十三日群馬縣邑樂郡佐貫村大字川俣村ニ於テ鑛毒被害民ト警察官ト衝突シタル狀況ニ付キ之レヲ目撃セザルニモ不拘之レヲ目撃シタリト供述シ警察官カ被害民ニ對シ暴橫慘酷ノ行爲アル旨供述シタルハ被告人ハ曲庇スル爲メ僞證ヲ爲シタルモノト認メ刑法第二百八十八條第一項ニ該當スト判決セラレタリ然レトモ證人カ或ル事實ヲ目撃セザルニモ不拘之レヲ目撃シタリト供述スルモ其供述シタル實體ノ事實存在スルトキハ未タ此ノ供述ヲ以テ被告人ヲ曲庇スル爲メ僞證ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス而シテ原院認定事實ニ於テ被告カ證人トシテ目撃セザル事實ヲ目撃スルカ如ク供述シタリト云フノ點ハ事實ノ供述ナリトスルモ其供述シタル實體事實ノ實否ニ付テハ何等ノ說明スル所ナシ故ニ被告ノ供述ハ未タ他ノ被告人ヲ曲庇スルモノト云フヘカラス然ルニ原院カ之ニ對シ刑法第二百八十八條第一項ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法アリト云フニアリ○依テ按スルニ刑法第二百八十八條ノ僞證罪ハ刑事ニ關スル證人トシテ呼出サレ被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ虛僞ノ陳述ヲ爲スニ依リテ成立スルモノナレハ現ニ或事實ヲ見聞シタル證人カ其現ニ見聞シタル事實ヲ全部又ハ一部隠蔽シテ其現ニ見聞シタル事實ヲ見聞セスト稱シ又ハ自己ノ見聞シタル事實ト異ナリタル事實ヲ見聞シタリト稱シテ虛僞ノ供述ヲ爲シタル場合ハ勿論或事實ヲ見聞セザル證人カ現ニ之レヲ見聞シタリト稱シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦タ僞證罪ハ完全ニ成立スヘク此後ノ場合ニ於テハ證人カ現ニ見聞シタリト僞リタル事實カ僞マ實際ノ事實ニ

適合スルモ其證人ハ尙ホ且ツ偽證罪ノ犯人トシテ刑事上ノ責任ヲ負ハサルヲ得ス何トナレハ自己ノ見聞セサル事實ヲ現ニ見聞シタルモノトシテ供述スルハ即チ自己カ何等見聞スル所ナカリシ事實ヲ隱蔽シ之レヲ見聞シタルモノトシテ虛偽ノ陳述ヲ爲スモノニシテ刑法第二百十八條ニ所謂「事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時」トアルニ該當スルヲ以テナリ蓋シ證人カ或事實ヲ見聞シタリト供述シタル場合ニ其供述カ被告人ノ有罪無罪ヲ決スヘキ適法ノ憑據トナルニハ證人カ現ニ其事實ヲ見聞シタルコトヲ必要トス換言スレハ此場合ニ於ケル證人供述ノ憑據力ハ證人カ現ニ其事實ヲ見聞シタルヨリ生スルモノニ外ナラス若シ夫レ證人ノ供述カ此要件ヲ欠クモノトセンカ其供述ハ何等ノ證效ヲ有セサルヲ以テ裁判所ノ依據スヘキ事實認定ノ資料タルヲ得サルモノトス隨テ斯ル供述ヲ採用シテ事實ヲ認定シタル裁判所ハ適當ニ其職務ヲ行ヒタルモノト謂フコトヲ得ス何トナレハ裁判所ハ其認定ノ事實ニ合スルト否トニ拘ハラズ憑據トナスヘカラサルモノヲ憑據トシテ事實ヲ認定シタルノ非難ヲ免カル、トテ能ハサルヲ以テナリ故ニ證人カ自己ノ見聞セサル事實ヲ現ニ見聞シタリトシテ供述シタル場合ニ其見聞シタリト偽リタル事實カ偶々實體事實ニ適合スルモ裁判所ヲ欺キテ現ニ事實ヲ見聞シタル證人ナルコトヲ誤信セシメ其結果裁判所ヲシテ不當ニ職務ヲ行ハシメ爲メニ裁判ノ信用ヲ傷ルノ危險ヲ生スヘキハ勿論ナルヲ以テ此點ヨリ觀察スルモ證人ノ現ニ見聞シタリト偽リタル事實カ實體上存在シタルヤ否ヤハ偽證罪ノ成立ニ影響ヲ及ボササルモノト解釋スルヲ相當トス夫レ斯ノ如ク偽證罪ハ實體事實ノ有無ニ拘ハラズ

成立スルモノナレハ被告人ノ利益ノ爲メニ不實ノ供述ヲ爲シタル者ハ其供述シタル事實カ實體事實ニ合スルト否トニ拘ハラズ被告人ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ爲シタルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ野口春藏外五十名ニ對スル兇徒嘯聚事件ノ證人トシテ前橋地方裁判所ニ出頭シ自己ノ目撃セサル事實ヲ自撃シタルモノ、如ク偽リ同事件ノ被告人ニ利益ナル供述ヲ爲シタルモノナレハ原院カ被告ノ所爲ヲ以テ被告人等ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ爲シタルモノト認メ刑法第二百十八條第一項ヲ適用シ實體事實ノ存否ニ付キテハ別段説明ヲ爲サ、リシハ相當ニシテ上告論旨ハ理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十五年九月二十二日於大審院第二刑事部公延檢事小宮三保松立會宣告ス

判 決 要 旨

戸籍法違反事件 明治三十五年(レ)第一三二八號 (破毀) 明治三十五年九月二十九日判決

一、他人ノ私生兒ヲ貰受ケ之レカ届出チナスニ當リ幼兒生長ノ後自己ヲ實親ト信セシメンカ爲メ又ハ養子届出ノ手續ヲ免レンカ爲メ虛偽ノ私生子認知届チダシタルカ如キハ戸籍法第二百十五條ニ所謂利ヲ圖リタルモノニ該當セス

一、然レトモ警察官ノ視察ヲ免カル、爲メ虚偽ノ認知届ヲナシタル者ノ如キハ之ニ該當シ其ノ制裁ヲ免カル、ユトナ得ス

說明

戸籍法第二百十五條ノ所謂利ヲ圖リトハ獨リ財産上ノ利益ノミヲ意味スルニアラス財産以外ノ利益モ尙ホ此ノ内ニ包含スルコト勿論ナリト雖トモ其ノ利益タル總シテ不正ノ利タルコトヲ要ス不正ノ利トハ自己ニ其ノ利益ヲ得タルカ爲メ他ヲ害シ又タ他ノ感情ヲ惡シカラシムルノ利ナリ虚偽ノ届出カ苟モ此ノ利ヲ計ルカ爲メナラサルトキハ以テ本條ノ適用ヲ受クヘキ限リニアラサルナリ本件ノ判旨其ノ一項ト二項トニ於テ届出ノ虚偽ナルコト同一ナルニ不拘其ノ判決ノ結果全ク反對ニ出ツル所以ノモノ茲ニ存セスンハアラサルナリ

(參照) 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關シ詐偽ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一月以上四年以下ノ重禁錮又ハ二回以上百圓以下ノ罰金ニ處セラル(戸籍法二) (百十五條)

第一番 名古屋地方裁判所 第二番 名古屋控訴院  
被告人 西村天四

右戸籍法違犯被告事件ニ付明治三十五年六月九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ原院檢察長藤堂融ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意ハ本院判決中被告カ神谷リウノ胎兒ニ對シ虚偽ノ認知届ヲ名古屋市戸籍役場ニ差出シタル事實ヲ以テ罪トナラサルモノトシ其理由トシテ被告カ認知ノ目的ト推測シ得ヘキ幼兒生長後日己ヲ實親ト信セシムヘキコト並ニ養子届出ノ手續若クハ警察官カ養子貰受人ニ對スル視察ノ煩ヲ免ルハコト等ハ未タ以テ戸籍法第二百十五條ニ云フ利ヲ圖リ云々ノ意義ニ該當セサルモノナルヲ以テ云々ト説明シタリ是レ蓋シ本院ハ戸籍法第二百十五條ノ利ヲ圖リノ文字ヲ専ラ金錢上ノ利益ヲ目的トシタル場合ニノミ適用スヘキモノナリトノ狹義ニ解釋セシモノナラン何トナレハ判決理由ニハ利ノ文字ハ金錢上ノ利益ノミヲ指シタリトハ明言セサルモ本件第一ノ事實タル石原ハルノ私生兒ニ對スル虚偽ノ認知届ノ行爲ヲ罰シタル理由中ハルカ多少ノ財産ヲ有スルヨリ養子ノ名義ヲ以テ同人ニ配シ其財産ヲ横領スルノ目的ヲ以テ云々ト説明シ其金錢上ノ利ヲ圖リタルヲ認メ醜テ神谷リウノ胎兒認知届ニ關スル無罪ノ理由トシテ前段記載ノ如ク説明シタルヲ觀レハ本院カ該條ノ利ノ字ハ専ラ金錢上ノ利益ヲ目的トシタル場合ヲ指ストノ狹隘ノ意義ニ解釋セシコト炳焉タリ然レトモ戸籍法ハ専ラ取締ニ屬スル法規ナレハ法律ノ精神トシテ自己又ハ他人ノ一切ノ利益ヲ得ルコトヲ目的トシタル場合ヲ包括シ決シテ獨リ金錢上ノ利益ノミニ限リタルニアラス故ニ或ハ名

譽上ノ利益ヲ得ンカ爲メ或ハ愛憎ノ爲メ自己又ハ子女ノ利益ヲ得ンカ爲メ詐欺ノ届出ヲ爲シタル場合ノ如キモ戸籍ヲ紊亂スルノ揆同一ナレハ法律上決シテ不問ニ措クヘキモノニアラス本件事實ノ如キハ愛知縣令ニ依リ養子貰受人ニ對シ警察官ヲシテ視察ヲ嚴ニシ所謂養子殺ノ犯罪ヲ豫防セシムル規定アリ被告ハ此等ノ煩ヲ避ク且ツ養子届出ノ手續ヲ省ク等ノ利益ヲ目的トシ他人ノ私生兒ヲ貰受クルニ當リ虛偽ノ認知届ヲ爲シタルモノナレハ當然戶籍法第二百五條ヲ適用處分ス可キモノナルニ裁判茲ニ出テサルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○因テ按スルニ戸籍法第二百五條ニ所謂利ヲ圖リトハ單ニ金錢上ノ利益ヲ圖リタルニ止ラサルコトハ勿論ナレトモ被告ガ幼兒生長後自己ヲ實親ト信セシメント欲シ又養子届出ノ手續ヲ免レント欲シタルカ如キハ未タ以テ同條ニ所謂利ヲ圖リタルモノト云フヲ得ス然レトモ被告ガ原判旨ノ如ク警察官ノ養子貰受人ニ對スル視察ノ煩ヲ免ル、爲メ虛偽ノ認知届ヲ戸籍役所ニ差出シタリトセハ右ハ則チ被告ニ於テ同條ニ所謂自己ノ利ヲ圖ル爲メ詐欺ノ届出ヲ爲シタルモノニシテ其犯罪ヲ構成スルヤ論ヲ埃タス然ルニ原院カ此點ニ對シ被告ノ所爲ヲ罪トナラサルモノトシ無罪ヲ言渡シタルハ則チ擬律ノ錯誤ニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス然レトモ原判決ハ被告ガ警察官ノ養子貰受人ニ對スル視察ノ煩ヲ免レントシタル點ニ對シ其證據ヲ明示セサルヲ以テ本院ニ於テ直ニ之ヲ更正スルニ由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決中無罪ノ部分ヲ破毀シ事件ヲ

大阪控訴院ニ移ス

明治三十五年五月二十九日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會社宣告ス

私印私書偽造行使事件 明治三十五年(九)第八一七號 (棄却)

判決要旨

私印偽造行使罪ヲ成立スルニハ其ノ偽造ノ印章カ眞印ニ酷似スルコトヲ要セス唯人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ偽造セラレタルヲ以テ足ル

說明

貨幣文書及官私ノ印影等我刑法中偽造ノ所爲ヲ以テ犯罪トナス所謂偽造罪ナルモノニ對シテハ其ノ研究ノ困難ナル一ニシテ足ラスト雖モ此等ノ各犯罪ニ對スル偽造ノ程度ヲ明カニスル亦タ其ノ一ニ居ル按スルニ凡ソ貨幣タルト文書タルト將タ官私ノ印影タルト不問偽造ノ所爲ニ對シ刑罰ヲ加フル所以ノモノハ一ヒ其ノ偽造物件ニシテ眞物ト誤認セラレタルキハ其ノ結果一般社會ノ信用ヲ紊亂スルニ由ル然ラハ則チ偽造罪ニ於テ偽造ノ程度如何ハ一ニ其ノ偽造物件カ人ヲシテ眞物ナリトノ信念ヲ抱

私印偽造罪ニ於ケル偽造ノ程度



カシムルニ足ルヤ否ヤニ依テ決セサル可ラサルヲ知ルヘキナリ一ノ偽物  
カ人ヲシテ眞物ナリトノ信念ヲ抱カシムルニ足ルヤ否ヤハ專ラ各人意思  
ニ依リテ定ムヘキモノナルカ將タ他ニ之レカ標準ヲ求メサル可ラサルモ  
ノナルヤ此ノ點ニ關シテハ偽造物件ノ種類ニ依リ同一ナラス貨幣ノ如キ  
官文書若クハ官印ノ如キ法令其ノ他公示ノ方法ヲ以テ形樣若クハ方式ノ  
一定セラレタルモノハ何人モ其形體ヲ知ルモノト看做スノ結果此等ノ物  
件ニ對スル偽造力眞ヲ欺クニ足ルヤ否ヤノ標準ハ專ラ眞物ニ酷似スルヤ  
否ヤニ依テ決セサルヲ得スト雖モ私文書若クハ私印ノ如ク一定ノ方式又  
ハ形樣ノ公示ナク殊ニ私印ノ如キハ各人ノ自由ニ作製スルヲ得ヘク何人  
カ如何ナル印影ヲ所持スルヤハ到底之レヲ詳ニスルコト能ハサル物ニ對  
シテハ偽造ノ程度ハ眞物酷似ノ標準ニ依テ之ヲ定ムルコトヲ得ス專ラ各人  
ノ意思ニ準據シ其ノ偽物力眞物タルコトヲ信セシムルニ足ルヤ否ヤニ依  
テ決スルノ外ナキナリ論者動モスレハ偽造ナル文字ハ眞形ヲ摸擬スルノ  
意義ヲ有スルカ故ニ私印私書ニ對スル偽造モ尙ホ其眞物ニ酷似スルコト  
ヲ要ストノ說ヲナス者ナキニアラスト雖モ是レ未タ法律ノ精神ヲ知ラサ  
ルモノト云フヘシ抑モ偽造罪ナルモノハ已ニ説明スルカ如ク偽造ノ物件  
ニ對シ之レヲ眞物ト誤認スルノ結果社會ノ信用ヲ紊亂スルコトヲ防止ス

ルニアルヲ以テ苟モ眞物ヲ誤認スルノ事實タニ存在セハ之ヨリ生スルノ  
危害ハ其ノ偽物カ眞物ニ酷似スルト否トニ依リ異ナル所ナキヲ以テ私印  
ノ偽造ヲ獨リ眞物酷似ノ場合ニ限ラントスル其ノ不可ナルヲ知ルヘキナ  
リ

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 高橋利作

辯護人 花井卓藏

右私印私書偽造行使被告事件ニ付明治三十五年四月十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判  
決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコ  
ト左ノ如シ

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ハ私印偽造行使罪ニ於テ所謂偽造ニ係ル偽印ハ其形狀大小  
ヲ始メトシ其之レニヨリテ現出セラルヘキ文字ノ形象ニ至ル迄眞印ト酷似シ一見眞偽ヲ判  
明シ難キ程度ニ達スルコトヲ要ス摸擬ニシテ苟クモ此程度ニ達セスンハ本罪ヲ構成スヘキ  
モノニ非サルコトハ我刑法ノ解釋上動カスヘカラサル確論タリ故ニ摸擬ニ係ル印ヲ刑法上  
ノ偽造印ナリトシテ斷定セシカ爲メニハ宜シク眞印ト比較對照シテ精密ニ其類似ノ程度ヲ  
調査セサルヘカラス從テ眞印ハ偽造ヲ斷スル唯一ノ材料ニシテ私印偽造行使罪ヲ認定スル  
ニ必要欠クヘカラサル證據ナリトス然ルニ原判決カ本件ヲ私印偽造行使罪トシテ斷スルニ  
拘ハラス其如何ナル點ニ於テ眞印ト酷似セルヤノ理由ヲ示サルハ罪トナルヘキ偽造ノ事

私印偽造罪ニ於ケル偽造ノ程度

實ヲ認メタル理由ヲ示サ、ルモレニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ違背スル不法ノ判決ナリト信スト云フニ在リ。○依テ審按スルニ私印偽造行使罪ノ成立ニハ偽造ニ係ル印章カ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムル程度ニ偽造セラレタルノミヲ以テ足レリトシ其印章ノ眞印ニ酷似スルト否トハ之レヲ問フノ必要ナシ何トナレハ其印章カ假令眞正ノ印章ニ酷似セサルモ苟クモ人ヲシテ眞正ノ印章ナリト信セシムヘキ性質ノモノナルニ於テハ之レヲ使用シテ人ヲ欺クコトヲ得ヘク之レカ爲メ印章ニ關スル信用ヲ害スルノ結果ヲ生スヘキハ勿論ナルヲ以テナリ故ニ私印偽造罪ヲ斷スルニ當リ所論ノ如ク偽造ノ印章ト眞印トヲ比較對照シテ其類似ノ程度ヲ調査スルノ必要ナク其偽造印ハ果シテ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ性質ノモノナルヤ否ヤヲ判斷スルノミヲ以テ充分ナリトス而シテ偽造印カ果シテ此性質ヲ有スルヤ否ヤハ全ク事實ノ問題ニ屬シ之レヲ判斷スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院ハ自由ナル心證ヲ以テ此點ニ關スル事實ヲ認定シ其結果被告ノ偽造シタル印章ハ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキモノナリトノ心證ヲ得タルトキハ被告ニ私印偽造ノ所爲アリトシテ刑ヲ適用スルコトヲ得ヘク偽造印カ如何ナル形象ヲ有スルヤノ判斷ノ理由ハ之ヲ判示スルノ必要ナシ而シテ原判文ヲ見ルニ被告カ印刷師ニ依頼シテ青森縣第二中學校長重野健造ノ職印及ヒ同校ノ契印ヲ影刻シ依頼シ之レヲ偽造シタル旨判示シアレハ理由ニ於テ毫モ欠クル所ナク上告論旨ハ理由ナシ

●官吏侮辱事件 明治三十五年(レ)第八八五號  
明治三十五年九月三十日判決 (棄却)

明治三十五年六月二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

判決要旨

- 一、刑法ニ所謂官吏中ニハ法律規則ニ依リ官吏ト同一ノ待遇ヲ受ケ又ハ之ニ準スル旨ノ規定アル者ヲモ包含ス
- 一、雇員ハ官吏ニ非ス
- 一、縣立中學校長ハ刑法ニ所謂官吏ナリトス從テ其職務ニ對シ侮辱シタル所爲ハ官吏侮辱罪ヲ構成ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院  
 被告人 小島彌五郎 辯護人 長尾興吉

右官吏侮辱事件ノ控訴ニ付明治三十五年四月二十八日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消ス被告ヲ一月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加ス押收ノ新聞紙ハ差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ裁判所構成法第四十九條ニ基キ刑事訴訟法第二百八

官吏侮辱ノ被害者タルヘキ官吏ノ範圍

十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
 上告趣意書ハ刑法第四百一條ノ官吏ノ職務ニ對シ云々ノ官吏トハ純然タル官吏ヲ指シタルモノニシテ官吏ノ待遇ヲ受クル者ヲ包含セサルモノト信ス而シテ本件ノ栃木中學校長劉須ハ純然タル官吏ニアラスシテ單ニ官吏ト同一ノ待遇ヲ受クルニ止マルモノナレハ官吏侮辱罪ヲ構成セサルコト明カナルニ原院カ之ヲ官吏侮辱罪ヲ以テ論シタルハ違法ノ判決ナリト思料ス(御院明治三十一年第一六號三月三日宣告ノ判決參照)ト云フニ在レトモ○法規ニ高等官判任官ヲ以テ待遇シ又ハ之ト同一ノ待遇ヲ受ク其他之ニ準スル旨ノ規定ナキ者例ヘハ雇員ノ如キハ縱令ハ職務上官署ノ事務ヲ取扱フモ官吏ト云フヲ得ス從テ官吏ニ關スル刑法ノ各條項ヲ之レニ適用スルコト能ハスト雖モ苟クモ法規ニ其趣旨ノ規定アル者ハ官制ヲ以テ定メラレタル吏員ト等シク其官吏タルコトハ論テ俟タサル所ニシテ刑法ニ所謂官吏中ニハ是等ノ者ヲモ包含スルヤ疑ヲ容ルヘカラス然リ而シテ明治三十一年勅令第三十二號第二條ニハ公立中學校長ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ學校ノ等位種類等ニ依リ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘキ旨ノ規定アリテ縣立中學校長ハ刑法ニ所謂官吏ナルカ故ニ其職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱シタル被告ノ所爲カ刑法第四百一條ノ官吏侮辱罪ヲ構成スルヤ論テ俟タサルヲ以テ原院カ之ヲ官吏侮辱罪ニ問擬シタルハ違法ノ判決ニアラス

明治三十五年九月三十日於大審院刑事聯合部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

●私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂及罪證隱蔽教唆事件 明治三十五年(九)第一一九四號 明治三十五年八月二十九日判決 (破毀)

判決要旨

人ヲ教唆シテ自己ノ罪證ヲ隱蔽セシメタル所以ハ刑法第百五十二條罪證隱蔽ノ教唆罪ヲ構成ス

說明

自己ノ罪證ヲ自ラ隱蔽スルノ所爲ハ敢テ法律ノ問フ所ニアラサルモ他人ヲ教唆シテ之ヲ隱蔽セシメタルトキハ教唆罪ヲ構成スルヲ妨ケス何トナレハ凡ソ教唆罪ハ他人ノ腦裏ニ重輕罪ノ犯意ヲ惹起セシムルノ所爲ヲ以テ之レカ本體トナスカ故ニ教唆ニ依テ惹起セラレタルノ意思カ法律ノ認メテ犯意トタニ稱スルヲ得ヘシハ教唆ノ所爲ハ茲ニ完了スルモノトス罪證隱蔽ノ所爲ハ被告自ラ之レヲ行フトキハ犯罪ノ主體タラスト雖モ被告以外ノ他人之レヲ行フトキハ則チ犯罪主體タリ得ルカ故ニ犯罪ノ主體タルヘキ人ノ腦裏ニ之レヲ行フノ決意ヲ惹起セシタルトキハ自ラ之レヲ惹起シタルト他人ノ指示誘導ニ依リ之レヲ惹起シタルト問ハス罪證ヲ

教唆ノ性質

隠蔽スルノ決意則チ犯意ナリト云フヲ得ヘケレハナリ論者動モスレハ法  
 文ニ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタルモノハ又タ正犯トストノ規定ア  
 ルヲ理由トシ教唆罪ヲ以テ實行共犯ト同一視シ實行共犯ノ主體タルノ能  
 カナキモノハ亦タ教唆罪ノ主體タラストノ議論ヲナスモノナキニアラス  
 ト雖モ如スキハ未タ教唆ノ實質ヲ詳ニセサルモノニシテ探ルニ足ラス論  
 者ノ引用シタル前記刑法ノ法文ニ於テ教唆罪ヲ以テ一ノ正犯トナシ被教  
 唆者ノ實行ヲ待テ之レヲ罰スルノ規定ヲ示シタルハ教唆ノ本質ヨリ生ス  
 ル當然ノ結果ニアラス唯法律ノ明文ヲ以テ教唆ニ對スル科刑ノ時期ヲ實  
 行正犯ト同一ノ時期ニ定メタルニ止マルノミ教唆罪ノ實體ハ已ニ業ニ他  
 人ニ犯意ヲ惹起セシメタルトキニ完了セラレ而シテ其ノ惹起セシメタル  
 所爲カ(即チ教唆被教唆者ノ實行ヲ待テ罰セラルト云フ)ノ觀念ニ過キサ  
 ルナリ以テ本判決ノ基本ヲ了知スヘキナリ教唆ニ關シテハ曾テ本誌第十  
 一卷第八號ニ於テ聊カ詳論シタルコトアルカ故ニ今本判例ニ遭遇スルニ  
 當リ左ニ之レヲ登載シ敢テ讀者參考ノ一助トセン

〔附言〕 教唆。教唆ニ於ケル刑罰ノ基本ニ關シテハ頗ル議論ノ生スル所ニシテ從  
 來學者ノ説ク所ニ依レハ教唆ニ係ル犯罪ノ所爲ハ被教唆者之ヲ分擔シ其ノ犯  
 罪ノ故意ハ教唆者之ヲ分擔ス即チ教唆者ハ犯意ノ本人ニシテ被教唆者ハ所爲

ノ本人ナリト今此ノ趣旨ヲ考フルニ教唆者ハ自ラ之レヲ實行セサルモ犯意ヲ  
 製造シタルカ故ニ犯罪ノ原因アリ被教唆者ハ他人ニ犯意ヲ製造セラレタルモ  
 自ラ之レヲ實行シタルカ故ニ犯罪ノ原因アリ換言セハ二者共ニ一犯罪ノ原因  
 ナ爲スカ故ニ刑罰ノ責任ヲ受リト云フニ在リ然レトモ近世ニ於ケル教唆ノ意  
 義ハ如スキ觀念ヲ許スヘキモノニアラス夫レ犯罪ノ要素ハ犯意及ヒ所爲ニ  
 リ犯罪ヲ成ル所爲ハ他人ノ犯意ニ對シテ各別ニ併  
 刑罰ノ上ノ犯罪ヲ爲スハ他人ノ犯意ニ對シテ各別ニ併  
 存スルヲ認メテ實行ノ得ニシテ若シ夫レ前所ノ如ク教唆者ハ  
 シ被教唆者以テ實行ノ得ニシテ若シ夫レ前所ノ如ク教唆者ハ  
 所爲ニ在テ犯罪ヲ爲スハ他人ノ犯意ニ對シテ各別ニ併  
 自身ニ於テ犯罪ヲ爲スハ他人ノ犯意ニ對シテ各別ニ併  
 スルニ於テ犯罪ヲ爲スハ他人ノ犯意ニ對シテ各別ニ併  
 者ニ於テ犯罪ヲ爲スハ他人ノ犯意ニ對シテ各別ニ併  
 一。教唆者ノ犯意ハ第一ニ刑法各條ノ犯罪ヲ爲シ行ハントスルノ決  
 心。第二。此ノ決心ヲ實行セシムルノ爲メニ他人ヲ誘引シテ同  
 ニ他ノ人ヲ誘引シテ實行セシムルノ爲メニ他人ヲ誘引シテ同  
 セシメテ誘引スルノ決心。此ノ三決心ヲ湊合シタルモノ是レ則チ教唆ノ犯  
 リトス。教唆者ノ犯行(即チ所爲)ハ教唆者ハ以上ノ三點ニ依テ成立セル教唆ノ犯  
 意ヲ實施スルノ爲メ言語文章等ヲ用ヒ被教唆者ヲ贊同承服セシムルノ働  
 教唆ノ性質

是ナリ

二、被教唆者。被教唆者ノ犯意ハ教唆者ノ教唆ニ依テ惹起セラレタル決心是ナリ被教唆者ノ犯意ハ教唆者ノ教唆ニ依テ惹起セラレタリト雖モ其犯意ハ則チ被教唆者ノ意思ナリ替官セハ其ノ犯意ノ本人ハ教唆者ニ非スシテ被教唆者タルナリ而シテ實行ノ所爲ノ被教唆者ノ所爲ナルコト明白論ヲ待タサル所ナ

如斯教唆者及ヒ被教唆者ハ各自犯意及ヒ犯行アルヲ認ムルハ犯罪ノ要素ヨリ生スル當然ノ結果ニシテ教唆者及ヒ被教唆者ノ刑罰ノ基本カ全ク別個ノ關待アル所以ノ理増々明カナルチ知ルヘキナリ云々

(參照) 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隠蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第百五十六條)

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 石井治太郎

右私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂及罪證隱蔽教唆被告事件ニ付明治三十五年五月二十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ原院檢事長橫田國臣ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

檢事長ノ上告趣意書ハ本件治太郎カ罪證隱蔽教唆ノ點ニ付本院刑事第四部ハ被告治太郎ハ前掲犯罪ノ事實ヲ蔽ヒ自己ノ罪跡ヲ免カレシカ爲メ明治三十三年六月二十日頃磯野佐七宅

ニ至リ被告事件ノ罪證ト爲ルヘキ明治三十年年度營業帳簿中十一月ニ治太郎カ酒食ヲ爲シタルコトノ記載アル部分ヲ除去スヘキ旨同人ニ依囑シ佐七ハ是ニ應シ明治三十年年度當坐帳中被告カ酒食ヲ爲シタル計算ノ記載シタル部分一葉ヲ切取り之ヲ自宅内ニ隱匿シタル事實ハ之ヲ認ムルヲ得ルモ右被告ノ所爲ハ刑法第一百五十二條ノ罪證隱蔽教唆ノ犯罪ヲ構成セスト判示シテ無罪ノ言渡ノ理由ト爲シタリ按スルニ刑法第一百五十二條ノ他人ナル文詞ハ被教唆者ノ地位ヨリ見タルモノニシテ教唆者ノ地位ヨリ見タルモノニ非サルナリ本件ニ於テ佐七カ行爲ニシテ他人ノ罪ヲ免カレシムル爲メ罪證ヲ隠蔽シタル者トシテ刑法第一百五十二條ノ犯罪ヲ構成スル以上ハ其之ヲ教唆シタル被告モ又教唆者トシテ罪跡ヲ免カル、能ハサルハ明白ニシテ裁判所カ此點ニ對シテ無罪ヲ言渡シタルハ失當ナリト思料スト云フニ在リ○因テ按スルニ刑法第一百五十二條ノ罪證隱蔽罪ハ他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リ罪證トナルヘキ物件ヲ隠蔽スルニ依テ成立スルモノナレハ磯野佐七ニ於テ被告治太郎ノ罪責ヲ免レシムル爲メ其罪證トナルヘキ物件ヲ隠蔽シタル以上ハ縱令ヒ右ハ被告治太郎ノ教唆ニ基キタルモノニシテ教唆者ノ爲メ之ヲ隠蔽シタルモノナリトスルモ其罪證隱蔽罪ヲ構成スルハ勿論磯野佐七ノ所爲ニシテ已ニ罪證隱蔽罪ヲ構成スル以上ハ同人ヲ教唆シテ該犯罪ヲ爲スニ至ラシメタル被告治太郎ノ所爲カ刑法第一百五條ニ該當シ其教唆罪ヲ構成スルハ論ヲ俟タス然ルニ原院ハ被告治太郎ハ前掲犯罪ノ事跡ヲ蔽ヒ自己ノ罪責ヲ免カレシカ爲メ明治三十三年六月二十日頃磯野佐七宅ニ到リ被告事件ノ罪證ト爲ルヘキ明治三十年年度營業帳簿中十一

月中ニ被告治太郎ノ酒食ヲ爲シタルコトノ記載アル部分ヲ除去スヘキ旨同人ニ依囑シ因テ  
佐七ハ之ニ應シ明治三十年度當坐帳中被告カ酒食ヲ爲シタル計算ノ記載アル部分壹葉ヲ切  
リ取り之ヲ自宅内ニ隠匿シタリトノ事實ヲ認メナカラ右被告ノ所爲ハ刑法第百五十二條ノ  
罪證隱蔽致唆ノ犯罪ヲ構成セサルモノトシテ無罪ヲ言渡シタルハ則チ擬律ノ錯誤ニシテ檢  
事長ノ上告ハ其理由アルモノトス然レトモ原判決ニハ此點ニ關スル證據ノ明示ナキヲ以テ  
本院ニ於テ直ニ之ヲ更正スルニ由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件被告ノ上告ハ之ヲ棄却シ同法第  
二百八十六條ニ依リ原判決中被告ノ罪證隱蔽致唆罪ニ關スル部分ヲ破毀シ事件ヲ宮城控訴  
院ニ移ス  
明治三十三年八月二十九日於大審院休暇部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

三百五十二

●詐欺取財事件

明治三十五年(九)第一二四六號  
明治三十五年九月二十二日判決

(破毀)

判決要旨

犯罪ノ用ニ供シタル物件法律ニ於テ禁制シタルモノナル  
トキハ之カ沒收ハ刑法第四十三條第一號ニ準據スヘク第  
二號ノ規定ニ準據スヘキモノニアラス

五八

說明

法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人モ之レヲ所有シ得ヘカラサルカ故ニ其  
ノ物件犯罪ノ用ニ供セラレタリトスルモ之レカ沒收ハ法律上ノ禁制物ト  
シテ處斷スヘク犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收スヘキニアラス何ト  
ナレハ若シ犯罪ノ用ニ犯シタルノ故ヲ以テ沒收スヘレトモ其ノ反對ニ  
犯罪ノ用ニ供セスノハ沒收ス可カサルノ意味ヲ包有スルニ至リ法律ニ於  
テ禁制シタルノ趣旨ヲ無視スルニ至レハナリ

五九

(參照) 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從  
フニ、法律ニ於テ禁制シタル物件ニ、犯罪ノ用ニ供シタル物件(刑法第四十三條)

第一審 水戸地方裁判所土浦支部

第二審 東京控訴院

被告人 榎田幸太郎

辯護人 高木益太郎  
磯部四郎  
宇野庄吉

右欺詐取財被告事件ニ付明治三十五年六月六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被  
告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百三十八條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
辯護人高木益太郎上告辯明書ノ第一點ハ玩弄幣紙ハ法令ニ於テ其製造並ニ所持ヲ禁制シタ  
ルモノナルヲ以テ原院カ本件押收ノ玩弄紙幣ヲ沒收スルニ當リテハ刑法第四十三條第一號  
ヲ適用スヘキ筈ナルニ同條第二號ヲ適用シタルハ法則ニ違反セリト云フニアリ○依テ按ス

法律上ノ禁制物

三百五十三

ルニ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法第一條ニ「貨幣政府發行紙幣銀行紙幣兌換銀行券國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造販賣スルコトヲ得ス」トアルヲ以テ通貨ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノ即チ模造ノ通貨ハ其種類如何ニ拘ハラス總テ之レヲ製造販賣スルコト能ハサルモノトス而シテ同法第三條ニ「第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハズ警察官ニ於テ之レヲ破毀スヘシ」トアルヲ以テ模造貨幣ハ雷ニ其製造販賣ヲ禁スルノミナラス併セテ其所有ヲモ禁スルモノニシテ犯罪ニ關係アルモノハ刑法ノ規定ニ從ヒ刑事裁判所ニ於テ沒收ノ處分ヲ爲シ犯罪ニ關係ナキモノハ警察官ニ於テ所有者ヨリ之ヲ取上ケ破毀ノ處分ヲ爲スヘキモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ而シテ原判文ヲ見ルニ事實摘示ノ部ニ「被告ハ玩弄紙幣ヲ以テ財物ヲ騙取セント欲シ云々玩弄ノ五圓紙幣ヲ差出シキンヲシテ真正ノ五圓札ナリト信セシメキンヨリ金二圓二十錢ヲ受取り以テ之ヲ騙取セリ」トアリ又タ證據說明ノ部分ニ「押收ノ五圓札ニ模シタル玩弄紙幣トニ徴シ」云々トアルヲ以テ本件ノ玩弄紙幣ハ前記明治二十八年法律第二十八號一條ニ規定セル通貨ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル模造通貨ニ該當スルコト明カナリ果シテ然ラハ右玩弄紙幣ハ法律ニ所有ヲ禁スル物件ニシテ刑法第四十三條第一號「法律ニ制禁シタル物件」トアルニ該當スルヲ以テ之ヲ適用シ沒收ノ宣告ヲ爲スヘキモノトス蓋シ本件ノ玩弄紙幣ハ犯罪ノ用ニ供セラレタル物件ニシテ同條第二號ニ掲クル物件ニモ該當スルモノナレトモ元ト法律ニ所有ヲ禁スル物件トシテ當然沒收セラルヘキモノナレハ常ニ必

ラス一號ヲ適用スルコトヲ要シ第二號ヲ適用シテ沒收ノ宣告ヲ爲スヘキモノニアラス然ルニ原院カ第二號ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ上告論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免カレサルモノトス

右

榎田幸太郎

右原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ該當スルヲ以テ其範圍内ニ於テ被告ヲ重禁錮三月罰金七圓監視六月ニ處シ押收ノ玩弄紙幣一枚ハ法律ニ所有ヲ禁シタル物件ナルヲ以テ同法第四十三條一號第四十四條前段ニ依リ沒收シ公訴裁判費用ハ同法第四十五條刑事訴訟法第二百一號第一項ニ依リ被告ニ負擔セシムルモノトス

明治三十五年九月二十二日於大審院第二刑事部公庭檢事小宮三保松立會宣告ス

●委託金費消事件裁判執行異議事件 明治三十五年(〇)第一九號 明治三十五年七月十八日決定 (棄却)

決定要旨

一、刑法第五十一條第二號ハ檢事ノ上訴アリテ其上訴ニ對シ

檢事ノ附帶控訴ト刑期起算トノ關係

當否ノ判決アリタル場合ニノミ適用スヘキモノトス從テ被告ノ控訴取下ノ爲メ檢事ノ附帶控訴無効ニ歸シタルカ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(参照) 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トチ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス(刑法第五十一條第二號)

原 審 函館控訴院

被 告 人 池 田 正 清

右正清ニ對スル委託金費消事件ノ裁判執行異議ニ付函館控訴院ノ決定ニ對シ被告ヨリ抗告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百九十七條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ抗告理由ハ抑モ主タル上訴ト云ヒ附帶上訴ト云フモ檢事ヨリ爲シタルトキハ檢事ノ上訴ニシテ被告ヨリ爲シタルトキハ被告ノ上訴ナリ附帶ノ上訴ナルカ故ニ檢事ノ上訴ニ非スト云フテ得ス故ニ刑期ノ起算點ヲ規定シタル刑法第五十一條第二號ニ所謂檢事ノ上訴ニハ無論附帶ノ上訴ヲモ包含スルモノト云ハサル可ラス而シテ其結果或ハ主タル上訴取下ノ爲メニ之ニ附帶セル上訴カ消滅シタルトキト雖モ既ニ一旦有效ニ成立シタルトキハ同條第二號ニ依リ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算セサル可ラス若シ夫レ主タル上訴ヲ取下タル爲メ之レト

運命ヲ共ニスル附帶上訴モ從テ消滅シ初ヨリ全ク上訴ナカリシ原狀ニ復スルモノトセンカ即チ同條初項ニヨリ刑名宣告ノ日ヨリ起算セサル可ラス然ルニ原裁判ハ刑法第五十一條第二號ノ規定ハ檢事カ主タル上訴ヲ爲シタル場合ヲ規定セルモノニシテ附帶控訴ヲ爲シタル場合ヲ規定セルモノニ非スト說明セラレタレトモ更ニ其理由ヲ示サス附帶上訴ノ消滅シタル爲メニ同條ノ上訴中ニハ絶體ニ附帶上訴ヲ包含セストノ理由モ無カル可シ假令ハ檢事ノ附帶上訴カ有效ニ成立シテ爲メニ被告ノ不利益ニ判決ヲ變更セラレタリトセンカ尙此場合モ同條第二號ニ包含セサルモノトシテ刑罰ヲ計算スヘキカ要スルニ原裁判ノ如キハ立法論トシテハ兎ニ角申立人ノ不利益ニ曲解シタルモノニシテ正當ナル解釋ナリト云フテ得ス第二刑法第五十一條ニ依レハ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ストアリテ若シ上訴ニ係ルトキハ前判宣告ノ日ヨリスルト後判宣告ノ日ヨリ起算スルト二者一ニアルヲ示シ控訴取下ノ場合ヲ明規セスト雖モ取下ヲ爲シタルトキハ上訴ハ消滅シタルモノナレハ即チ同條初項ニヨリ刑名宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノニシテ控訴取下ノ日ハ刑名宣告ノ日ニハ非サルナリ原裁判ハ取下ヲ爲スニ至ル迄ハ不當ニ原裁判ニ對シ不服ヲ唱ヘタルモノナリト說明シタレトモ單ニ結局上訴理由ナキニ歸着スヘキ場合ノミニ非ス抑モ上訴取下ヲ爲ス場合ハ正當ニ原判決ニ不服ヲ唱ヘ大ニ理由アルトキト雖モ計ラス檢事ノ附帶控訴アリタル爲メニ萬一不利益ノ判決ヲ變更セラレン事ヲ恐レ不本意ナカラ泣テ取下ヲ爲ス場合モアリ又極メテ短期ノ刑ノ言渡ニ對シ非常ニ長キ上訴期間尙留セラレン事ヲ恐レ原來正當ノ理由アリテ一旦上

檢事ノ附帶控訴ト刑期起算トノ關係



三百五十八

訴シタルモ之レヲ取下ルノ場合モアルヘシ故ニ上訴ノ正當ナルト否トハ判決アリテ知ルヲ得ヘク上訴取下ノミニテハ直ニ不當ナル上訴ナリト云フヲ得ヌ要スルニ上訴取下ノ場合カ規定ナキハ法ノ不備ナル可シ法ノ不備ハ改正ヲ俟テ初テ前裁判ノ如ク論スルヲ得ヘキモ今日申立人ノ不利益ニ曲解スルヲ許サス以上ノ理由ニ依リ本件刑期ハ刑名宣告ノ日即チ本年五月十三日ヨリ起算スヘキモノニシテ控訴取下ヲ爲シタル日ヨリ起算シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○刑法第五十一條第二號ハ檢事ノ上訴アリテ其上訴ニ對シ當否ノ判決アリタル場合ニノミ適用スヘキ法意ナリ如何トナレハ注文ニ前判云々トアル已上ハ之ニ對スル後判アル場合ヲ豫想スルコト明カナレハナリ本件ハ被告ノ控訴取下ノ爲メ檢事ノ附帶控訴無効ニ歸シ之ニ對シ結局正當ナルヤ否ヤノ判決ナカリシ場合ナルヲ以テ上訴セラレタル判決ニ對スル後判ナルモノアルコトナキカ故ニ右被告ノ控訴及ヒ檢事ノ附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立ラレタル判決ハ即チ確定判決ニシテ其確定ハ上訴取下ノ日ニ在ルモノナレハ同第五十條ノ趣旨ニ從ヒ其確定シタル日ヨリ執行スヘキモノナルコト明カナリ從テ其刑期モ其確定ノ日ヨリ起算スヘキハ當然ニシテ本抗告ハ理由ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第三百條ノ規定ニ從ヒ決定スルコト左ノ如シ

本抗告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年七月十八日於大審院休暇部

私印盜用私書偽造行使詐欺取財及附帶私訴事件  
明治三十五年(レ)第一二三八號  
 明治三十五年九月二十六日判決 (棄却)

判決要旨

買賣ハ承諾ノ意思表示ニ依テ直チニ所有權移轉ノ效果ヲ生ス從テ詐欺ノ手段ヲ以テ不動産賣買ノ承諾ヲサシメタルトキハ其ノ登記又ハ引渡ノ手續ヲ完了シタルト否トニ拘ラス詐欺取財罪ノ已遂犯ヲ構成ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 高知地方裁判所 第二審 廣島控訴院  
 公訴私訴上告人 濱田時治 辯護人 高木益太郎  
 私訴被上告人 出口勇之助

右時治ニ對スル私印盜用私書偽造行使詐欺取財事件及ヒ之レニ附帶スル私訴ニ付明治三十五年五月十九日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル公私訴ノ判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

不動産ニ對スル詐欺取財ノ已遂時期

辯護人高木益太郎再辯明書ノ趣旨ハ原院ハ「右地所ヲ賣渡サシメテ騙取シ尙其意思ヲ繼續シテ(中略)單純ナル賣買證書一通ヲ(中略)騙取シタルモノナリト判示シテ被告ニ不動産及證書ノ詐欺取財罪アリトスルハ左ノ二個ノ不法アリ(イ)賣買ノ意思表示ノミヲ以テ既遂トナシタルハ不法ナリ不動産ノ詐欺取財ニ關シテ既遂ナリト決定スルニハ必ス形式上犯人カ其不動産ヲ自己ノ自由處分ノ下ニ移シタルヲ要スルヲ以テ其登記又ハ引渡ヲ完了シテコソ既遂ナリト論スルヲ得ルモ唯意思ノ表示ノミヲ以テ既遂ナリト云フヲ得ス況ンヤ其意思表示スラ刑事上ノ詐欺ニ基クテ以テ無効ニ歸スヘキモノナルヲ然ルニ原院カ「右地所ヲ賣渡サシメテ騙取シ」ト説明シ意思ノ表示ヲ以テ既遂ナリト判決シタルハ不法ナリ(ロ)證書騙取罪アリト言フハ不法ナリ不動産詐欺取財ノ既遂ニハ登記ヲ爲スヲ要ス從テ本件被告カ登記ヲ爲ス爲メニ單純ノ賣買證書ヲ引渡サシメタルハ不動産ノ詐欺取財ヲ完成スル手段ニシテ意思ヲ繼續シテ別ニ一罪ヲ犯シタリト云フヲ得サルハ其既遂ニ達セントスル必要の手段タレハナリ然ルニ原院カ意思ヲ繼續シテ證書一通ヲ騙取シタリト云フハ不法ナリト云フニ在レトモ○賣買ハ承諾ノ意思表示ニ依テ直チニ成立シ其賣買成立ト同時ニ所有權移轉ノ效ヲ生スルモノナルニ依リ苟モ詐欺ノ手段ヲ以テ不動産賣買ノ承諾ヲ爲サシメタル以上ハ登記又ハ引渡ヲ完了スルト否トニ拘ハラズ詐欺取財ノ既遂罪ヲ構成スルハ勿論ナリトス故ニ原判決ニ於テ被告カ買戻及ヒ小作ノ二條件ヲ付シ買受クル旨陽ニ承諾シテ勇之助ヲ欺キ同人ヨリ地所三十筆ヲ賣渡サシメタル所爲ヲ以テ詐欺取財ノ既遂罪ニ問擬シタルハ相當ナ

●恐喝取財事件 明治三十五年(レ)第一二七五號 (棄却)  
 明治三十五年九月二十五日判決

判決要旨

財物ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ人ヲ恐怖セシムルニ足ルヘキ恐喝手段ヲ施シタルトキハ被害者ニ恐怖ノ念ヲ生シタルト否トナ不問恐喝取財罪ノ未遂犯ヲ構成ス

說明

本件ハ恐喝取財罪ニ關スル着手未遂犯ノ成立スヘキ程度ヲ判示シタルモノニシテ讀者ノ最モ注意ヲ要スル所タリ抑モ着手未遂ナル者ハ客觀的犯罪ノ成立要素ノ一部ニ着手シタル時ヲ以テ成立時期トナスコト一般學者ノ

財ヲ得ヘンカ爲メ恐喝ニ着手シタル者ノ處分

是認スル所ナリ今此ノ觀念ヲ以テ恐喝取財罪ノ未遂犯ノ場合ニ適用セシ  
ニ恐喝手段ヲ施スハ恐喝取財罪ノ客觀的成立要素ノ一ナルカ故ニ其ノ之  
レヲ施スノ所爲ハ即チ未遂犯罪ヲ構成スルヤ論ヲ待タズ獨リ注意スヘキ  
ハ法文ノ所謂恐喝ナル文字ハ恐喝ノ手段ニ依リ被害者カ現ニ恐怖ノ念ヲ  
生シタルコトヲ意味スルカ故ニ單ニ恐喝手段ヲ施シタルニ止マリ被害者  
ニ恐怖ノ念ヲ生セサルトキハ未タ恐喝ノ所爲アリタリト謂フテ得サルヘ  
ク從テ此ノ場合ニ於ケル恐喝手段ノ實行ハ未タ以テ犯罪ノ一部ニ着手シ  
タリト云フテ得サルカ如キ感ナキニアラスト雖モ然ラス凡ソ恐怖ノ念ハ  
恐喝手段ニ對シテ始メテ發生スヘキモノナルカ故ニ恐喝手段ト恐怖トハ  
共ニ恐喝其ノモノヲ組成スルノ要素ナリト云フテ妨クス然ラハ則チ人ヲ  
シテ恐怖セシムルニ足ルヘキ恐喝手段ヲ實行シタルトキハ恐喝ニ着手シ  
タルモノニシテ之ニ恐喝取財罪ノ未遂犯ヲ構成スヘキヤ明カナリ

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院  
被告人 長屋増右衛門 辯護人 鈴木升藏

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十五年五月三十日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對  
シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如  
シ

上告趣意書ノ第二ハ原院ハ被告等ニ恐喝取財ノ所爲アリト斷定セラレタルモ本件ノ事體ニ  
徴シ一モ被害者カ恐怖シタリトノ事跡ノ見ルヘキモノナシ殊ニ被害者カ一金ヲモ騙取セラ  
レサリシ事實ニ徴スルモ恐怖ノ念ヲ生セサリシ事實ハ明白ナリ故ニ刑法第三百九十條ハ此  
場合ニ適用スヘカラサルハ勿論假リニ恐喝取財ノ未遂犯アリトスルモ刑法第三百九十七條  
同第一百十三條ヲ適用スヘシ第百十二條ニ照シ處斷スヘキモノニアラス又第百十二條ニ開  
擬スヘキモノトスルモ犯人意外ノ障礙若クハ外錯ニ因リ未タ遂クサル事跡アラサル事件ナ  
レハ犯罪ヲ構成セサルモノナリ然ルニ原院カ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ失當ナリ  
ト云フニアレトモ○恐喝取財ノ既遂アリトスルニハ被害者カ恐怖ノ念ヲ生シタルコトヲ必  
要トスルモ未遂ノ場合ニ於テハ犯人ノ用キタル恐喝手段カ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムヘ  
キ性質ノモノタルノミヲ以テ足ルモノニシテ被害者カ豫期ノ如ク恐怖ノ念ヲ生シタルヤ否  
ハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ボスコトナシ而シテ原院ノ認メタル事實ニ依レハ被告等ハ被害者  
長屋又右衛門ニ強姦ノ所爲アリトシテ告訴ヲ爲サント恐喝シタルモノナレハ被告等ノ用キ  
タル恐喝ノ手段ハ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムヘキ性質ノモノタルヤ明カナリ果シテ然ラ  
ハ被害者又右衛門カ恐怖ノ念ヲ生シタルト否トニ拘ラス恐喝取財罪ハ成立スヘキ筋合ナレ  
ハ上告前段ノ論旨ハ理由ナシ又原院カ被告ニ恐喝取財未遂ノ所爲アリト認メ刑法第三百  
九十七條同第一百十二條ヲ適用シタル以上ハ理由ニ於テ欠クル所ナキノミナラス同第一百十三  
條ノ規定ハ刑ノ適用上ニ於テ準據スルノミヲ以テ足り之ヲ法文ニ掲ケテ適用ノ理由ヲ示ス  
財ヲ得ヘンカ爲メ恐喝ニ着手シタル者ノ處分、

ノ要ナシ且ツ本件ニ在テハ被告カ犯罪ヲ遂ケサリシハ被告カ自カラ犯罪ヲ中止シタルニア  
ラスシテ其豫期セサル障礙即チ被害者ノ意志カ被告ノ恐喝手段ニ對シ比較的堅固ニシテ被  
告ノ用キタル手段カ其效ヲ生セサリシ事情ニ起因セルコトハ原判文上明白ナレハ後段ノ論  
旨モ亦タ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十五年九月二十五日於大審院第二刑事部公延檢事與宮正治立會宣告ス

●強盜恐喝取財事件

明治三十五年(九)第一二二六號  
明治三十五年九月二十九日判決

(棄却)

判決要旨

- 一、不動産買戻證書ハ權利證明ノ具ニ供スヘキモノナルヲ以テ刑法第三百七十八ノ所謂財物中ニ包含ス之レヲ強取シタルモノハ強盜ノ罪ヲ構成ス
- 二、支部カ重罪ナリトシテ地方裁判所刑事部ニ移付スルノ決定ナシタルトキハ此ノ決定ハ事件移付ノ效力ヲ有スルニ止マリ裁判ノ手續ヲ重罪事件ニ改メシムルノ效力ヲ有

セス

三、刑事訴訟法第二百六十四條ノ規定ハ地方裁判所カ輕罪事件トシテ輕罪ノ手續ニ依リ審理シタル事件ヲ控訴院ニ於テ始メテ重罪ナリトスル場合ニノミ適用スヘク地方裁判所カ已ニ重罪事件トシテ審理シタル事件ニ對シテハ假令其判決カ輕罪ノ言渡ヲナシタル場合ト雖モ之ヲ適用スハキモノニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ附帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ナシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ「受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得」本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セザルトキハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ(刑事訴訟法第

第一審 浦和地方裁判所熊谷支部 第二審 東京控訴院  
被告人 寺山武三(耶) 辯護人 小島重太郎(中)  
外三名

強盜罪ノ目的○支部ノ爲シタル犯罪事件移付ノ判決○控訴審ニ於ケル重罪事件ノ更新 三百六十五

右武三郎力藏吉之亮カ強盜被告事件力藏吉之亮丈之助カ恐喝取財被告事件及ヒ武三郎カ恐喝取財被告事件ニ付明治三十五年五月二十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等ヨリ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルノ左ノ如シ被告武三郎上告趣意書ノ第三ハ要スルニ飯野秋四郎ハ十九日ニ渡シタリト申立タルニ拘ハラズ原院ハ十九日附ノ證書ヲ十八日ニ強取シタリト認定シタルハ架空ニ事實ヲ認定シタル不法ノ裁判ナリ又本件ノ證書ハ不動産ノ賣戻ヲ承認シタル契約證書ニ過キサレハ刑法第三百七十八條ノ財物ニアラサルノミナラス右證書ノ如キハ毫モ羈束力ナキ無價値ノモノナレハ盜罪ノ目的物ト爲スヲ得ス況ヤ被告等ハ秋四郎ノ承認上之ヲ受取リタルモノニシテ暴行脅迫ヲ加ヘテ奪取シタルニ非サルニ於テオヤト云フニ在レトモ○論旨ノ前段ハ畢竟原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨解釋ヲ非難シテ事實ノ認定ヲ攻撃スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由ナク又本件不動産賣戻契約證書ノ如キハ權利證明ノ具ニ供スヘキモノナレハ刑法第三百七十八條ノ所謂財物中ニ包含スヘキハ勿論ナリ而シテ右證書ハ被告等カ暴行ヲ加ヘ強奪シタルモノナレハ實質上有效ナラサルヤ固ヨリ辯テ竣タスト雖モ苟モ形式上權利證明ノ具ニ供スヘキモノナル以上ハ之ヲ強取スレハ強盜罪ヲ構成セサルヘカラス故ニ右論旨モ亦理由ナシ其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ非難ニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス被告吉之亮ノ上告趣意陳辯書ハ要スルニ第六八六號事件即チ本件第二事實ニ付テハ熊谷支部ニ於テ公判ヲ開始シ審理ノ末重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ與ヘ浦和地方裁判

所ニ移送シ同裁判所ニ於テハ右熊谷支部ノ決定ニ因リ直チニ重罪トシテ裁判セラレタルハ失當ナルニ原院カ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ依リ處分セサルハ失當ナリト云フニ在リ○依テ訴訟記録ヲ査閱スルニ熊谷支部ノ決定ハ本件ハ強盜罪ヲ構成スルモノト思料スルヲ以テ浦和地方裁判所刑事部ニ移付スト云フニ在リテ即チ本件ヲ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ニ非スシテ單ニ本件ヲ浦和地方裁判所ノ刑事部ニ移付スルノ決定ニ過キス故ニ右決定ハ違法ニ非スト雖モ浦和地方裁判所ニ於テ本件ヲ以テ重罪ナリトスルトキハ刑事訴訟法第二百四十一條ニ依リ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲サルヘカラス然ルニ其決定ヲ爲スコトナク直チニ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメタルハ同條ノ規定ニ背キタルモノナリト雖モ右ハ第一審ニ於ケル訴訟手續ニ屬シ且原院ハ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ依リ第一審判決ヲ取消シ更ニ裁判ヲ爲シタルモノナレハ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

被告武三郎力藏吉之助辯護人小島重太郎ノ辯明書ハ第一審ニ於テ脅喝取財罪トシテ公判ニ付セラレタル輕罪事件ヲ第二審ニ至リ檢事ノ附帶公訴ニ依リ強盜罪トシテ重罪ノ刑ヲ適用シタリ然ルニ此場合ニ於テハ刑事訴訟法第二百六十四條ニ依リ公判手續ヲ中止シ更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲナシ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可キモノナルニ原院ハ其手續ヲナサシテ重罪トシテ處斷シタルハ不法ナリト思料致候ト云フニ在レトモ○本件ハ初ノ恐喝取財ナル輕罪事件トシテ公判ニ付セラレタルモ第一審ニ

強盜罪ノ目的○支部ノ爲シタル犯罪事件移付ノ判決○控訴審ニ於ケル重罪事件ノ更新 三百六十七

於テ已ニ強盜事件トシテ重罪公判ノ手續ニ依リ審判セラレタルモノニ係ル而シテ刑事訴訟法第二百六十四條第一項ニハ「控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ云々」トアルヲ以テ地方裁判所カ重罪事件トシテ審理シタルト輕罪事件トシテ審理シタルトヲ問ハス苟モ其判決ニ於テ輕罪ナリトシタルトキハ同條項ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメサルヘカラザルカ如シト雖モ地方裁判所カ已ニ重罪事件トシテ重罪ニ關スル手續ヲ履行シテ審理シタル事件ニ付テハ其輕罪ナリト判決シタルト重罪ナリト判決シタルトヲ問ハス又控訴院カ之ヲ重罪ナリトスルト輕罪ナリトスルトヲ論セス控訴院ニ於テハ常ニ重罪公判ノ手續ヲ履行スヘキモノナルヲ以テ特ニ重罪ナリトスルトキニ限リ受命判事ヲシテ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルノ要アルコトナク唯地方裁判所カ輕罪事件トシテ輕罪ニ關スル手續ニ依リ審理シタル事件ヲ控訴院ニ於テ初メテ重罪ナリトスル場合ニ於テハ第一審ニ於ケル輕罪事件ノ手續ヲ改メ重罪事件トシテ鄭重ナル審理ヲ爲サルヘカラザルヲ以テ重罪事件トシテ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルノ必要アリトス且若シ前段解釋ノ如ク地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル結果ノミヲ見テ其重罪事件トシテ審理シタルト輕罪事件トシテ審理シタルトヲ問ハサルトキハ地方裁判所カ無罪又ハ免訴ヲ言渡シタル事件ヲ控訴院ニ於テ重罪ナリトスルトキハ地方裁判所カ重罪トシテ審理シタルト輕罪トシテ審理シタルトニ拘ラス控訴院ハ常ニ右第二百六十四條ノ規定ニ依ルヲ要セスト云ハサルヘカラズ然レトモ此如ク法律ノ趣旨ニ非サルヤ明カナルノミ

ナラス同條第三項ニ依レハ「本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セサルトキハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ」トアリ然ルニ地方裁判所カ重罪事件トシテ審理シタル事件ニ付テハ刑事訴訟法第二百五十八條同第三百三十七條第一項ノ適用ニ依リ控訴院ニ於テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヲ問ヒ被告人カ辯護人ヲ選任セサルトキハ同條第二項ニ依リ裁判長ニ於テ辯護人ヲ選任スヘキヲ以テ右第二百六十四條第一項ノ決定前已ニ辯護人ノ選任アルヘキ理ナレハ同條第三項ハ無用ノ規定タルニ終ルヘシ故ニ同條第一項ハ控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪事件トシテ審理シタル事件ヲ重罪ナリトシテ審理スヘキ場合ニ適用スヘキ規定ニシテ本件ノ如ク地方裁判所カ已ニ重罪事件トシテ審理シタル事件ニ適用スヘキモノニ非スト解セサルヘカラズ故ニ本論旨ハ相立タス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

謀殺未遂事件 明治三十五年九月二十九日判決 (棄却)

判決要旨

證據調ノ決定ハ部員ノ變更ニ依リ審理ヲ更新シタルカ爲メ其ノ效力ヲ消滅スヘキモノニアラス從テ更新後ニ至リ其ノ以前ノ決定ニ基キナシタル證據調ハ違法ニアラス

審理更新以前ニナシタル證據決定ノ效力

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 川 股 仙 藏 外一名 辯護人 花井 卓 重 藏  
野 金 重 藏

右謀殺未遂被告事件ニ付明治三十五年六月十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ上告趣意書ノ第二ハ審理トハ事件全體ノ訴訟手續ヲ總稱ス從ヒテ部員ニ變更アリ審理ヲ更新スヘキ場合ニアリテハ事實ノ審理ハ勿論證據調モ亦一齊ニ之ヲ改メサルヘカラス而シテ人證ノ申請並ニ其決定ノ證據調ニ屬スヘキ固ヨリ論ヲ待タサル所ナリトス而シテ森タヨ川股ムメノ證人申請並ニ其決定ハ更新前ノ公延ニ於テ行ハレタルモノニシテ更新後ノ公延ニ於テ行ハレタルモノニアラス別言セハ更新後ニ於ケル判事ノ全體ハ該證據決定即證據調ニ關與セサルモノナリ果シテ然ラハ渠レ等ハ本件ノ判決ヲ爲シタル判事ノ全體ヨリ決定セラレタルコトナクシテ證人トシテ取調ヲ受ケタル筋ニ歸スルヲ以テ原院ハ爰點ニ於テ審理ノ一部タル證據調ヲ更新セサル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○審理更新前ニ爲シタル證據調ノ決定ハ其更新セラレタル爲メ其效力ヲ消滅スルモノニアラサレハ更新後更ニ決定ヲ爲スノ要ナシ故ニ本件ニ付第一回公判ニ於テ爲シタル證人喚問ノ決定ニ依リ第二回

七六

七七

賭場開張及幫助事件

明治三十五年(九)第一二七號 (棄却)  
明治三十五年九月廿五日判決

判決要旨

取引所ノ相場ノ高低ハ偶然ノ事柄ニ屬ス從テ其ノ高低ニ依リ勝敗ヲ決スルノ方法ヲ以テ金錢ヲ賭シタル所爲ハ賭博罪ヲ構成ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 湯 本 元 外一名

右賭場開張及其幫助被告事件ニ付明治三十五年五月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

賭博罪ノ成立

被告元作ノ上告趣意書ハ自分等カ行爲ハ取引所法違反トシテ處罰スヘキニ原院ハ不法ニモ賭場開張罪トシテ處決セラレシハ法則ヲ不法ニ適用シタル不當ノ判決ナリト云ヒ辯護人第二辯明書ハ凡テ取引所ノ相場ハ所謂公定相場ニシテ之ニ依テ物價ノ高下ヲ定ムル標準トスルモノナリ而シテ本件被告等ヲ日本橋區彌穀町米穀取引所ノ定期米相場ノ高低ニ依リ一定ノ金銭ノ輸贏ヲ決シタルハ即チ物價ノ騰貴下落ヲ條件トシタルモノト謂サル可ラス而シテ物價ハ智力ニ依リ普通判斷シ得ルモノニシテ夫ノ偶然ノ事故ヲ條件トシテ輸贏ヲ決スル賭博ト其性質ヲ異ニシ所謂賭事ニ屬スルモノナリ而シテ賭事ハ我刑法ノ制裁セサル所ニシテ(取引所法違反ハ格別)之ヲ舉行スルモ刑法第二百六十條ニ問擬スヘキニアラサルナリ故ニ原院判決ハ到底不當ニ法律ヲ適用シタル譏ヲ免レスト云フニ在レトモ○取引所法違反タルニハ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ原院ノ認ムル所ニ依レハ本件ハ米穀取引所ノ定期米ノ相場ニ因リ勝敗ヲ決シタルモノニシテ賣買取引ヲ爲シタルモノニアラサレハ取引所法違反ニアラサルコト明カナリ又取引所ノ相場ノ高低ハ偶然ノ事柄ニ屬スルヲ以テ其高低ニ因リ勝敗ヲ決スルノ方法ヲ以テ金銭ヲ賭シタルトキハ賭博罪ヲ構成ス故ニ其賭場ヲ開張シタル被告ノ所爲ヲ賭場開張罪アリトシテ處斷シタルハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十五年九月二十五日於大審院第二刑事部公廷檢事與宮正治立會宣告ス

謀殺未遂事件

明治三十五年(九)第一五四四號  
明治三十五年十月三十日判決 (破毀)

判決要旨

甲者ヲ毒殺センカ爲メ致死量以上ノ毒藥ヲ食物ニ混和シ之レテ甲者ニ供シタルニ偶々丙者來リ其ノ毒物ナルコトヲ知ラス之ヲ甲者ヨリ貰受ケ食シタルカ爲メ煩悶吐血シテ死ニ至ラサリシ事實ハ刑法第二百九十八條ノ所謂謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ニ該當シ未遂犯ヲ構成ス

說明

毒殺ノ罪若クハ詐稱誘導シテ死地ニ陷サシムル罪ハ犯人ノ施シタル所爲ノ外更ラニ被害者ノ動作ヲ假リ始メテ犯罪ノ目的ヲ達シ得ヘキカ故ニ犯人ノ行爲ヲ以テ直接ニ被害者ノ身體ニ危害ヲ加フル一般普通ノ殺人ノ場合トハ犯罪所爲ノ状態同一ナラサルヲ想像セル可ラス即チ前記二者ノ犯罪ニ在テハ加害者ノ行爲ハ單ニ致死ノ原因ヲ生スヘキ機會ヲ與フルニ止マリ直接致死ノ原因ハ被害者自身ノ動作ニ依テ行ハルカ故ニ此ノ種ノ犯罪ニ對スル犯人ノ所爲ハ單ニ致死ノ直接原因タル行爲ヲ行フヘキ機會

謀殺未遂



ヲ與フルニ由テ完了シ其ノ以上ノ行為アルコトナシ然リ而シテ死傷ヲ招クノ機會カ殺害セント欲スル人ニ對シテノミ行ハレタル場合ハ格別若シ然ラスシテ何人ニ對シテモ其ノ原因ヲ生シ得ヘキ機會タルハ其ノ機會ハ何人ニ對シテモ致死ノ原因タルヘキ機會ヲ與ヘタルモノナルカ故ニ假令目的タル以外ノ人ト雖モ之レニ依リテ死ノ原因ヲ招カハ有意ノ殺人罪ヲ構成スルニ妨ケル所ナシ例ヘハ家族中ノ一人ヲ毒殺セントシ其ノ危害ノ他ノ家族ニ及ハソコトヲ恐レ目的タル一人ノ家族ニ限り使用スヘキ食物アルヲ寄貨トシ之レニ毒藥ヲ混和シ被害者ノ食スヘキ相當ノ地位ニ置キタルニ不圖モ他ノ家族ノ食スル所トナリ爲メニ死ノ原因ヲ生シタリトセハ此ノ致死ノ事實ニ對シテハ過失罪ヲ以テ論スルノ外有意ノ殺人罪ヲ以テ論スヘキニアラサルナリ何トナレハ此ノ場合ニ於ケル被告ノ所爲ハ其ノ目的タル家族ニ對シテハ致死ノ原因ヲ招クヘキ機會ヲ與ヘタリト云フヲ得ヘキモ其ノ他ノ家族ニ對シテハ敢テ其ノ機會ヲ與ヘタリト云フヲ得サレハナリ偶々他ノ家族ノ之レヲ食シタルハ之レ不時ノ出來事ニ屬シ犯人ノ豫想スル所ニアラサレハナリ反是其ノ家族中何人モ食スヘキ食物ヲ以テ毒殺ヲ謀リタルトキハ假令其ノ目的スル人ニノミ食セシムヘキ意思ヲ以テ其ノ人ニ與フルモ素ト其ノ食品ハ何人モ之レヲ好ムノ品ナルト

三百七十四

四二

キハ被告ノ所爲ハ何人ニ對シテモ致死ノ原因ヲ生スヘキ機會ヲ與ヘタルモノナルヲ以テ之レヲ食シタルカ爲メ死亡ノ結果ヲ生スルトキハ被害者ノ何人タルニ不拘有意ノ殺人罪ヲ構成スルヲ妨サルモノトス論者動モスレハ刑法第二百九十八條ノ規定ハ殺害ノ目的タル人ヲ誤認シタル場合即チ甲ヲ殺スノ目的ヲ以テ乙ヲ甲ナリト誤認シテ殺傷シタルニ豈ニ計ラシ乙ナリシ場合ニ適用スヘキ法文ニシテ苟モ被告ニ此ノ誤認ナキ本件ノ場合ノ如キハ敢テ本條ヲ適用スル限ニアラスト此ノ論素ヨリ一理ナキニアラサルノミナラス現今獨逸派ノ學說ニ依ルトキハ意思主義ノ勢力ハ獨リ民事ノミニ限ラス犯罪ニ對シテモ漸ク其ノ萌芽ヲ發シ被告人ニシテ殺人行為ヲ施スモ若シ其ノ被害者カ已レノ期スル以外ノ者ナルトキハ有意犯罪ヲ以テ論スヘキニアラス何トナレハ被告ハ其ノ目的トスル以外ノ人ニ對シテハ毫モ殺意ヲ抱クナク至ク犯意ヲ阻却スルモノナレハナリト云フニ在リ今斯ル學說ノ本ニ於テ考ルトキハ第二百八十九條ノ所爲ヲ罰スルハ隨ニ犯罪所爲ノ例外ヲナスカ故ニ解釋法ノ原則ニ基キ同條ノ規定ハ最も狹隘ニ解セサル可ラサルノ結果本件ニ於ケル目的以外ノ人ニ對スル毒殺ノ所爲ニ對シテハ亦タ同條ヲ以テ處斷スルノ余地ナキニ至ル然リト雖モ現行刑法ハ折衷主義即チ道德ニ背キ併セテ社會ニ危害ヲ及スノ三點ヲ以

四三

謀殺未遂

三百七十五

刑罰ノ基本トナスカ故ニ苛モ此ノ二要件タニ存在セハ之レヲ以テ犯罪  
行為ト認ムル立法ノ主義ニ照ラシテ簡然スル所ナシ刑法第二百八十九條  
ノ因テ生スル所以亦タ茲ニ基クニ外ナラス  
則チ被告ニ於テ已ニ殺人ノ意思ヲ有シ之レニ依テ殺人ノ所爲ヲ行ヒ現ニ  
殺人ノ結果ヲ生スルニ於テハ假令其ノ被害者カ目的タル人ニアラストス  
ルモ道德ニ反シ社會ニ危害ヲ與フルノ點敢テ目的ノ人ヲ殺シタルト異ナ  
ラ所ナシトノ觀念ニ基キ目的ノ人ヲ殺シタルト同一ノ刑ヲ科スルニ外ナ  
ラズ果シテ然ラハ刑法第二百八十九條ノ所謂誤テノ意義ハ必ラス目的物  
ノ誤認トノミ解スヘキニアラス苟モ被告ノ意思已ニ人ヲ殺スニ存シ之ニ  
依テ殺人的行為ヲ施スニ當リ危害ノ及フ所單ニ目的タル人ノミニ止マラ  
ス其以外ノ人ニ對シテモ死傷ノ事實アルヲ想像スルニ足ルハ例令殺人  
ノ結果カ目的タル人以外ニ生シタリトスルモ之レニ對シ前記ノ法條ヲ適  
用スル敢テ法律ノ精神ニ違背スル所ナキヤ明カナリ

(參照) 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論ス(刑法第二百八十九條)  
第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告 人 蓬田文右衛門  
右謀殺未遂事件ノ控訴ニ付明治三十五年七月七日宮城控訴院カ言渡シタル判決中被告ハ有  
罪ノ部分ニ對シ原院檢察長川日享一ハ無罪ノ部分ニ對シ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法

第三百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
被告ノ上告趣意書ハ原院カ上告人ニ對シ控訴ヲ棄却スル旨判決シタルハ畢竟事實ヲ不法ニ  
確認シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナレハ上告人ハ到底之ニ服從スル能ハスト云フニ在リ  
○因テ按スルニ凡ソ上告ハ第二審判決ニ對シ法律ニ違背シタルモノナルコトヲ理由トスル  
トキニ限リ其申立ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ其理由ハ趣意書ヲ以テ明白ニ指示スヘキモ  
ノナルコトハ趣意書ヲ以テ上告ノ要件トセシ法意ニ依テ甚タ明白ナル所ナリ故ニ假令名ハ  
趣意書ナリトスルモ其記スル處其違法ナリトスル點ヲ指示セサルカ爲メ原判決ニ對シテ其  
論旨ノ理由アリヤ否ヤヲ説明スルコト能ハサル場合ニハ上告ノ要件タル趣意書ニアラサル  
ヤ明カナリ本件被告ノ上告趣意書ハ單ニ原院カ上告人ニ對シ控訴ヲ棄却スル旨判決シタル  
ハ畢竟事實ヲ不法ニ確認シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナレハ上告人ハ到底之ニ服從スル  
能ハスト云フノミニシテ其不法ノ點ヲ指示セサルカ故ニ其趣旨ノ理由アリヤ否ヤヲ説明ス  
ルニ由ナキヲ以テ右趣意書ハ趣意書ノ效ナキモノニシテ結局被告ノ上告ハ不適法ニシテ成  
立セサルモノトス  
原院檢察長上告趣意書ノ要旨ハ第一原判決ニ認メタル被告ノヨツニ對スル所爲ハ目的タル  
被害者蓬田キタニ對シ毒殺即謀殺行為ヲ行ヒ誤テ目的以外ナル相原ヨツテ殺害シテ遂ケサ  
リシモノナレハ其謀殺的誤殺未遂罪ヲ構成スルモノナルニ原院カ刑法第二百九十八條第二  
百九十二條第百十二條第百十三條ヲ適用セサルハ擬律ヲ錯誤ナリト云ヒ第二原判決ハ  
謀殺未遂

無罪ノ理由トシテ(1)誤殺罪ト雖モ尙モ殺害行為ヲ行フタルモノニアラサレハ成立スルモノニアラス(2)被告ハ相原ヨツニ對シ殺害行為ヲ行フタルモノ即チ毒物ヲ同人ニ與ヘタルモノニアラサルヲ以テ誤殺罪ヲ構成セスト説示セリ前段ノ殺害行為ナクハ誤殺罪ヲ構成セスト云フハ固ヨリ當然ナレトモ毒殺罪ニ於ケル加害行為ハ他ノ多クノ殺人罪ノ如ク直接兇器ヲ被害者ノ身體ニ加フヘキモノトハ自カラ其趣ヲ異ニシ犯人ノ行為トシテハ單ニ人ヲシテ毒物ヲ飲用セシムヘキ状態ニ之ヲ提供スレハ足ル決シテ其以上ノ行為ヲ要スルモノニアラス故ニ原判決認定ノ事實ハ以テ原判決ノ所謂殺害行為ヲ充實シテ餘リアルモノト云ハサルヲ得ス(明治二十八年十月十五日貴院判例參照) 又後段ノ所謂毒物ヲ被害者ニ提供シタル場合ニアラサレハ誤殺罪ヲ構成セストスルハ是レ一般ノ殺人罪ト誤殺罪トノ區別ヲ混同シタルモノニアラサルカ何トナレハ本件ノ被告ニシテ若シ直接其毒物ヲヨツニ供與シタルモノトセハ誤殺罪ニアラスシテ寧ロ一般ノ殺人罪ヲ構成スルモノナレハナリ已ニ然ラハ原判決ハ誤殺罪ノ成立要素ヲ無視シ其犯罪ニ關係ナキ事實ニ基キ罪ノ成否ヲ斷定シタルモノニシテ則チ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノト云ハサルヲ得スト云フニ在リ○因テ按スルニ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件ハ被告ニ於テ繼母キクヲ殺害センコトヲ決意シ明治三十四年十月二十日居村村社祭禮ニ際シ同社境内露店ヨリ餡餅五錢分ヲ購ヒ之ト外ニ如何ナル方法ニ因リ取得シタルハ詳カナラサルモ豫テ貯ヘ置キタル昇黍ト稱スル毒藥トヲ携ヘ同晚キクノ居住スル村内蓬田文三郎方ニ立越シ其時機ヲ見テ同家厠前ニ立出テ餡餅ニ致死量以上ノ昇黍

ヲ附着シ其宅内ニ立戻リキクニ對シ祭禮ノ土産ナリトテ其前ニ供シ頻リニ之ヲ値メタリシカ偶々同家ノ子守相原ヨツカ他ヨリ歸リ來リタル際ナルヲ以テキクハ先ツ右餡餅ノ内二個ヲヨツニ分與シタルニ因リヨツハ之ヲ食シタルニヨツハ間モナク煩悶シテ食物ヲ吐出シ云々ト云フニ在リテ被告ハ繼母キクヲ毒殺センコトヲ謀リキクノ住居セル蓬田文三郎方ニ於テ致死量以上ノ昇黍ヲ附着シタル餡餅ヲキクニ供シタルニ偶々同家ノ子守相原ヨツカ其場ニ歸リ合セキクヨリ右餡餅ヲ貰受ク之ヲ食シタルモ煩悶シテ吐出シタル爲メ遂ニ死ニ至ラサリシモノニシテ被告手自カラ相原ヨツニ右餡餅ヲ與ヘタルニハアラスト雖モヨツヲシテ之ヲ食セシムヘキ状態ニ措キタルモノナレハ刑法第二百九十八條ニ所謂謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ノ未遂犯ナルヲ論テ埃タズ然ルニ原院ハ證據ニ依リテ其事實ヲ認定シナカラ被告ニ對スル誤殺事實ハ法律上罪トナラサルモノナリトシテ無罪ヲ言渡シタルハ則チ擬律ノ錯誤ニシテ檢察長ノ上告ハ其理由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ被告ノ上告ハ之ヲ棄却ス又同法第二百八十七條ニ依リ原判決中無罪ニ關スル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

右

蓬田文右衛門

原判決ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告ノ相原ヨツニ對スル所爲ハ刑法第二百

謀殺未遂

九十八第二百九十三條ノ未遂犯ナルヲ以テ同法第百十五條ニ依リ既遂ノ刑ニ三等ヲ減シ有期徒刑ニ處スヘキ處右ハ被告カ已コ原院ニ於テ無期徒刑ニ處セラタレ謀殺未遂罪ノ餘罪ニ係リ輕キヲ以テ同法第二百二條ニ依リ之ヲ論セス  
明治三十五年十月三十日於大審院第二刑事部公延檢事與宮正治立會宣告ス

●詐欺取財事件

明治三十五年(也)第一四四〇號(破毀)  
明治三十五年十月十六日判決

判決要旨

一、金圓ヲ騙取セント圖リ已ニ辨濟ヲ終リタル證書ニ基キ訴訟ヲ提起シタルニ被害者ハ二重ノ請求ナルコトヲ知ルモ裁判所ニ出入スルコトヲ厭ヒ示談ノ上任意ニ一定ノ金圓ヲ拂渡シタルノ事實ハ欺罔若クハ恐喝ニ因リ財物ヲ領得シタルニアラサルヲ以テ詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノニアラス

二、貸金ノ二重取りヲナサンカ爲メ訴ヲ提起シタルノ所爲ハ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノナルモ示談ノ上任意ニ

其ノ實行ヲ中止シタルトキハ意外ノ障礙若クハ舛錯ニ依リ實行ヲ遂ケサルニアラサルヲ以テ未遂犯ヲ構成スルモノニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 新潟地方裁所長岡支部 第二審 東京控訴院  
被告人 土田福松

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十五年六月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スル處被告ノ上告趣意ハ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノナリ原院判決ノ要旨ニヨレハ被告ハ其所有地數筆ヲ桑原平次ニ賣渡シ代金ニ付テハ明治三十三年一月二十四日一切ノ計算ヲ遂ク其際曩キニ平次ニ交付シ置キタル地代金ノ受取書悉皆ヲ取戻シナカラ自己ニ受取り置キタル賣渡約定書ヲ平次ニ還付セス其約定書ノ己レカ手中ニ在ルヲ奇貨トシ茲ニ惡意ヲ生シ平次ヨリ金員ヲ騙取セント企テ明治三十三年十月一日平次ニ對シ右取殘シノ約定書ニ基キ「云々」合計六百六十七圓八十七錢八厘請求ノ訴訟ヲ新潟地方裁所長岡支部ニ提起シタルニ平次ハ該訴狀ノ送達ヲ受ク其二重ノ請求ナルヲ知ルモ己ニ代金受取證ヲ失